



令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

金抜設計書

工事番号 2025100800

---

工事名 令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

---

施工場所 加東市栄枝地内

---

---

兵庫県 加東市



令和7年度

農業水路等長寿命化・防災減災事業

イノコ谷池地区

令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事  
2025100800

# 金抜き設計書

(当初)















事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

名 称 (規 格)	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
直接工事費 (仮設工を除く)					
B1 構造物撤去工 洪水吐工	1.000	式			
B2・作業土工	1.000	式			
BA0101 掘削 (仮置)	21	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 1号
BA0102 積込 (ルーズ) (仮置残土処分)	3	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 2号
BA0105 土砂等運搬 (仮置残土処分)	3	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 3号
BA0105 土砂等運搬 (直接残土処分)	8	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 4号
BA0110 整地 (残土処分)	10	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 5号
BA0106 購入土 (築堤) 盛土・埋戻	23	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 6号
BA0106 路体 (築堤) 盛土・埋戻	10	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 7号
合 計					
B2・構造物取壊し工	1.000	式			
B02162 コンクリート構造物取壊し なし	7.4	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 8号
BA0201 殻運搬	7.4	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 9号
B02315 殻運搬・処理 (産業廃棄物処分費)	7.4	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 10号
合 計					
B1 法面保護工 堤体工	1.000	式			
B2・作業土工	1.000	式			
BA0101 掘削	53	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 11号
BA0103 床掘り	20	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 12号
000013 埋戻 (ランダム)	18.000	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 13号
BA0105 土砂等運搬 (直接残土処分)	53	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 14号
BA0110 整地	53	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 15号
000016 整形工 切土部	140.000	m <sup>2</sup>			歩A・単A B単 16号
BA0108 基面整正	15	m <sup>2</sup>			歩A・単A B単 17号
合 計					
B2・コンクリートブロック工	1.000	式			
B02301 コンクリートブロック張り	140	m <sup>2</sup>			歩A・単A B単 18号
B02111 裏込材 クラッシュ (C-40)	21	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 19号
BA0231 プレキャスト基礎ブロック プレキャスト基礎ブロック設置、あり	30	m			歩A・単A B単 20号
B02501 プレキャスト基礎ブロック (材料費)	30	m			歩A・単A B単 21号
BA0229 現場打基礎コンクリート 計上する、無し、養生なし、あり	3	m			歩A・単A B単 22号
BA0230 天端コンクリート 計上する、一般養生、あり	3	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 23号
BA0304 目地板	1	m <sup>2</sup>			歩A・単A B単 24号
合 計					
B2・止コンクリート工 現打ち (1号・2号)	1.000	式			
BA0302 コンクリート	0.6	m <sup>3</sup>			歩A・単A B単 25号
BA0303 型枠	4.1	m <sup>2</sup>			歩A・単A B単 26号
合 計					







事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
*** B単-1号 ***						
BA0101	掘削(仮置)					歩A
			m3		10.000	当たり算出
SA0101	SP 掘削 土砂,オープンカット,無し,無し,5.000m3未満,-,-,-	10.000	m3			S単 11号
	合計					
	単価					
*** B単-2号 ***						
BA0102	積込(ルーズ)(仮置残土処分)					歩A
			m3		10.000	当たり算出
SA0102	SP 積込(ルーズ) 土砂,平均施工幅1m以上2m未満	10.000	m3			S単 13号
	合計					
	単価					
*** B単-3号 ***						
BA0105	土砂等運搬(仮置残土処分)					歩A
			m3		10.000	当たり算出
SA0121	SP 土砂等運搬 標準,バツカの山積0.45m3(平積0.35m3),土砂(岩塊・玉石混り土含む),無し,0.5km以下	10.000	m3			S単 16号
	合計					
	単価					
*** B単-4号 ***						
BA0105	土砂等運搬(直接残土処分)					歩A
			m3		10.000	当たり算出
SA0121	SP 土砂等運搬 標準,バツカの山積0.45m3(平積0.35m3),土砂(岩塊・玉石混り土含む),無し,0.5km以下	10.000	m3			S単 16号
	合計					
	単価					
*** B単-5号 ***						
BA0110	整地(残土処分)					歩A
			m3		10.000	当たり算出
SA0161	SP 整地 敷均し(ルーズ),標準(10,000m3未満),無し,あり	10.000	m3			S単 19号
	合計					
	単価					
*** B単-6号 ***						
BA0106	購入土(築堤)盛土・埋戻					歩A
			m3		10.000	当たり算出
SA0141	SP 路体(築堤)盛土・埋戻 2.5m以上4.0m未満,-,-,あり	10.000	m3			S単 17号
SQ0005	SP バックホウ埋戻 土砂,平均施工幅1m以上2m未満	11.100	m3			S単 30号
P96002	コア土	11.100	m3			
	合計					
	単価					
*** B単-7号 ***						
BA0106	路体(築堤)盛土・埋戻					歩A
			m3		10.000	当たり算出
SA0141	SP 路体(築堤)盛土・埋戻 2.5m以上4.0m未満,-,-,あり	10.000	m3			S単 17号

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
SQ0005	SP バックホウ埋戻 土砂,平均施工幅1m以上2m未満	11.100	m3			S単 30号
	合計					
	単価					
	*** B単- 8号 ***					
B02162	コンクリート構造物取壊し なし		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
S02721	【構造物取壊し】 有筋,なし,機械,昼間施工,しない	10.000	m3			S単 6号
	合計					
	単価					
	*** B単- 9号 ***					
BA0201	殻運搬		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0221	SP 殻運搬 コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし,機械積込,無し,5.7km以下	10.000	m3			S単 20号
	合計					
	単価					
	*** B単- 10号 ***					
B02315	殻運搬・処理(産業廃棄物処分費)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
S02123	Co殻有筋処分 (株)西畑土建	10.000	m3			S単 5号
	合計					
	単価					
	*** B単- 11号 ***					
BA0101	掘削		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0101	SP 掘削 土砂,オープンカット,無し,無し,5.000m3未満,ー,ー,ー	10.000	m3			S単 11号
	合計					
	単価					
	*** B単- 12号 ***					
BA0103	床掘り		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0103	SP 床掘り 土砂,平均施工幅1m以上2m未満,無し,無し,あり	10.000	m3			S単 14号
	合計					
	単価					
	*** B単- 13号 ***					
000013	埋戻(ランダム)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SQ0005	SP バックホウ埋戻 土砂,平均施工幅1m以上2m未満	11.100	m3			S単 30号
SQ0040	タンバ突固め盛土 ランダム	10.000	m3			S単 32号
	合計					
	単価					
	*** B単- 14号 ***					
BA0105	土砂等運搬(直接残土処分)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名 称 (規 格)	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
SA0121	SP 土砂等運搬 標準,バツ抄山積0.45m3(平積0.35m3),土砂(岩塊・玉石混り土含む),無し,0.5km 以下	10.000	m3			S単 16号
	合 計					
	単 価					
	*** B単- 15号 ***					
BA0110	整地		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0161	SP 整地 敷均し(ルース),標準(10,000m3未満),無し,あり	10.000	m3			S単 19号
	合 計					
	単 価					
	*** B単- 16号 ***					
000016	整形工 切土部		m <sup>2</sup>		10.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
S01072	整形工(人力荒仕上げ) 土砂	10.000	m <sup>2</sup>			S単 1号
	合 計					
	単 価					
	*** B単- 17号 ***					
BA0108	基面整正		m <sup>2</sup>		10.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
SA0151	SP 基面整正 基面整正	10.000	m <sup>2</sup>			S単 18号
	合 計					
	単 価					
	*** B単- 18号 ***					
B02301	コンクリートブロック張り		m <sup>2</sup>		10.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
S02024	張ブロック工(空張) 目地モルタルを使用しない場合,厚さ12cm,あり	10.000	m <sup>2</sup>			S単 3号
	合 計					
	単 価					
	*** B単- 19号 ***					
B02111	裏込材 クラックラン(C-40)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
S02029	裏込工(ブロック張) クラックラン(C-40),なし	10.000	m3			S単 4号
	合 計					
	単 価					
	*** B単- 20号 ***					
BA0231	プレキャスト基礎ブロック プレキャスト基礎ブロック設置,あり		m		10.000 m	歩A 当たり算出
SA0275	SP プレキャスト基礎ブロック プレキャスト基礎ブロック設置,あり	10.000	m			S単 24号
	合 計					
	単 価					
	*** B単- 21号 ***					
B02501	プレキャスト基礎ブロック (材料費)		m		10.000 m	歩A 当たり算出

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
PQ9296	基礎ブロック 500型 L=2.0m 2000×500×450 (兵庫木十)	5.000	個			
	合計					
	単価					
	*** B単- 22号 ***					
BA0229	現場打基礎コンクリート 計上する,無し,養生工なし,あり		m		10.000	歩A 当たり算出
SA0273	SP 現場打基礎コンクリート 計上する,無し,養生工なし,あり,18-8-40(高炉)	1.630	m3			S単 22号
	合計					
	単価					
	*** B単- 23号 ***					
BA0230	天端コンクリート 計上する,一般養生,あり		m3		10.000	歩A 当たり算出
SA0274	SP 現場打天端コンクリート 計上する,一般養生,あり,18-8-40(高炉)	10.000	m3			S単 23号
	合計					
	単価					
	*** B単- 24号 ***					
BA0304	目地板		m <sup>2</sup>		10.000	歩A 当たり算出
SA0331	SP 目地板 30m2未満,計上する,目地板(瀝青質板) t=10mm	10.000	m <sup>2</sup>			S単 28号
	合計					
	単価					
	*** B単- 25号 ***					
BA0302	コンクリート		m3		10.000	歩A 当たり算出
SA0311	SP コンクリート 小型構造物,人力打設,計上する,-,一般養生,-,無し,-,18-8-40(高炉B) W/C65%	10.000	m3			S単 26号
	合計					
	単価					
	*** B単- 26号 ***					
BA0303	型枠		m <sup>2</sup>		10.000	歩A 当たり算出
SA0312	SP 型枠 一般型枠,小型構造物	10.000	m <sup>2</sup>			S単 27号
	合計					
	単価					
	*** B単- 27号 ***					
BA0101	掘削		m3		10.000	歩A 当たり算出
SA0101	SP 掘削 土砂,オープンカット,無し,無し,5,000m3未満,-,-,-	10.000	m3			S単 11号
	合計					
	単価					
	*** B単- 28号 ***					
BA0105	土砂等運搬(直接残土処分)		m3		10.000	歩A 当たり算出
SA0121	SP 土砂等運搬 標準,バツツ山積0.45m3(平積0.35m3),土砂(岩塊・玉石混り十含む),無し,0.5km	10.000	m3			S単 16号

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
	以下					
	合計					
	単価					
	*** B単- 29号 ***					
BA0110	整地		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0161	SP 整地 敷均し(φ-),標準(10,000m3未満),無し,あり	10.000	m3			S単 19号
	合計					
	単価					
	*** B単- 30号 ***					
BA0306	裏込砕石		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0302	SP 裏込砕石 計上する,あり,クラッシュ C-40 40~0mm(JIS規格品)	10.000	m3			S単 25号
	合計					
	単価					
	*** B単- 31号 ***					
000031	階段ブロック(材料費) 勾配1:2.0、W=1000		個		10.000 個	歩A 当たり算出
PQ9331	階段ブロック 勾配2.0 W=1000	10.000	個			
	合計					
	単価					
	*** B単- 32号 ***					
BA0219	平ブロック張(階段ブロック据付) 150kg/個以上,平ブロック各種,無し,-,無し,無し,無し,-,あり		m <sup>2</sup>		10.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
SA0263	SP 平ブロック張 150kg/個以上,平ブロック各種,無し,-,無し,無し,無し,-,あり	10.000	m <sup>2</sup>			S単 21号
	合計					
	単価					
	*** B単- 33号 ***					
BA0302	コンクリート(階段調整工)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0311	SP コンクリート 小型構造物,人力打設,計上する,-,一般養生,-,無し,-,18-8-40(高炉B) W/C65%	10.000	m3			S単 26号
	合計					
	単価					
	*** B単- 34号 ***					
BA0303	型枠(階段調整工型枠)		m <sup>2</sup>		10.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
SA0312	SP 型枠 一般型枠,小型構造物	10.000	m <sup>2</sup>			S単 27号
	合計					
	単価					
	*** B単- 35号 ***					
BA0103	床掘り		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0103	SP 床掘り 七砂,上記以外(小規模),-, -	10.000	m3			S単 15号

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
	合計					
	単価					
	*** B単- 36号 ***					
000036	埋戻 (ランダム)		m3		10.000	歩A 当たり算出
SQ0005	SP バックホウ埋戻 土砂,小規模(標準以外)	11.100	m3			S単 31号
SQ0040	タンバ突固め盛土 ランダム	10.000	m3			S単 32号
	合計					
	単価					
	*** B単- 37号 ***					
000037	鉄筋コンクリートU字溝 (材料費) U450		個		10.000	歩A 当たり算出
P12010	鉄筋コンクリートU形 450 長600mm	10.000	個			
	合計					
	単価					
	*** B単- 38号 ***					
000038	水路据付工		m		10.000	歩A 当たり算出
S05801	【排水構造物工】 U型側溝,昼間施工,L=600,60kgを超え300kg/個以下,なし,-,-,基礎碎石の施工 有り,再利用撤去を行なわない	10.000	m			S単 7号
	合計					
	単価					
	*** B単- 39号 ***					
BA0101	掘削 (盛土)		m3		10.000	歩A 当たり算出
SA0101	SP 掘削 土砂,オープンカット,無し,無し,5,000m3未満,-,-,-	10.000	m3			S単 11号
	合計					
	単価					
	*** B単- 40号 ***					
BA0101	掘削 (改良土)		m3		10.000	歩A 当たり算出
SA0101	SP 掘削 土砂,オープンカット,無し,無し,5,000m3未満,-,-,-	10.000	m3			S単 11号
	合計					
	単価					
	*** B単- 41号 ***					
BA0101	掘削 (敷砂利)		m3		10.000	歩A 当たり算出
SA0101	SP 掘削 土砂,オープンカット,無し,無し,5,000m3未満,-,-,-	10.000	m3			S単 11号
	合計					
	単価					
	*** B単- 42号 ***					
BA0101	掘削 (下流農地)		m3		10.000	歩A 当たり算出

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
SA0101	SP 掘削 土砂,オープンカット,有り,-,普通土30,000m3未満又は湿地軟弱土,-,-,-	10.000	m3			S単 12号
	合計					
	単価					
	*** B単- 43号 ***					
BA0105	土砂等運搬 (直接残土処分) (盛土・改良土・敷砂利)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0121	SP 土砂等運搬 標準,パツパツ山積0.45m3(平積0.35m3),土砂(岩塊・玉石混り土含む),無し,0.5km 以下	10.000	m3			S単 16号
	合計					
	単価					
	*** B単- 44号 ***					
BA0105	土砂等運搬 (大型土のう)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0121	SP 土砂等運搬 標準,パツパツ山積0.45m3(平積0.35m3),土砂(岩塊・玉石混り土含む),無し,0.5km 以下	10.000	m3			S単 16号
	合計					
	単価					
	*** B単- 45号 ***					
BA0110	整地 (盛土・改良土・敷砂利)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0161	SP 整地 敷均し(ﾙｰｽ),標準(10,000m3未満),無し,あり	10.000	m3			S単 19号
	合計					
	単価					
	*** B単- 46号 ***					
BA0110	整地 (大型土のう)		m3		10.000 m3	歩A 当たり算出
SA0161	SP 整地 敷均し(ﾙｰｽ),標準(10,000m3未満),無し,あり	10.000	m3			S単 19号
	合計					
	単価					
	*** B単- 47号 ***					
B18321	土のう (撤去)		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
S18002	大型土のう工 撤去,パツパツ,0m3,耐候性大型土のう袋(1年対応),なし,あり	1.000	袋			S単 10号
	合計					
	単価					
	*** B単- 48号 ***					
BA0818	暗渠排水管 (ホリシリン管撤去φ300) 撤去,波状管及び網状管,200~400mm		m		10.000 m	歩A 当たり算出
SA0874	SP 暗渠排水管 撤去,波状管及び網状管,200~400mm,-	10.000	m			S単 29号
	合計					
	単価					
	*** B単- 49号 ***					

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
B02162	コンクリート構造物取壊し なし		m3		10.000	歩A 当たり算出
S02721	【構造物取壊し】 有筋,なし,機械,昼間施工,しない	10.000	m3			S単 6号
	合計					
	単価					
	*** B単- 50号 ***					
BA0201	穀運搬		m3		10.000	歩A 当たり算出
SA0221	SP 穀運搬 コンクリート(鉄筋)構造物ととりこわし,機械積込,無し,5.7km以下	10.000	m3			S単 20号
	合計					
	単価					
	*** B単- 51号 ***					
B02315	穀運搬・処理(産業廃棄物処分費)		m3		10.000	歩A 当たり算出
S02123	Co穀有筋処分 (株)西畑土建	10.000	m3			S単 5号
	合計					
	単価					
	*** B単- 52号 ***					
B01505	流用土盛土		m3		10.000	歩A 当たり算出
S01082	締固工(振動ロー締固め2.5m未満) 築堤・埋戻,3.0~4.0ton,あり	10.000	m3			S単 2号
	合計					
	単価					
	*** B単- 53号 ***					
B15501	表土掘削・埋戻		m <sup>2</sup>		10.000	歩A 当たり算出
S15003	耕地復旧(表土掘削・埋戻)[表土掘削費・表土埋戻費] 表土埋戻,あり	10.000	m <sup>2</sup>			S単 8号
S15004	耕地復旧(耕耘)[積込・運搬費] 無	10.000	m <sup>2</sup>			S単 9号
	合計					
	単価					
	*** B単- 54号 ***					
000054	盛土管理試験費 現場透水係数測定法		式		1.000	歩A 当たり算出
PQ9502	現場透水係数測定法 [兵庫県土地改良技術基準]	1.000	回			
	合計					
	単価					

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単一 1号 ***						
S01072	整形工(人力荒仕上げ)		m <sup>2</sup>		10.000	歩A 当たり算出
	整形工(人力荒仕上げ) 土砂			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
R01003	1)土質区分	土砂				
	普通作業員		人			
	合計					算出数量 10.000 m <sup>2</sup>
	単価		m <sup>2</sup>			
*** S単一 2号 ***						
S01082	締固工(振動ロー締固め2.5m未満)		m <sup>3</sup>		1.000	歩A 当たり算出
	締固工(振動ロー締固め2.5m未満) 築堤・埋戻,3.0~4.0ton,あり			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)工種区分	築堤・埋戻				
	2)規格区分(ton)	3.0~4.0ton				
	3)長期割引単価区分	あり				
F04062	振動ロー[搭乗式・コンバインド型・超低・排対型(~3次)]		日			
P34029	質量3.0~4.0t 軽油		L	17.000		
R01021	運転手(特殊)		人			
	合計					算出数量 86.000 m <sup>3</sup>
	単価		m <sup>3</sup>			
*** S単一 3号 ***						
S02024	張ブロック工(空張)		m <sup>2</sup>		10.000	歩A 当たり算出
	張ブロック工(空張) 目地モルタルを使用しない場合,厚さ12cm,あり			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)施工区分	目地モルタルを使用しない場合				
	2)材料区分	厚さ12cm				
	3)長期割引単価区分(賃料機械)	あり				
P15004	張ブロック 厚12cm(500×500以下)質量210kg以上/m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>	10.000		
R01001	土木一般世話役		人			
R01007	ブロック工		人			
R01003	普通作業員		人			
F08061	バックホ[クロー型・クレーン・超低・排対型(~2011)]		日			
	標準バケット容量 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )吊能力2.9t					
R01021	運転手(特殊)		人			
P34029	軽油		L	16.000		
	合計					算出数量 10.000 m <sup>2</sup>
	単価		m <sup>2</sup>			
*** S単一 4号 ***						
S02029	裏込工(ブロック張)		m <sup>3</sup>		10.000	歩A 当たり算出
	裏込工(ブロック張) クラッシュラン(C-40),なし			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)裏込材区分	クラッシュラン(C-40)				
	2)単価0円(裏込材)	なし				
R01001	土木一般世話役		人			
R01003	普通作業員		人			
Y00004	諸雑費			0.160		
J03106	クラッシュラン C-40 40~0mm(JIS規格品)		m <sup>3</sup>	11.100		
	合計					算出数量 10.000 m <sup>3</sup>

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	単 価		m3			
	*** S単- 5号 ***					
S02123	Co葺有筋処分 Co葺有筋処分 (株) 西畑土建		m3		1.000 各単位	歩A 当たり算出
	1)地域資材単価コード 2)資材規格 3)単価の入力	(株) 西畑土建		基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
P96001	Co葺有筋処分 (株) 西畑土建	1.000	m3			
	合 計					算出数量 1.000 各単位
	単 価					
	*** S単- 6号 ***					
S02721	【構造物取壊し】 【構造物取壊し】 有筋,なし,機械,昼間施工,しない		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	1)作業区分 2)時間的制約 3)施工区分 I 4)施工区分 II 5)低騒音・低振動対策	有筋 なし 機械 昼間施工 しない		基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
A73511	構造物とりこわし工鉄筋構造物 制約無 機械 機労 昼間	1.000	m3			
	合 計					算出数量 1.000 m3
	単 価		m3			
	*** S単- 7号 ***					
S05801	【排水構造物工】 【排水構造物工】 U型側溝,昼間施工,L=600,60kgを超え300kg/個以下,なし,-,-,基礎 碎石の施工有り,再利用撤去を行なわない		m		1.000 [各単位]	歩A 当たり算出
	1)施工区分 I 2)施工区分 II 3)規格 I 4)規格 II 5)時間的制約 8)法面小段面 9)法面縦排水 10)再利用撤去の有無 11)基礎碎石の施工有無	U型側溝 昼間施工 L=600 60kgを超え300kg/個以下 なし - - 再利用撤去を行なわない 基礎碎石の施工有り		基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
A71102	排水構造物工 U型側溝 時間的制約無 L=600mm 60を超え300kg/個以下 機・労 昼間単価	1.000	m			
	合 計					算出数量 1.000 [各単位]
	単 価		[各単位]			
	*** S単- 8号 ***					
S15003	耕地復旧(表土掘削・埋戻)[表土掘削費・表土埋戻費] 耕地復旧(表土掘削・埋戻) 表土埋戻,あり		m <sup>2</sup>		1.000 日	歩A 当たり算出
	1)施工区分 2)長期割引単価区分(賃料機械)	表土埋戻 あり		基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
F08015	バックホ[クロー型・超低・排対型(〜2014)] 標準バケット容量 山積0.8m3 (平積0.6m3)		日			
P34029	軽油 バトール給油	78.000	L			
R01021	運転手(特殊)		人			
	合 計					算出数量 842.000 m <sup>2</sup>
	単 価		m <sup>2</sup>			

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単- 9号 ***						
S15004	耕地復旧(耕起)[積込・運搬費] 耕地復旧(耕起) 無		m <sup>2</sup>		100.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
	1)石礫、雑物除去	無				
M35062	農用トラクタ[乗用・ホイール型] 四輪駆動 22kw級(30PS)		時間			
P34029	軽油 バトール給油	0.800	L			
R01022	運転手(一般)		人			
Y00004	諸雑費 14%	0.140				
	合 計					算出数量 100.000 m <sup>2</sup>
	単 価		m <sup>2</sup>			
*** S単- 10号 ***						
S18002	大型土のう工 大型土のう工 撤去,バツカ約,0m3,耐候性大型土のう袋(1年対応),なし,あり		袋		1.000 日	歩A 当たり算出
	1)施工区分	撤去				
	2)施工機械区分	バツカ約				
	4)購入土材単価(m3当たり)					
	5)購入土材数量(m3/袋)	0.000m3				
	6)大型土のう袋区分	耐候性大型土のう袋(1年対応)				
	7)単価0円区分(大型土のう袋)	なし				
	8)長期割引単価区分(賃料機械)	あり				
R01001	土木一般世話役		人			
R01002	特殊作業員		人			
F08063	バツカ約[クロー型・クレーン・超低・排対型(～2014)] 標準バツカ約容量 山積0.8m3(平積0.6m3)吊能力2.9t		日			
P34029	軽油 バトール給油	78.000	L			
R01021	運転手(特殊)		人			
	合 計					算出数量 144.000 袋
	単 価		袋			
*** S単- 11号 ***						
SA0101	SP 掘削 SP 掘削 土砂,オープンカット,無し,無し,5,000m3未満,-,-,-		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	1)土質	土砂				
	2)施工方法	オープンカット				
	3)押土の有無	無し				
	4)障害の有無	無し				
	5)施工数量	5,000m3未満				
	6)火薬使用	-				
	7)破砕片除去の有無	-				
	8)集積押土の有無	-				
	単 価		m3			
*** S単- 12号 ***						
SA0101	SP 掘削 SP 掘削 土砂,オープンカット,有り,-,普通土30,000m3未満又は湿地軟弱土,-,-,-		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	1)土質	土砂				
	2)施工方法	オープンカット				
	3)押土の有無	有り				
	4)障害の有無	-				

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	5) 施工数量 6) 火薬使用	普通土30,000m3未満又は湿地軟弱土				
	7) 破砕片除去の有無	-				
	8) 集積押土の有無	-				
	単 価		m3			
	*** S単- 13号 ***					
SA0102	SP 積込(ルーズ) SP 積込(ルーズ) 土砂, 平均施工幅1m以上2m未満		m3		1,000 m3	歩A 当たり算出
				基本給時間: 8.0 深夜時間: 0.0 時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	超勤時間: 0.0 週休: 補正なし 制約作業時間: 0.0	
	1) 土質 2) 作業内容	土砂 平均施工幅1m以上2m未満				
	単 価		m3			
	*** S単- 14号 ***					
SA0103	SP 床掘り SP 床掘り 土砂, 平均施工幅1m以上2m未満, 無し, 無し, あり		m3		1,000 m3	歩A 当たり算出
				基本給時間: 8.0 深夜時間: 0.0 時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	超勤時間: 0.0 週休: 補正なし 制約作業時間: 0.0	
	1) 土質 2) 施工方法	土砂 平均施工幅1m以上2m未満				
	3) 土留方式の種類 4) 障害の有無 5) 長期割引単価区分	無し 無し あり				
	単 価		m3			
	*** S単- 15号 ***					
SA0103	SP 床掘り SP 床掘り 土砂, 上記以外(小規模), -, -		m3		1,000 m3	歩A 当たり算出
				基本給時間: 8.0 深夜時間: 0.0 時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	超勤時間: 0.0 週休: 補正なし 制約作業時間: 0.0	
	1) 土質 2) 施工方法	土砂 上記以外(小規模)				
	3) 土留方式の種類 4) 障害の有無	- -				
	単 価		m3			
	*** S単- 16号 ***					
SA0121	SP 土砂等運搬 SP 土砂等運搬 標準, バックホウ山積0.45m3(平積0.35m3), 土砂(岩塊・玉石混り土含む), 無し, 0.5km以下		m3		1,000 m3	歩A 当たり算出
				基本給時間: 8.0 深夜時間: 0.0 時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	超勤時間: 0.0 週休: 補正なし 制約作業時間: 0.0	
	1) 土砂等発生現場 2) 積込機種・規格 3) 土質 4) DID区間の有無 5) 運搬距離	標準 バックホウ山積0.45m3(平積0.35m3) 土砂(岩塊・玉石混り土含む) 無し 0.5km以下				
	単 価		m3			
	*** S単- 17号 ***					
SA0141	SP 路体(築堤)盛土・埋戻 SP 路体(築堤)盛土・埋戻 2.5m以上4.0m未満, -, -, あり		m3		1,000 m3	歩A 当たり算出
				基本給時間: 8.0 深夜時間: 0.0 時間的制約: なし 夜間制約作業時間: 0.0	超勤時間: 0.0 週休: 補正なし 制約作業時間: 0.0	
	1) 施工幅員 2) 施工数量	2.5m以上4.0m未満 -				
	3) 障害の有無 4) 長期割引単価区分	- あり				

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	単 価		m3			
	*** S単- 18号 ***					
SA0151	SP 基面整正		m <sup>2</sup>		1.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
	SP 基面整正 基面整正			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)整形区分	基面整正				
	単 価		m <sup>2</sup>			
	*** S単- 19号 ***					
SA0161	SP 整地		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP 整地 敷均し(ルース),標準(10,000m3未満),無し,あり			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)作業区分 2)施工数量 3)障害の有無 4)長期割引単価区分	敷均し(ルース) 標準(10,000m3未満) 無し あり				
	単 価		m3			
	*** S単- 20号 ***					
SA0221	SP 敷運搬		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP 敷運搬 コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし,機械積込,無し,5.7km以下			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)裁発生作業 2)積込工法区分 3)D1D区間の有無 4)運搬距離	コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし 機械積込 無し 5.7km以下				
	単 価		m3			
	*** S単- 21号 ***					
SA0263	SP 平ブロック張		m <sup>2</sup>		1.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
	SP 平ブロック張 150kg/個以上,平ブロック各種,無し,-,無し,無し,無し,-,あり			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)ブロックの質量 2)平ブロック規格 3)裏込材の有無 4)裏込材10m2当り使用量 5)遮水シートの有無 6)吸出し防止材の有無 7)連結金具の有無 8)連結金具10m2当り使用量 9)長期割引単価区分	150kg/個以上 平ブロック各種 無し - 無し 無し 無し - あり				
	単 価		m <sup>2</sup>			
	*** S単- 22号 ***					
SA0273	SP 現場打基礎コンクリート		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP 現場打基礎コンクリート 計上する,無し,養生工なし,あり,18-8-40(高炉)			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)生コンクリートの計上 2)基礎砕石の有無 3)養生工の種類 4)長期割引単価区分 5)生コンクリートの規格	計上する 無し 養生工なし あり 18-8-40(高炉)				

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	単 価		m3			
	*** S単- 23号 ***					
SA0274	SP 現場打天端コンクリート		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP 現場打天端コンクリート 計上する,一般養生,あり,18-8-40(高炉)			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)生コンクリートの計上 2)養生工の種類 3)長期割引単価区分 4)生コンクリート規格	計上する 一般養生 あり 18-8-40(高炉)				
	単 価		m3			
	*** S単- 24号 ***					
SA0275	SP プレキャスト基礎ブロック		m		1.000 m	歩A 当たり算出
	SP プレキャスト基礎ブロック プレキャスト基礎ブロック設置,あり			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)作業区分 2)長期割引単価区分	プレキャスト基礎ブロック設置 あり				
	単 価		m			
	*** S単- 25号 ***					
SA0302	SP 裏込砕石		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP 裏込砕石 計上する,あり,クワツヤラン C-40 40~0mm(JIS規格品)			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)砕石の計上 2)長期割引単価区分 3)規格区分	計上する あり クワツヤラン C-40 40~0mm(JIS規格品)				
	単 価		m3			
	*** S単- 26号 ***					
SA0311	SP コンクリート		m3		1.000 m3	歩A 当たり算出
	SP コンクリート 小型構造物,人力打設,計上する,-,一般養生,-,無し,-,18-8-40(高炉B) W/C65%			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)構造物種別 2)打設工法 3)コンクリートの計上 4)設計日打設量 5)養生工の種類 6)圧送管延長距離区分 7)現場内小運搬の有無 8)打設高さ,水平打設距離 10)規格区分	小型構造物 人力打設 計上する - 一般養生 - 無し - 18-8-40(高炉B) W/C65%				
	単 価		m3			
	*** S単- 27号 ***					
SA0312	SP 型枠		m <sup>2</sup>		1.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
	SP 型枠 一般型枠,小型構造物			基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)型枠の種類 2)構造物の種類	一般型枠 小型構造物				
	単 価		m <sup>2</sup>			

事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	*** S単- 28号 ***					
SA0331	SP 目地板 SP 目地板 30m2未満, 計上する, 目地板(瀝青質板) t=10mm		m <sup>2</sup>		1.000 m <sup>2</sup>	歩A 当たり算出
				基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)1工事当り使用量 2)目地板の計上 3)規格区分	30m2未満 計上する 目地板(瀝青質板) t=10mm				
	単 価		m <sup>2</sup>			
	*** S単- 29号 ***					
SA0874	SP 暗渠排水管 SP 暗渠排水管 撤去, 波状管及び網状管, 200~400mm, -		m		1.000 m	歩A 当たり算出
				基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)作業区分 2)管種別 3)呼び径 4)継手材料費	撤去 波状管及び網状管 200~400mm -				
	単 価		m			
	*** S単- 30号 ***					
SQ0005	SP バックホウ埋戻 SP バックホウ埋戻 土砂, 平均施工幅1m以上2m未満		m <sup>3</sup>		1.000 m <sup>3</sup>	歩A 当たり算出
				基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)土質 2)作業内容	土砂 平均施工幅1m以上2m未満				
	単 価		m <sup>3</sup>			
	*** S単- 31号 ***					
SQ0005	SP バックホウ埋戻 SP バックホウ埋戻 土砂, 小規模(標準以外)		m <sup>3</sup>		1.000 m <sup>3</sup>	歩A 当たり算出
				基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)土質 2)作業内容	土砂 小規模(標準以外)				
	単 価		m <sup>3</sup>			
	*** S単- 32号 ***					
SQ0040	タンバ突固め盛土 タンバ突固め盛土 ランダム		m <sup>3</sup>		10.000 m <sup>3</sup>	歩A 当たり算出
				基本給時間:8.0 深夜時間:0.0 時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	超勤時間:0.0 週休:補正なし 制約作業時間:0.0	
	1)盛土区分	ランダム				
R01002	特殊作業員		人			
R01003	普通作業員		人			
Y00004	雑品 7%		0.070			
	合 計					算出数量 10.000 m <sup>3</sup>
	単 価					



事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区
工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
【SP】 M01075	ブローチ「湿地・排対型(3次)」 20t級		供用日			単A
【SP】 M02032	バックホウ[クロー型・排対型(1次)] 標準バケット容量 山積0.45m3(平積0.35m3)		供用日			単A
【SP】 M02065	バックホウ[クロー型・後方超小旋回型・排対型(2次)] 標準バケット容量 山積0.28m3(平積0.2m3)		供用日			単A
【SP】 M02082	バックホウ[クロー型(超低騒音型)・排対型(3次)] 標準バケット容量 山積0.8m3(平積0.6m3)		供用日			単A
【SP】 M02349	小型バックホウ[クロー型・排対型(2次)] 標準バケット容量 山積0.13m3(平積0.10m3)		供用日			単A
【SP】 M03005	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級		供用日			単A
M35062	農用トラクタ[乗用・ホイール型] 四輪駆動 22kw級(30PS)		時間			単A
	合 計					
F04062	振動ロー[搭乗式・コンバインド型・～超低・排対型(～3次)] 質量3.0～4.0t		日			単A
【SP】 F04062	振動ロー[搭乗式・コンバインド型・～超低・排対型(～3次)] 質量3.0～4.0t		日			単A
	小 計					
F08015	バックホウ[クロー型・～超低・排対型(～2014)] 標準バケット容量 山積0.8m3(平積0.6m3)		日			単A
【SP】 F08015	バックホウ[クロー型・～超低・排対型(～2014)] 標準バケット容量 山積0.8m3(平積0.6m3)		日			単A
	小 計					
【SP】 F08016	バックホウ[クロー型・後方超小旋回型・～超低・排(～2014)] 標準バケット容量 山積0.28m3(平積0.2m3)		日			単A
【SP】 F08017	バックホウ[クロー型・後方超小旋回・～超低・排対(～2014)] 標準バケット容量 山積0.45m3(平積0.35m3)		日			単A
F08061	バックホウ[クロー型・クレーン・～超低・排対型(～2011)] 標準バケット容量 山積0.45m3(平積0.35m3) 吊能力2.9t		日			単A
F08063	バックホウ[クロー型・クレーン・～超低・排対型(～2014)] 標準バケット容量 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t		日			単A
【SP】 F08063	バックホウ[クロー型・クレーン・～超低・排対型(～2014)] 標準バケット容量 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t		日			単A
	小 計					
	合 計					



# 1. 法面保護工

## 数量総括表

## 法面保護工

## 総括表

工種	細目	算式	単位	数量
<b>作業土工</b>				
掘削			m3	53
床掘			m3	20
埋戻	タンパ		m3	18
土砂等運搬	直接残土処分		m3	53
整地	残土処分		m3	53
整形工 (荒仕上げ)	切土		m2	140
基面整正			m2	15
<b>法面保護工</b>				
張りブロック	二次製品500*500		m2	140
裏込材	C-40		m3	21
<b>基礎工</b>				
基礎ブロック	L=2000		m	30
無筋コンクリー	18-8-40BB養生含		m	3
<b>天端コンクリート工</b>				
無筋コンクリー	18-8-40BB養生含		m3	3
目地材			m2	1
<b>止コンクリート工</b>				
無筋コンクリー	18-8-40BB養生含		m3	0.6
型枠	一般型枠		m2	4.1

## 2.構造物撤去工(既設洪水吐)

### 数量総括表



### 3. 仮 設 工

#### 数量総括表

イノコ谷池 仮設工 数量 総括表

工種	種別	細別	数量	単位	算式	適要
仮設道路工						
	掘削	盛土	360	m3	360.9	
		改良土	280	m3	284.9	
		敷碎石 t=10cm	23	m3	23.3	
		下流農地盛土	95	m3	95.2	
	土砂等運搬	盛土・改良土・敷砂利 地区内処分	670	m3	669.1	
		大型土のう51袋	43	m3	42.5	
	整地	盛土・改良土・敷砂利 地区内処分	670	m3	669.1	
		大型土のう51袋	43	m3	42.5	
	大型土のう撤去		51	袋	51	
仮廻し水路工						
	ポリエチレン管300撤去		25	m	24.6	
	コンクリート構造物取壊し	ヒューム管400 L=15.0m	0.8	m3	0.8	
	Co殻運搬・処分	ヒューム管400 L=15.0m	0.8	m3	0.8	
農地復旧工						
	流用土盛土		890	m3	887.3	
	耕地復旧	地番：203-1・ 202・201・197	635	m2	634.6	

## 4. 附帯工

### 数量総括表



## 1. 法面保護工

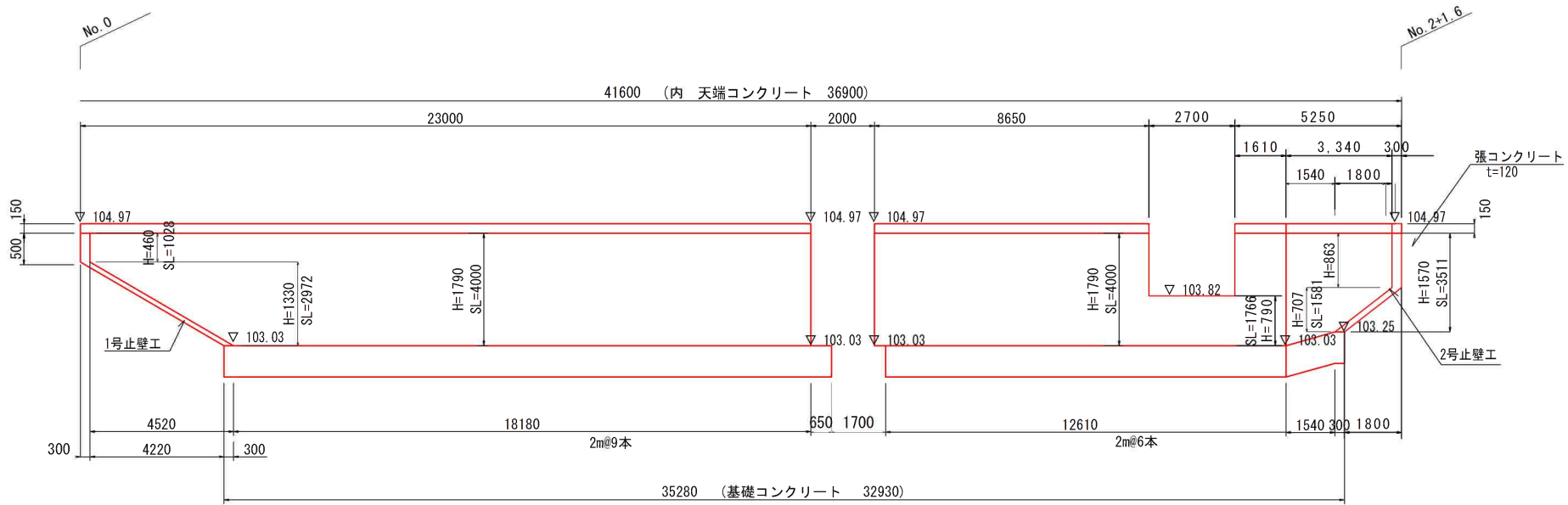
法面保護工 集 計 表											
工 種	細 目	張りブロック部		基礎		止コンクリート		天端コンクリート	合計	丸め	単位
		張りブロック	張りコン	二次製品	現打ち	1号	2号				
<b>作業土工</b>											
	掘削	42.2				0.4	0.3	10.0	52.90	53	m3
	床掘			20.1					20.12	20	m3
	埋戻	タンバ		10.5				7.1	17.58	18	m3
	土砂等運搬	直接残土処分	42.2		0.5	0.4	0.3	10.0	53.40	53	m3
	整地	残土処分	42.2		0.5	0.4	0.3	10.0	53.40	53	m3
	整形工 (荒仕上げ)	切土	140.6						140.58	140	m2
	基面整正			14.8					14.82	15	m2
<b>法面保護工</b>											
	張りブロック	二次製品 500*500	140.6						140.6	140	m2
	無筋コンクリート	18-8-25BB 養生含							0	0	m3
	裏込材	C-40	21.1						21.1	21	m3
	芝付工								0	0	m2
<b>基礎工</b>											
	基礎ブロック	L=2000		30.0					30.0	30	m
	無筋コンクリート	18-8-40BB 養生含			2.9				2.9	3	m
<b>天端コンクリート工</b>											
	無筋コンクリート	18-8-40BB 養生含						2.7	2.7	3	m3
	目地材							0.5	0.5	1	m2
<b>止コンクリート工</b>											
	無筋コンクリート	18-8-40BB 養生含				0.3	0.3		0.6	0.6	m3
	型枠	一般型枠				2.2	1.9		4.1	4.1	m2

張りブロック面積計算

	上部延長	下部延長	斜長	面積	備考
1	4.52	4.52	1.028	4.65	
2	4.52	0.00	2.972	6.72	
3	18.18	18.18	4.00	72.72	
4	8.65	8.65	4.00	34.60	
5	2.70	2.70	1.770	4.78	
6	1.61	1.61	4.00	6.44	
7	1.54	1.54	3.755	5.78	$(3.511+4.0)/2=3.755$
8	1.80	1.80	1.93	3.47	
9	1.80	0.00	1.58	1.42	
計	45.32	39.00		140.58	

天端コンクリート延長 L= 36.90 m

基礎コンクリート延長 L= 二次製品 18+12=30 m  
 18/2=9個(2m)  
 12/2=6個(2m)  
 現場打 0.48+2.45=2.93m



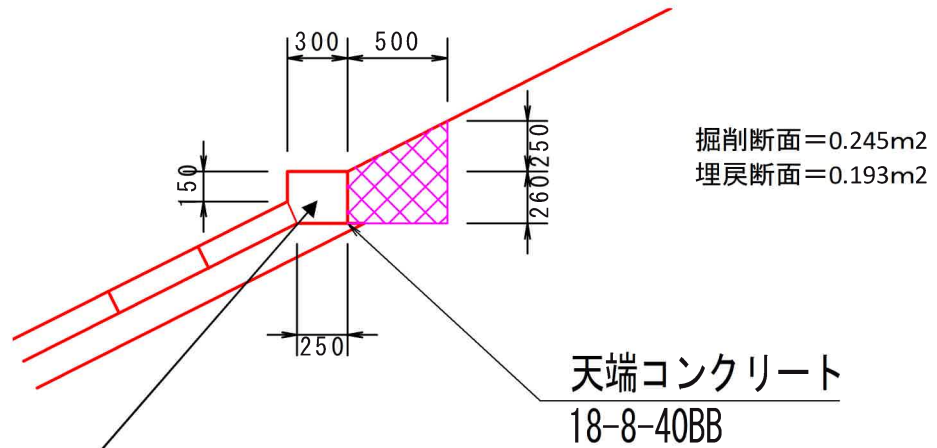








## 天端コンクリート



【断面積】  
 $0.30 \times 0.26 = 0.078$   
 $0.05 \times 0.11 = 0.0055$  □  
 $0.078 - 0.0055 = 0.0725$   
 $\approx 0.073$

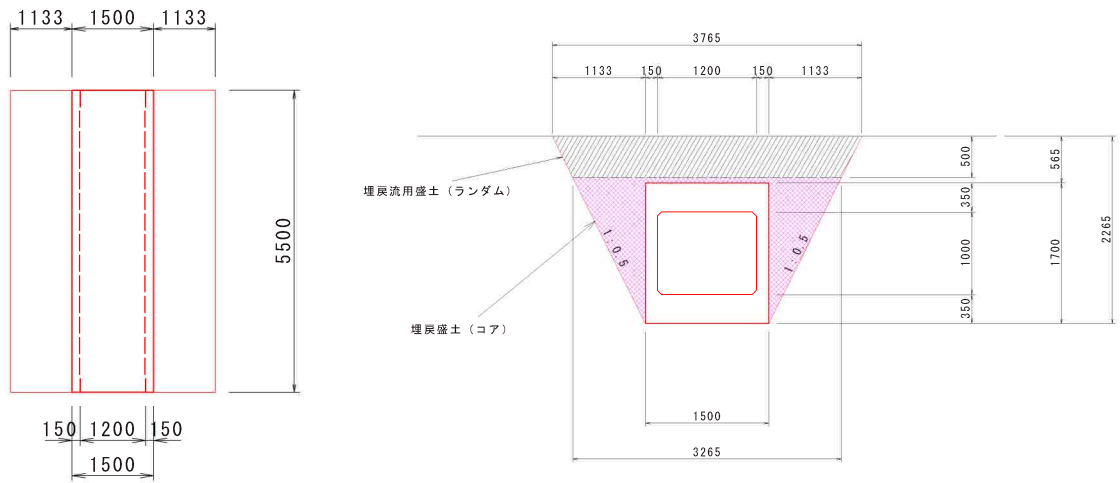
天端コンクリートは、目地材(エラストイト)を5mに1箇所設置する。

工 種	細 目	算 式	単 位	数 量	
土 工	掘削	$0.245 \times 36.90 \times (1/0.9)$	$=$	10.05 m <sup>3</sup>	10.0
	埋戻 (タンバ)	$0.193 \times 36.90$	$=$	7.12 m <sup>3</sup>	7.1
	土砂等運搬	土工流用表より		m <sup>3</sup>	10.0
	整地	土工流用表より		m <sup>3</sup>	10.0
無筋コンクリート	18-8-40BB	$0.073 \times 36.90$	$=$	2.69 m <sup>3</sup>	2.7
養 生	一般養生 無筋	[コンクリート数量に同じ]			
型 枠		[コンクリート打設に含む]			
目 地 材	エラストイト t=10mm	$(36.90/5) \times 0.073$	$=$	0.54 m <sup>2</sup>	0.5

## 2. 構造物撤去工(既設洪水吐)



作業土工(既設洪水吐撤去)

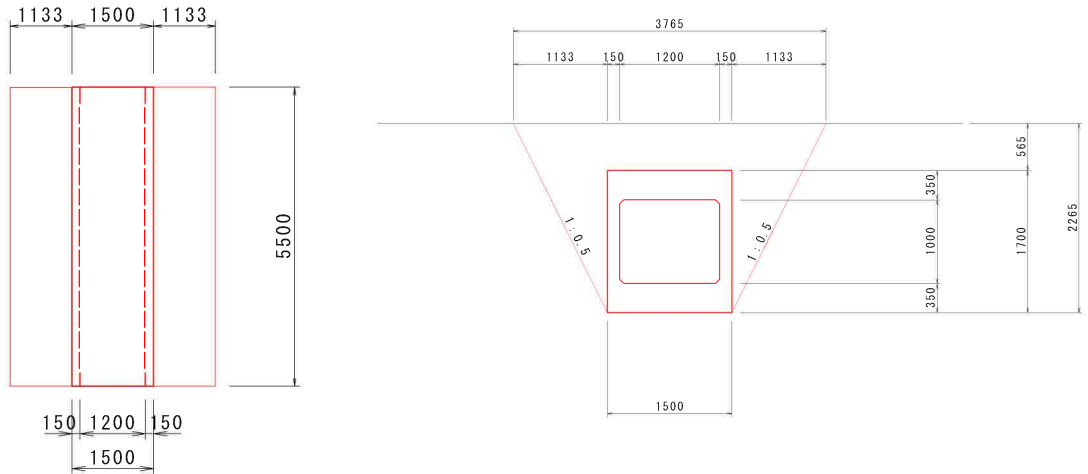


単位数量の計算

一式当たり

名称	規格	計算式	単位	数量
作業土工				
掘削 (仮置)		$(3.77+1.50) * 2.27/2 - 1.50 * 1.70 * 5.50 * (1/0.9)$	m3	21.0
積込 (ルーズ)	(仮置残土処分)	土工流用表より	m3	2.7
土砂等運搬	(仮置残土処分)	土工流用表より	m3	2.7
土砂等運搬	(直接残土処分)	土工流用表より	m3	7.5
整地	残土処分	土工流用表より	m3	10.2
コア盛土	ハンドガイド	$(3.27+1.50) * 1.77/2 * 5.50$	m3	23.2
ランダム盛土	ハンドガイド	$(3.77+3.27) * 0.5/2 * 5.50$	m3	9.7
購入土	コア土	$23.20 * (1/0.9)$	m3	25.8

コンクリート構造物取壊し工(既設洪水吐撤去)



単位数量の計算

一式当たり

名 称	規 格	計 算 式	単 位	数 量
コンクリート構造物取壊し				
構造物取壊し	鉄筋 既設構造物	$(1.50 \times 1.70 - 1.20 \times 1.00) \times 5.50$	m <sup>3</sup>	7.4
Co殻運搬処分	鉄筋 (株) 西畑土建	[構造物取壊数量に同じ]	m <sup>3</sup>	7.4

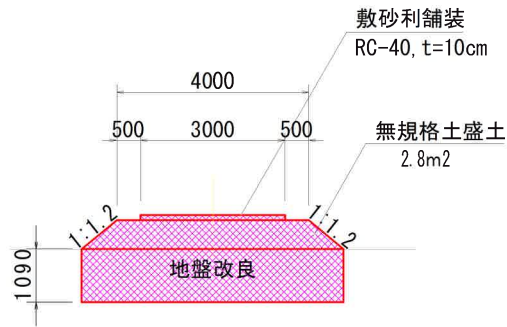
### 3. 仮 設 工

仮設工 土工集計表

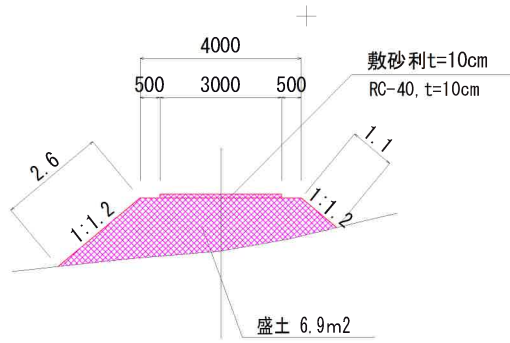
工種	細目	仮設道路工		単位	合計
仮設道路工					
掘削	盛土	360.9		m3	360.9
	改良土	284.9		m3	284.9
	敷碎石 t=10cm	23.3		m3	23.3
	下流農地盛土	95.2		m3	95.2
土砂等運搬	盛土・改良土・敷砂利 地区内処分	669.1		m3	669.1
	大型土のう51袋	42.5		m3	42.5
整地	盛土・改良土・敷砂利 地区内処分	669.1		m3	669.1
	大型土のう51袋	42.5		m3	42.5
大型土のう撤去		51		袋	51
仮廻し水路工					
ポリエチレン管300撤去		24.6		m	24.6
コンクリート構造物取壊し	ヒューム管400 L=15.0m	0.8		m3	0.8
Co殻運搬・処分	ヒューム管400 L=15.0m	0.8		m3	0.8
農地復旧工					
流用土盛土		887.3	土工流用表による	m3	887.3
耕地復旧	地番：203-1・ 202・201・197	634.61		m2	634.6



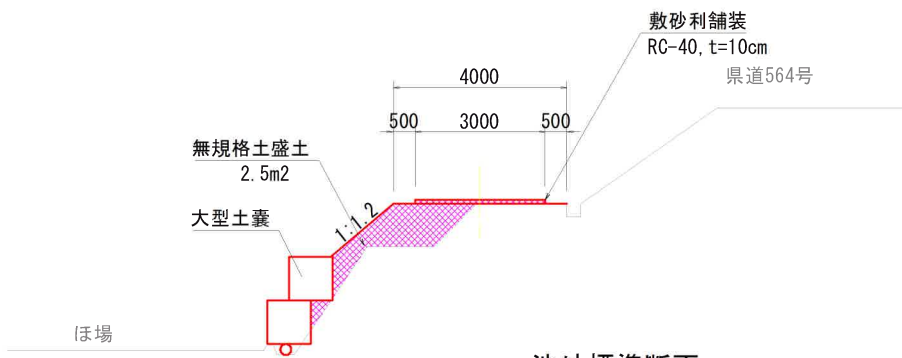
### 池内仮設道路



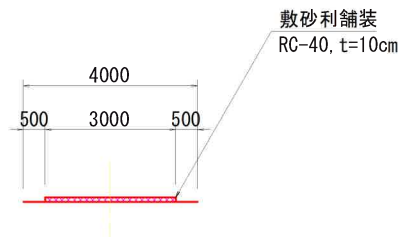
### 仮設道路(B)



### 乗入部



### 池外標準断面



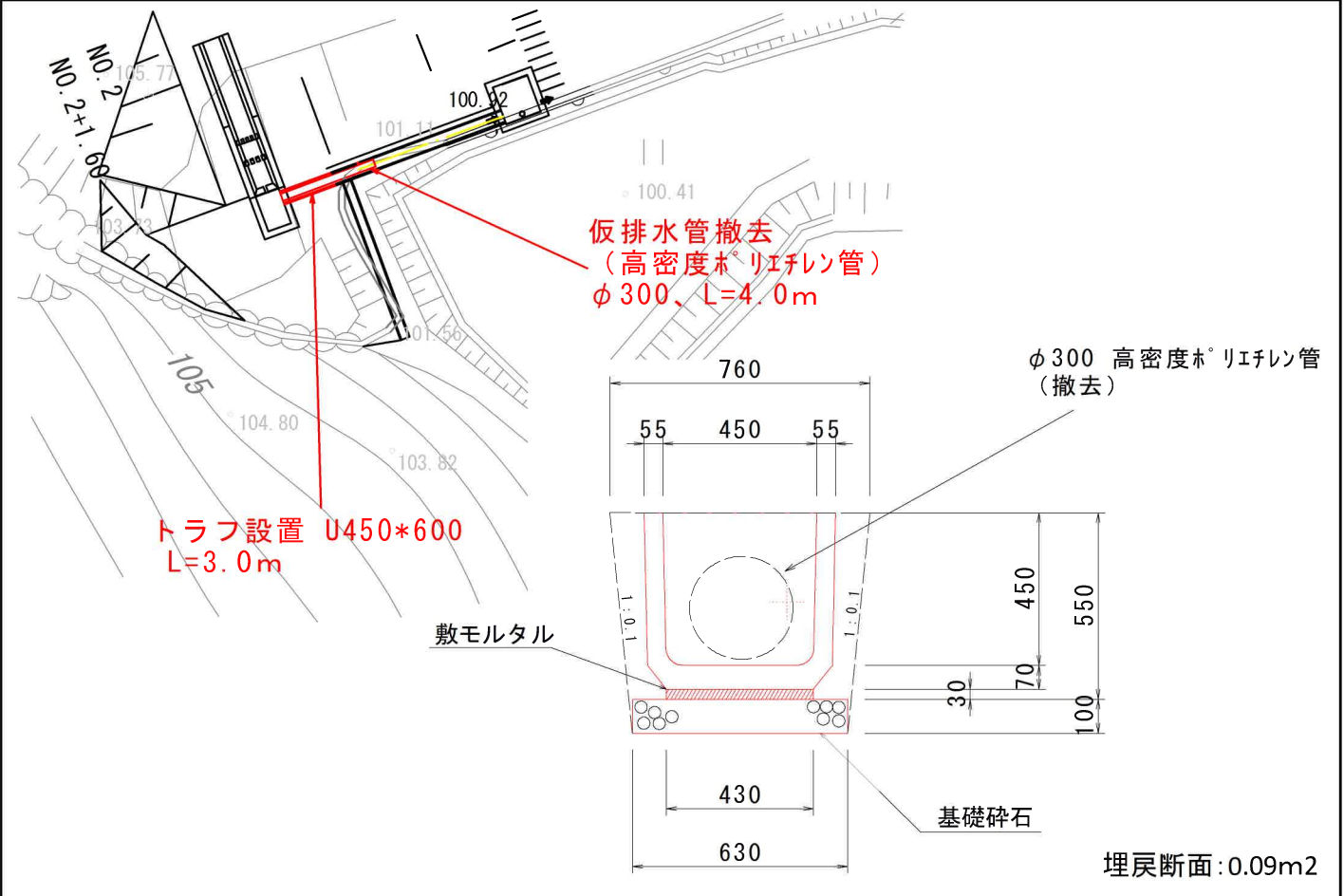
撤去

## 4. 附 帶 工



水路設置工

L=3.0m

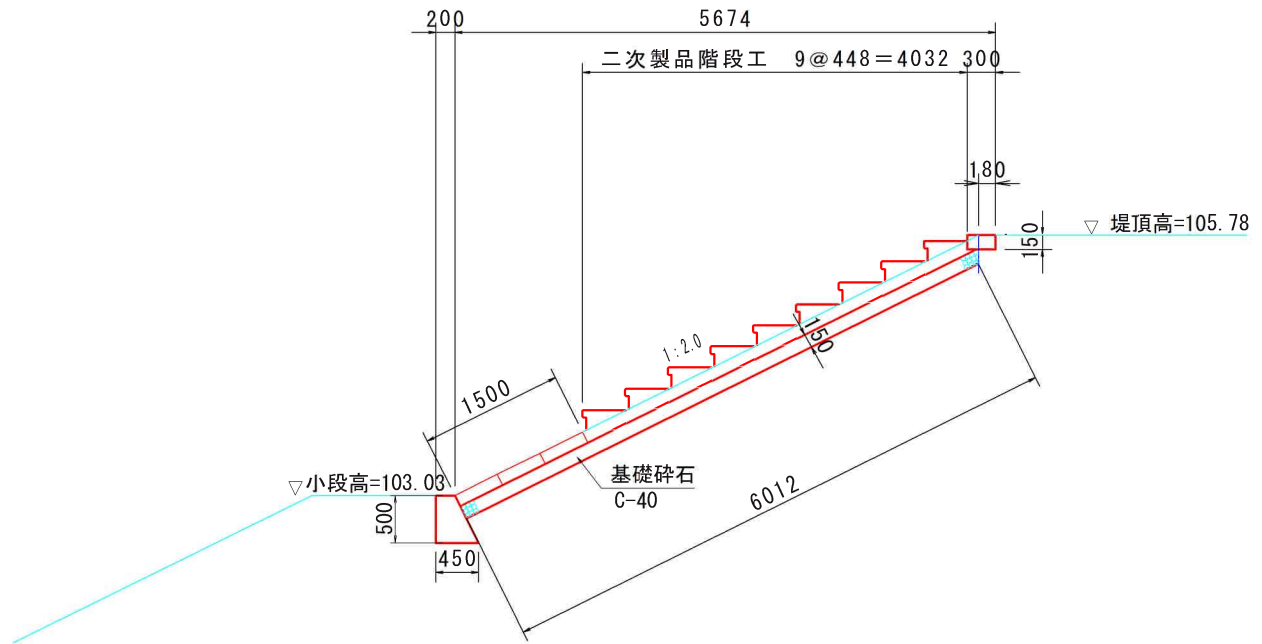


単位数量の計算

一式当たり

名称	規格	計算式	単位	数量
作業土工	床掘	$( (0.76+0.63) * 0.65 / 2 - 3.14 * 0.15 * 0.15 ) * 3.00 * (1/0.9)$	m <sup>3</sup>	1.3
	埋戻	$0.09 * 3.00$	m <sup>3</sup>	0.3
鉄筋コンクリートU字溝	U450	$3.00 / 0.6$	個	5
水路据付		3.00	m	3.0
敷モルタル	t=20	[水路据付に含む]		
基礎砕石	C-40	[水路据付に含む]		

階段工（洪水吐前法部）



単位数量の計算

1式当たり

名称	規格	計算式	単位	数量
作業土工	掘削	$(6.01-1.50) * 1.00 * 0.27 + 0.18 * 0.15 * 1.00 * (1/0.9)$	m3	1.2
	土砂等運搬	土工流用表より	m3	1.2
	整地	土工流用表より	m3	1.2
裏込材	C-40	$(6.01-1.50) * 1.00 * 0.15$	m3	0.7
階段ブロック	W=1000 勾配1:2.0	9.000	個	9
階段ブロック据付		$(6.01-1.50) * 1.00$	m2	4.5
コンクリート (階段調整部)	18-8-40BB	$0.30 * 0.15 * 1.00$	m3	0.1
型枠 (階段調整部)	一般型枠	$1.00 * 0.15 * 2 + 0.15 * 0.30 * 2$	m2	0.4

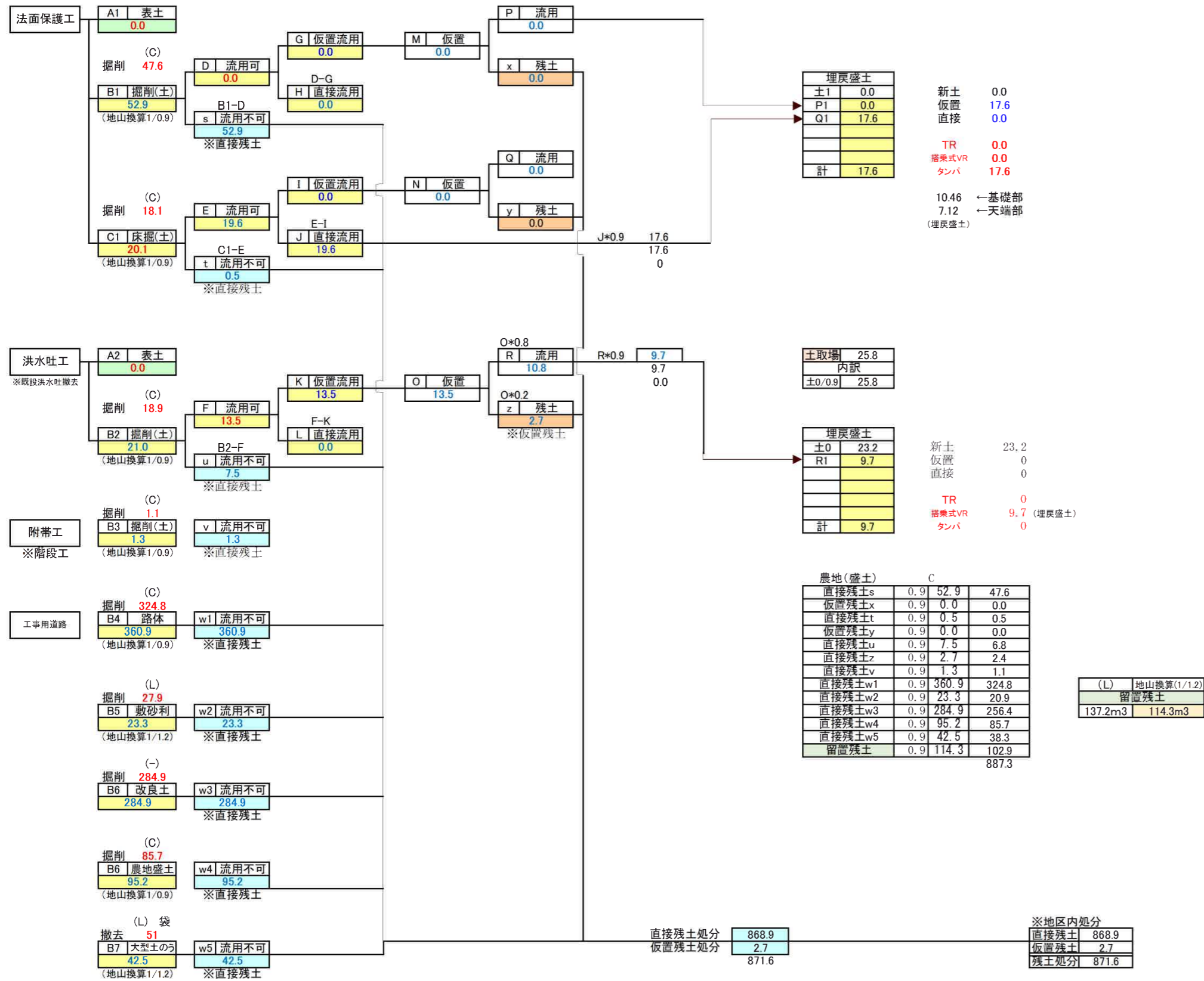
イノコ谷池 土工流用計画表

[掘削]

[仮置]

[盛土]

[土取土捨]



## ため池盛土管理試験 数量計算書

盛土高(m)	2.3	既設洪水吐撤去
盛土長(m)	7.0	
盛土量(m <sup>3</sup> )	60	コア

項目	区分	含水量試験	締固密度の測定	透水係数の測定	備考
		現場含水比測定 (フライパン法)	現場密度測定法 (突き砂置換法)	現場透水係数測定法	
施工管理基準	コアー ランダム	盛土作業する日 すべて	盛土高さ1m上がる毎に概ね40m間隔で1回		
試験盛土	コアー ランダム				3箇所× 2点
堤体盛土	コアー ランダム			1	
洪水吐止水壁	コアー				必要に 応じて
底樋止水壁	コアー				
小計		0	0	1	
諸経費込み回数	補正	△ 3	△ 3		
合計		-3	-3	1	

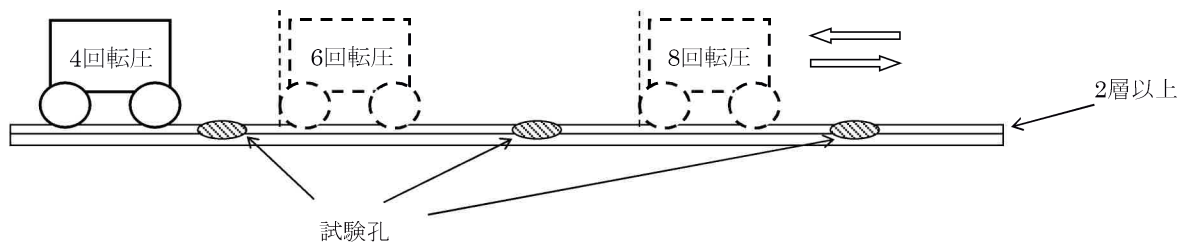
※実態と合わない場合は、適宜、修正する。原則、当初計上のうえ変更しない。

諸経費込み回数 農林水産省土木工事施工管理基準【品質管理】 堤防工(1)盛土(施工)

土の含水比試験 (JIS A 1203)	土量5,000m <sup>3</sup> 以上 : 1,000m <sup>3</sup> につき1回
砂置換法による土の密度試験 (JIS A 1214)	土量5,000m <sup>3</sup> 未満 : 延長200mにつき1回、測定箇所は横断方向に3点

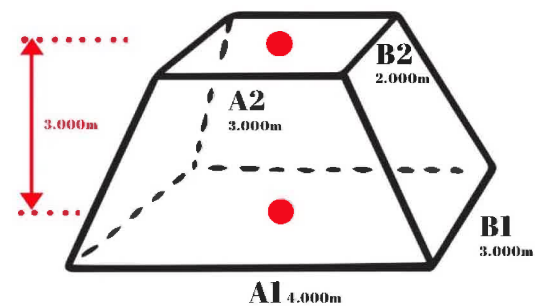
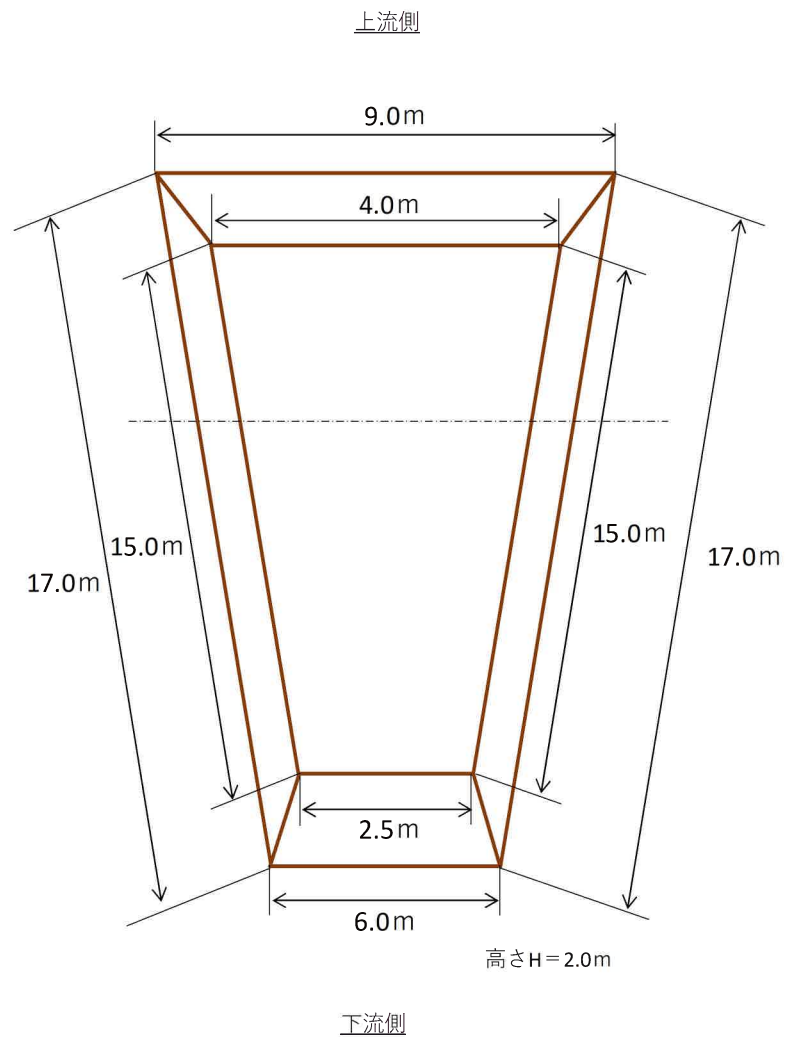
盛土作業日数 歩掛等の作業能力から盛土日数を算出

「盛土試験方法の例」



※ 転圧回数は土により増減させる。

留置残土量



オベリスク公式より

$$V = h/6 * (A1 * B2 + A2 * B1 + 2 * (A1 * B1 + A2 * B2))$$

$$V = 2.0/6 * (6.0 * 15.0 + 2.5 * 17.0 + 2 * (6.0 * 17.0 + 2.5 * 15.0))$$

$$= 137.2 \text{ m}^3$$

令和7年度  
農業水路等長寿命化・防災減災事業  
イノコ谷池地区ため池改修工事

仕 様 書

（ 共通仕様書  
特別仕様書 ）

## 目 次

土木工事共通仕様書	1
農業農村整備事業共通仕様書	2～13
ため池改修工事特記仕様書	14～34
ため池工事施工管理基準	35～49

# 土木工事共通仕様書

## 第1条 適用

本工事は、農林水産省農村振興局整備部設計課 監修「土木工事共通仕様書」(最終改正)に準じるものとし、下記事項について読み替え施行するものとする。

- (1) 1-1-1 適用 1. 「土木工事共通仕様書、施設機械工事等共通仕様書(以下「共通仕様書」という。)は農林水産省所管の国営土地改良事業、国営海岸保全事業及び国営地すべり対策事業に関する」とあるを「土木工事共通仕様書、施設機械工事等共通仕様書(以下「共通仕様書」という。)は、兵庫県所管の農業農村整備事業、海岸保全事業及び地すべり対策事業に関する」と読み替える。
- (2) 1-1-1 適用 第2項を削除する。
- (3) 1-1-2 用語の定義 第1項「監督職員」を「監督員」と読み替える。
- (4) 1-1-30 施工管理中、「土木工事施工管理基準(16農振第2232号平成17年3月28日農村振興局長通知)」を「土木工事施工管理基準(農整第1226号平成27年4月1日付け農地整備課長通知)」と読み替える。
- (5) 契約書についての各条項は、兵庫県の使用する契約書に対応する各条項に読み替えるものとする。
- (6) 提出書類の様式等については、農林水産省農村振興局編「土木工事共通仕様書」記載の様式を準用する。

# 農業農村整備事業共通仕様書

## 第1章 総則

### 第1条 (適用)

1. 本仕様書は、加東市が施工する農業農村整備事業に関する工事に適用する。
2. 本仕様書に記載された事項は、農林水産省農村振興局整備部設計課監修「土木工事共通仕様書」(発注時点最新版)及び「施設機械工事等共通仕様書」(発注時点最新版)に優先するものとする。  
なお、共通仕様書の最新版については、以下の農林水産省 HP を参照すること。

[http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kyotu\\_siyosyo/](http://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kyotu_siyosyo/)

### 第2条 (建設副産物対策)

1. 本条の対象は、建設リサイクル法第9条第1項に定める「対象建設工事」となる解体工事を含む場合とする。
2. 建設資材廃棄物の産業廃棄物処分業者への引渡しが完了したときは、「産業廃棄物等の不適正な処理の防止に関する条例」(平成15年3月17日兵庫県条例第23号)第16条の3に基づき、建設資材廃棄物引渡完了報告を提出すること。  
なお、神戸市、姫路市、尼崎市又は西宮市域での工事の場合は、県条例に代えて各市条例を適用する。
3. 「再生資源利用計画」「再生資源利用促進計画」については、施工計画書に含めて提出すること。  
また、再生資源等の利用・搬出が終了した際には、その実績を提出すること。
4. 建設廃棄物を搬出する場合は、県登録施設への搬出を原則とする。もし県未登録施設での処理が必要となった場合は、以下の書類を作成・提出し、監督員の承諾を得ること。
  - ・ 県未登録施設との打合せ記録簿
  - ・ 産業廃棄物処分業許可証の写し
  - ・ 施設概要の分かる書類
  - ・ 建設副産物受入価格の見積書

### 第3条 (電子マニフェストの活用について)

1. 土木工事共通仕様書1-1-22条(又は施設機械工事等共通仕様書1-1-23条)3項における廃棄物管理票(マニフェスト)については、可能な限り電子マニフェストの活用を努めるものとする。

#### 第4条 (不正軽油の使用禁止)

1. 受注者は、工事の施工にあたり、使用する車両及び建設機械の燃料として、不正軽油(地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。
2. 受注者は、不正軽油の使用が判明した場合には、速やかに是正措置を講じなければならない。

#### 第5条 (過積載による違法運行の防止)

1. 積載重量制限を超えて工事用資機材及び土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
2. さし枠装着車、「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(昭和42年法律第131号)(以下「ダンプ規制法」という。)の表示番号等の不表示車(以下「不表示車」という。)等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
3. 過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。
4. 建設副産物の処理及び骨材等資材の購入等に当たっては、下請事業者及び骨材等納入業者の利益を不当に害することのないこと。
5. 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること。
6. 取引関係にある事業者が過積載を行っている場合又はさし枠装着車、不表示車等を運搬に使用しようとしている場合は、早急に不正状態を解消するよう適切な措置を講じること。
7. ダンプ規制法の主旨に沿って、同法第12条に規定する団体等の加入者を使用すること。
8. 交通安全に関する配慮に欠ける者又は業務に関し運搬用車両等によって悪質かつ重大な事故を発生させた者を下請契約の相手方又は資材納入業者に選定しないこと。
9. 下請け業者や資材納入業者に対して過積載防止や交通安全に関する教育・訓練等の安全対策を行うこと。

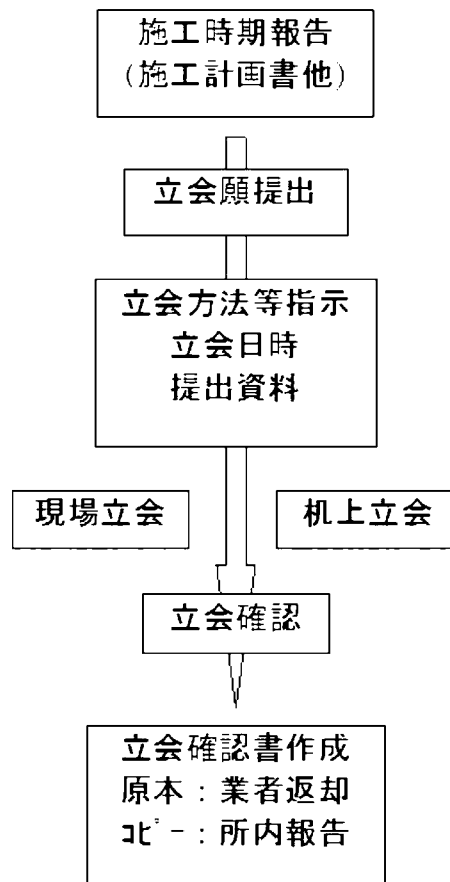
#### 第6条 (監督員による段階確認)

1. 受注者は、別表-1及び別表-2段階確認一覧表に示す確認時において、段階確認を受けなければならない。
2. 受注者は事前に段階確認に係わる報告(種別、細別、施工予定時期等)を所定の様式により監督員に提出しなければならない。また、監督員から段階確認の実施について通知があった場合には、受注者は段階確認を受けなければならない。
3. 段階確認は受注者が臨場するものとし、確認した箇所に係わる監督員が押印した書面を、受注者は保管し検査時に提出しなければならない。
4. 受注者は、監督員に完成時不可視になる施工箇所の調査ができるよう十分な機会を提供するものとする。
5. 監督員は、設計図書に定められた段階確認において臨場を机上とする

ことができる。

この場合において、受注者は、施工管理記録、写真等の資料を整備し、監督員にこれらを掲示し確認を受けなければならない。

### 段階確認フロー



別表-1 段階確認一覧表

種類	細別	確認事項
指定仮設工		設置完了時
河川・海岸・砂防土工(掘削工) 道路土工(掘削工)		土(岩)質の変化した時
道路土工(路床盛土工) 舗装工(下層路盤)		ブルーフローリング実施時
表層安定処理工	表層混合処理・路床安定処理	処理完了時
	置換	掘削完了時
	サンドマット	処理完了時
バーチカルドレーン工	サンドドレーン	施工時
	袋詰式サンドドレーン	施工完了時
	ペーバードレーン	
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工時 施工完了時
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 セメントミルク攪拌 生石灰パイル	施工時 施工完了時
	薬液注入	施工時
矢板工 (任意仮設を除く)	鋼矢板 鋼管矢板	打込時 打込完了時
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時 打込完了時(打込杭) 掘削完了時(中掘杭) 施工完了時(中掘杭) 杭頭処理完了時
場所打杭工	リバース杭 オールケーシング杭 アースドリル杭 大口徑	掘削完了時 鉄筋組立て完了時 施工完了時 杭頭処理完了時
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		鉄脊据え付け完了時 本体設置前(オープンケーソン) 掘削完了時(ニューマチック ケーソン) 土(岩)質の変化した時 鉄筋組み立て完了時
鋼管井筒基礎工		打込時 打込完了時 杭頭処理完了時

別表-2

## 段階確認一覧表(農業農村整備事業関係)

種 別	細 別	確 認 時 期
ほ場整備	整地工	基盤均平完了時 表土均平完了時
	管水路工	漏水試験時 水圧試験時
ため池	準備工	境界立会時、法線設置完了時
	堤体工	床掘完了時(床付・岩着) 土(岩)質の変化した時 盛土開始時
	洪水吐工	土(岩)質の変化した時 床掘掘削完了時 鉄筋組立て完了時 埋戻し前
	樋管工	床掘掘削完了時 鉄筋組立て完了時 埋戻し前
	土取場工	境界立会時 土質判定時
地すべり (抑止工)	抑止杭工 (鋼管杭工)	法線設置完了時 材料検査時 鋼管建て込み完了時

種 別	細 別	確 認 時 期
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工		コンクリート打設前
重要構造物 函渠工(樋門・樋管を含む)、洪水吐工 躯体工(橋台)、RC躯体工(橋脚) 橋脚フーチング工、RC擁壁 砂防ダム・床止・床固、堰本体工 排水機場本体工、水門工、共同溝本体工		コンクリート打設前
床版工		コンクリート打設前
ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工、PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工、PC押出箱桁製作工		コンクリート打設前 (工場製作を除く)
トンネル工		施工前、スライドセントル設置時
盛土工 道路・河川・砂防		敷均し、転圧時
舗装工	路盤、表層、基層	舗設前
コンクリート吹付工		吹付前 その他監督員が指示する時
維持・管理工	施肥、薬剤散布	施工時
開削工(農業集落排水・下水道)		施工前
推進工(農業集落排水・下水道)		施工前、裏込注入時
シールド工 (農業集落排水・下水道)	一次覆工、二次覆工	裏込注入前 コンクリート打設前
立坑工		施工時

なお、下記の簡易構造物には適用しないものとする。

- ① 張コンクリート・捨コンクリート等(河川の護岸は除く)
- ② コンクリート断面積1㎡以下の水路・側溝等
- ③ コンクリート量1m<sup>3</sup>以下の防護柵・照明・標識等の基礎
- ④ 高さ1m以下の擁壁(河川の護岸は除く)
- ⑤ 集水桝・分水桝(ただし、コンクリート断面積1㎡以上、高さ1m以上のものを除く)

## 第7条 (電子納品)

1. 工事完成図書は「工事完成図書の電子納品要領(案)」、「農業農村整備事業電子納品マニュアル 第4版」に示されたファイルフォーマットに基づいて作成した電子データを電子媒体で正副2部提出するほか、下記については紙媒体で提出するものとする。

(1) 施工計画書、完成図書、出来高展開図の出力 1部  
(市販のファイル綴じで可)

(2) 協議の結果、電子納品対象外となった完成図書 1部

また、書面における署名又は捺印の取り扱い等については、別途監督員と協議するものとする。

2. 完成図を作成する場合は、「電子化図面データの作成要領(案)」等に基づいて作成する。

なお、「工事完成図書の電子納品要領(案)」、「農業農村整備事業電子納品マニュアル 第4版」で特に記載がない項目については監督員と協議のうえ、電子化の可否を決定する。

3. 受注者は、電子納品に際して、「電子納品チェッカー」等によるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウイルス対策を実施した上で電子媒体を提出するものとする。

## 第2章 材料

### 第1条 (建設資材、物品等の調達)

1. 本工事に使用する全ての建設資材については、県内産品を原則使用する。ただし、工事請負代金額が250万円未満の工事、緊急的に実施する工事は対象外とする。

県内産品の調達が困難な場合は、県内に本店や営業所等を有する取扱業者から直接調達を図ることとし、それでもなお、やむを得ない理由があり、これにより難しい場合は、使用する資材について監督員に「県内産品未使用理由書」(別表1)を提出し、監督員の承諾を得ることとする。

※ 県内産品の定義・・・県内で産出、生産、加工又は製造(県内工場)された建設資材

2. 工事着手前に受注者が提出する「使用材料一覧表」の様式は別表2とする。

(別表1)

### 県内産品未使用理由書

一覧表 No.	使用する材料の名称	材料の規格等	未使用の 理由 記号 ※1	附属資料の名称	具体的な理由 ※2

※1 未使用理由

ア 県内の本店又は営業所等を有する者から調達できない場合

イ 受注者により提出される「県内に本店又は営業所等を有する取扱業者の県内産品納入価格」と「設計単価」との価格差が大きい場合

ウ その他

※2 未使用理由「ウ」に該当する場合のみ記入

(別表2)

### 使用材料一覧表

No.	使用する 材料の名称	材料の規格 等	材料の JIS規格 の有無 (有りの 場合○)	工場のJIS 表示認定 (認証) の有無 (有りの 場合○及 び番号)	主要 資材 (該 当す る場 合○)	県内 産品 (使 用場 合○)	製造会社名 又は工場名 所在地(又 は土取場 名)	使用 材料 確認 願を 提出 の場 合○	土木 工事 承諾 書を 提出 の場 合○	県内本 店等(使 用場 合○) ※1	購入社名、所在 地 ※2	県内 産品 未使 用の 場合 ○ ※3

※1 県内産品の調達が困難な場合で、県内に本店や営業所等を有する取扱業者から調達した場合に記入する。

※2 材料の納入業者名が、製造会社名と異なる場合に記入する。

※3 県内産品を使用せず、かつ県内に本店や営業所等を有する取扱業者から調達していない場合は、「県内産品未使用理由書(別表1)」の添付が必要。

注1) 契約金額が250万円未満の工事及び緊急的に実施する工事、総価契約単価取決方式工事は「主要資材」「県内産品」「県内本店」「購入社名、所在地」「県内産品未使用の場合」欄の記入は不要。

注2) 受注者は、工事完成時に「使用材料一覧表(別表2)」として提出した全ての電子データを監督員に提出する。

## 第2条 (セメントコンクリート二次製品の取扱要領の適用について)

1. セメントコンクリート二次製品の品質確認は、下記ホームページアドレスに掲載する「セメントコンクリート二次製品の取扱要領」に基づき実施する。

<http://web.pref.hyogo.jp.cache.yimg.jp/ks04/gijyutsukannri.html>

## 第3章 施工共通事項

### 第1条 (レディーミクストコンクリート)

本条は、レディーミクストコンクリートの製造に関する一般事項を取り扱うものとする。なお、本条に規定していない製造に関する事項は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) を適用する。

1. 受注者は、レディーミクストコンクリートを用いる場合の工場選定は以下による。

(1) J I S マーク表示認定製品を製造している工場 (工業標準化法の一部を改正する法律 (平成 16 年 6 月公布) に基づき国に登録された民間の第三者機関 (登録認証機関) により認証を受けた工場 (以下「JIS 認証工場」という。)) で、かつ、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者 (コンクリート主任技師等) が常駐しており、配合設計及び品質管理などを適切に実施できる工場 ((全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場) (以下、「監査合格工場」という。) 等) から選定し、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) (以下「JIS A 5308」という。) に適合するものを用いなければならない。

(2) JIS 認証工場が工事現場近くに見当たらない場合、又は現場近くの JIS 認証工場の出荷能力等の制約から調達ができない場合は、設計図書に指定したコンクリートの品質が得られること及び該当工場の配合設計及び品質管理などについて確認の上、JIS 認定工場からの調達が不可能である理由について記述した書面を提出し、監督員の確認を得なければならない。

なお、その場合でも、コンクリートの製造、施工、試験、検査及び管理などの技術的業務を実施する能力のある技術者が常駐しており、配合設計及び品質管理を適正に実施できる工場を選定しなければならない。

2. 受注者は、監査合格工場で製造された JISA5308 に適合するレディーミ

ラストコンクリートについては、必要に応じて配合に臨場するとともに、製造会社の材料試験結果、レディーミラストコンクリート配合計画書及び基礎資料を整備・保管し、監督員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

なお、受注者による臨場、確認等については、表1のとおりとする。

3. 受注者は、JIS 認証工場以外の工場で製造したレディーミラストコンクリートを用いる場合、JIS 認証工場であっても JISA5308 以外のレディーミラストコンクリートを用いる場合、JIS 認証工場であるが監査合格工場以外の工場で製造した JISA5308 を用いる場合には、必要に応じて配合に臨場し、また、製造会社の材料試験結果、レディーミラストコンクリート配合計画書及び基礎資料により、監督員の確認を得なければならない。

また、受注者は、レディーミラストコンクリートの打設時には、必要に応じて当該工事の主任技術者又は監理技術者か、コンクリート主任技士又はコンクリート技士の資格を有する技術者を立会させなければならない。

なお、受注者による臨場、確認等については、表1のとおりとする。

4. 受注者は、レディーミラストコンクリートの打設に関し、表3の練混ぜから打設完了までに要した時間の確認ができる記録資料（以下、「打設状況報告書」という。）を作成・整備・保管し、監督員の請求があった場合は、遅滞なく提示するとともに、検査時に提出しなければならない。
5. 受注者は、レディーミラストコンクリートの品質を確かめるための検査を JIS A 5308 により実施しなければならない。なお製造会社等に検査のための試験を代行させる場合は、受注者がその試験に臨場しなければならない。また現場練りコンクリートについても、これに準ずるものとする。
6. 受注者は、施工に先立ち、あらかじめ配合試験を行い、表2の示方配合表を作成し監督員の確認を得なければならない。ただし、すでに他工事（公共工事に限る）において使用実績があり、品質管理データがある場合は、配合試験を行わず他工事（公共工事に限る）の配合表に代えることができる。

また、JIS マーク表示されたレディーミラストコンクリートを使用する場合は配合試験を省略できる。

7. 受注者は、土木コンクリート構造物の耐久性を向上させるため、一般の環境条件の場合のコンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比は、鉄筋コンクリートについては55パーセント以下、無筋コンクリートについては60%以下とする。

表1 配合に臨場する場合の頻度等 (土木工事)

			監査合格工場の JIS (A 5 3 0 8) 製品	監査合格工場以外の JIS (A 5 3 0 8) 製品	JIS (A 5 3 0 8) 以外の製品	
		受注者の臨場、確認等の時期	コンクリート構造物の分類(表2参照)			
製造関係	①品質管理に携わる技術者の資格の確認(常駐の確認)	材料承認提出時	A欄、B欄とも	—	○	○*2
	②品質管理責任者の配置の確認	材料承認提出時	A欄、B欄とも	—	○	—
	③コンクリートの圧縮強度の管理体制の確認	材料承諾提出時	A欄、B欄とも	—	○	○*2
	④配合への臨場	試験練りを行う場合には試験練り時	A欄に該当	○	○	○
			B欄に該当	—	○	○
	⑤単位水量にかかる日常管理に関する事項の確認	打設期間中	A欄に該当	—	—	○*1
B欄に該当			—	—	○*1	
施工関係	⑥有資格者等の臨場	打設時	A欄に該当	—	○	○
			B欄に該当	—	—	—
	⑦打設状況報告書(表3)の作成等	打設時	A欄、B欄とも	○	○	○

\*1：臨場の頻度は、鉄筋コンクリートは打設日1日につき2回(午前、午後)とし、その他のコンクリートは打設1日につき1回とする。

\*2：監査合格工場は除く。

①品質管理に携わる技術者の資格確認(常駐の確認)

コンクリート技士、コンクリート主任技士又は同等の有資格者が、1名以上常駐し実際に品質管理に携わっていること。なお、同等の資格とは、技術士(コンクリート専門)、コンクリート診断士に限る。

②品質管理責任者の配置の確認

品質管理責任者(QMR)として有資格者を JIS 登録認証機関に届け出て配置するとともに、QMRの資格を有する者の中から代理人1名を選定していること。

③コンクリートの圧縮強度の管理体制の確認

代表的な配合を選択し、JISA5308 の 9.2 に基づく方法、JISA1132 の方法によってあらかじめ定めた間隔で強度を検査し、その管理を行っていること。ただし、代表的な配合がない場合には、任意の配合について行っていること。

(ア) あらかじめ間隔（1回／日以上）定めていること

(イ) 検査記録が3ヶ月分残されていること

(ウ) 適合性を確認していること

(エ) 恒温養生水槽中の供試体数が記録と整合していること（検査前1ヶ月）

⑤単位水量にかかる日常管理に関する事項の確認

打設期間中の確認については、「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領（案）平 24 年 4 月 兵庫県」によることとする。

表2 示方配合表

粗骨材の 最大寸 法(mm)	スラン プ  (cm)	水セメン ト比 W/C(%)	空気 量  (%)	細骨材率  S/a(%)	単 位 量 (kg/m <sup>3</sup> )					
					水	セメント	混和材	細骨材	粗骨材	混和材
					W	C	F	S	G	A



# ため池改修工事 特記仕様書

## 第1章 総則

### 第1節 総則

#### 第1条 適用の範囲

1. 本仕様書は、加東市が発注する「令和7年度農業水路等長寿命化・防災減災事業イノコ谷池地区ため池改修工事」（以下「工事」という。）に適用する。
2. 本工事は土木工事等共通仕様書、特記仕様書、土木工事施工管理基準、その他設計図書等に基づいて誠実に履行しなければならない。
3. 特別仕様書、農業農村整備事業共通仕様書、設計図書等に記載された事項は土木工事等共通仕様書に優先するものとする。

#### 第2条 準拠図書及び基準

適用規格、準拠基準等は、共通仕様書の1-1-41に示す諸法令、諸法規の定めによるほか下記の基準・図書に準拠して施工するものとする。

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| ① 兵庫県土地改良技術基準           | (兵庫県)   |
| ② 農林水産土木工事安全施工技術指針      | (兵庫県)   |
| ③ 土地改良事業計画設計基準          | (農林水産省) |
| ④ 土地改良事業標準設計            | (農林水産省) |
| ⑤ 土木工事施工管理基準            | (農林水産省) |
| ⑥ 日本工業規格                | (J I S) |
| ⑦ その他共通仕様書等に記載の法令・規則・規格 |         |

### 第2節 工事内容

#### 第1条 目的

1. この工事は農業水路等長寿命化・防災減災事業を活用し、老朽化が進行し危険な状態となったイノコ谷池を従来の機能を回復するため改修を行い、破堤による下流域への被害を未然に防止するものである。

#### 第2条 工事場所

加東市 栄枝 地内

### 第3条 工期

契約締結日の翌日 ～ 令和8年3月10日

### 第4条 ため池概要

	現状	計画 (堤体開削工法)
1 堤体工	堤高 4.13m 堤長 41.60m 堤頂幅 4.0m 法面保護 土羽仕上げ	堤高 4.63m 堤長 41.60m 堤頂幅 3.0m 法面保護 張りブロック
2 洪水吐工	水路流入式 幅1.2m	越流式 幅1.2m※ <sup>1</sup> 既設洪水吐撤去 □1000×1200
3 取水施設工 (斜樋)	木樋 φ75 4箇所	スライドバルブ φ100※ <sup>1</sup> (緊急放流孔兼用)
4 取水施設工 (底樋)	土砂吐樋	二次製品底樋 φ600 L=16.4m※ <sup>1</sup> スライドゲート □600×600※ <sup>1</sup>
5 仮設工		仮設道路設置 1式※ <sup>1</sup> 仮設道路撤去 1式
6 付帯施設工		L型擁壁 H=2000L=2000※ <sup>1</sup> 水路工 U450*600 L=3.0m 階段工 W=1.0m 9段 分水柵 □600*600※ <sup>1</sup>

※<sup>1</sup> 本工事には含まれない。

## 第2章 施 工

### 第1節 施工一般

#### 第1条 一般心得

1. 受注者が受益者・周辺住民から要望、指摘等を受けた場合は、速やかに監督員に報告し指示を受けるものとし、単独処理をしてはならない。
2. 受注者は工事施工中、監督員と密に連絡を行い、周辺住民に迷惑をかけないように細心の注意を払い、重機等による事故を絶対に起こさないように注意しなければならない。

#### 第2条 実施工程表

1. 受注者は、共通仕様書に示す様式に基づき実施工程表を作成し監督員

に提出して承諾を受けなければならない。

2. 本工事の工期は、雨天、祝祭日、年末年始休暇及び土・日曜休日を見込んでいる。ただし、騒音規制法、振動規制法その他諸法令の許可の範囲内でやむを得ず休日に作業を行う必要がある場合は、監督員に届け出るものとする。ただし、夜間工事は行わないこととする。
3. 天候や地域住民対応等で業務計画書に記載のある祝日に施工が必要となった場合は、監督員と協議のうえ、休日作業届を提出すること。
4. 現行の実施工程表に変更が生じその内容が重要な場合には、その都度変更実施工程表を提出しなければならない。
5. 実施工程表について監督員が特に指示した場合は、さらに細部の実施工程表を提出しなければならない。
6. 月の最終週に当月の進捗報告を監督員へ提出すること。

### 第3条 基準点

1. この工事の水準点については監督員から貸与する測量資料をもとに確認しておくこと。

### 第4条 準備

1. 工事着手前に、関係者（周辺住民、地権者など）へ工事の実施にかかる必要事項等の連絡を行うこと。
2. 労務及び作業用機械器具類は工程を十分検討の上、工期内に工事実施の可能な能力のあるものを準備し、特に作業機械は常に点検整備を行い、故障等により工事に支障をきたすことのないように十分留意すること。
3. 契約後すみやかに共通仕様書1-1-42、43に必要な手続きを行うと共に使用材料及び使用建設機械については施工計画書及び使用承認願を提出し、監督員の承認を得なければならない。
4. ため池の落水後、監督員の承認を得た上ですみやかに排水対策を講じ、測量及び機械施工のできる状態にした上で、事前測量により現地高さを確認し、丁張をかけて設計図書との整合及び用地等について監督員の確認を受けなければならない。
5. 地下埋設物や架空線（電柱、電線等）について工事の際、危険のないように十分な調査を行うこと。工事に支障となる場合は監督員と協議すること。

### 第5条 安全対策

1. 工事開始前及び開始時において、地域住民等の意見を踏まえた危険箇

- 所の特定と適正な安全施設（立入防止施設、注意看板等各種標識類）を設置するものとする。
2. 地元説明会等で地域住民への危険箇所の周知と事故防止の徹底を図らなければならない。
  3. 必要に応じ安全対策マップを作成し、地域住民等への配布を行うものとする。
  4. 工事完了後は湛水を行い、工事休止期間となるため、完了後の危険箇所については十分な安全対策を講じること。

#### 第6条 排出ガス対策

1. 本工事において下表に示す建設機械を使用する場合は、排ガス対策型建設機械指定要領に基づき指定された排ガス対策型建設機械を使用するものとする。なお、排ガス対策型建設機械を使用できない場合は、「建設技術評価制度」又は「民間開発建設技術の審査証明事業」により評価された「排出ガス浄化装置」を装着した建設機械を使用することで同等とみなすものとする。ただし、これにより難しい場合は、相当の理由を付して監督員へ申し出るものとする。
2. 工事で使用する建設機械は、排ガス対策型建設機械か否かを施工計画書に記載するものとする。
3. 排出ガス対策型建設機械は、施工現場において、使用する建設機械の写真撮影を行い、完成図書として提出するものとする。
4. 受注者は建設機械を使用するにあたり、アイドリングストップの励行に努めなければならない。

<表>

一般工事用建設機械	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バックホウ</li> <li>・ ブルドーザ</li> <li>・ 発動発電機（可搬式）</li> <li>・ 空気圧縮機（可搬式）</li> <li>・ 油圧ユニット</li> </ul> <p>（以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシーンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの：油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーサ</p>	<p>ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw ～ 260kw）を搭載した建設機械に限る。</p>

ーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁 施工機、全回転オールケーシング施工機) ・ ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ ホイールクレーン	
--	--

#### 第7条 監督員による検査（確認を含む）及び立会等

1. 受注者は設計図書に従って、工事の施工について監督員の立会にあたってはあらかじめ別添様式に定める立会願を前日正午までに監督員に提出しなければならない。なお、急を要する場合はこの限りではない。
2. 監督員は、工事が契約図書どおりにおこなわれているかどうかの確認をするため必要に応じ、工事現場、又は製作工場に立ち入り、立会し、又は資料の提出を請求できるものとし、受注者はこれに協力しなければならない。
3. 受注者は、監督員による検査（確認を含む）及び立会に必要な準備、人員及び資機材等の提供並びに写真その他資料の整備をするものとする。
4. 監督員による検査（確認を含む）及び立会の時間は、監督員の執務時間内とする。ただし、やむを得ない理由があると監督員が認めた場合はこの限りではない。
5. 受注者は、契約書第9条第2項第3号、第13条第2項又は第14条第1項もしくは同条第2項の規定に基づき、監督員の立会を受け、材料検査（確認を含む）に合格した場合であっても、契約書第17条、及び第31条に規定する義務を免れないものとする。

#### 第8条 監督員による段階確認

1. 監督員による段階確認については、兵庫県県土整備部共通仕様書1-1-21条に示すとおりとする。
2. 本工事で追加する検測・確認については、別表-1及び別表-2段階確認一覧表及び段階確認一覧表（追加）のとおりとする。
3. 受注者は事前に段階確認に係わる報告（種別、細別、施工予定時期等）を所定の様式により監督員に提出しなければならない。また、監督員から段階確認の実施について通知があった場合には、受注者は段階確認を受けなければならない。
4. 段階確認は受注者が臨場するものとし、確認した箇所に係わる監督員が押印した書面を、受注者は保管し検査時に提出しなければならない。
5. 受注者は、監督員に完成時不可視になる施工箇所の調査ができるよう

十分な機会を提供するものとする。

6. 監督員は、設計図書に定められた段階確認において臨場を机上とすることができる。

この場合において、受注者は、施工管理記録、写真等の資料を整備し、監督員にこれらを掲示し確認を受けなければならない。

段階確認一覧表（追加）

種 別	細 別	確 認 時 期
ため池	堤体工	丁張設置時 掘削終了時 型枠組立完了時 コンクリート打設前（型枠組立完了時と兼ねることが出来る）
	洪水吐工 （土工）	丁張設置時 試験盛土実施時 盛土施工管理(含水比・密度・透水試験、まきだし・仕上り厚、転圧回数・速度)時 （施工管理初期のみ。適正管理確認後は省略）
	仮設工	丁張設置時

## 第2節 築 堤 工

### 第1条 一般事項

1. 監督員が特に指示しない限り盛土は図面に示された寸法、斜面勾配に従い施工しなければならない。ただし、監督員は堤体の安全上必要と認めたときは、基礎幅及び斜面勾配の増減又は断面を変更する場合がある。
2. 請負ったすべての工事が完成し検査・確認を受けるまで、受注者は盛土の保護及び維持について責任を持たなければならない。

### 第2条 土取場

1. 工事で必要な築堤用土は、第5条で示す品質に適合するものを使用すること。
2. 購入土については、監督員が把握している土質条件と大きく隔たりがあ

る場合は、改良断面の変更や、コア材購入先の変更を行う必要があるため、契約後速やかに材料承認願（土質試験結果）を提出すること。

コア材の土質試験結果が古い場合は、工事で使用する土取位置と整合していないと判断される場合は、材料使用を承認しない場合がある。

#### 購入土の土質定数

粘着力 (kN/m <sup>2</sup> )	せん断抵抗角 (°)
19.1 (試験値) × 0.8 = 15.3	33.6 (試験値) × 0.8 = 26.9

#### 第3条 残土処分地

1. 残土処分については地区内において流用するため、監督員の指示した場所より行うこと。
2. 降雨時に残土処分地から周辺へ土砂の流出がないよう、適時防災上の措置をとること。

#### 第4条 法面保護工

1. 法面保護ブロックは図面に示された寸法、斜面勾配に従い施工しなければならない。
2. 盛土法面は、はだ落ちしないよう充分転圧し整形を行わなければならない。
3. フィルター材は、切込砕石(C)0~40mmを使用し、充分締固めを行い、流亡沈下の恐れのないようにしなければならない。
4. 制波ブロックは平張ブロック 500×500×120 mmを使用することとする。
5. 曲線部及び局部でブロック施工できない箇所は平張ブロックと同程度以上のコンクリートにて仕上げなければならない。

#### 第5条 盛土材料

1. 盛土材料は出来るだけ均質性を確保するものとし草木根、石、その他腐植土を混入させてはならない。
2. ため池築堤用土に必要な土質定数について参考に以下に示す。
  - ①統一分類から、築堤材料として適するもの。
  - ②比重が2.6以上のもの。
  - ③高い密度を与える粒度分布であり、細粒分を相当量含んでいること。(0.075 mm以下が10%以上)
  - ④収縮比が小さく適当な塑性を有し、かつ水で飽和しても軟泥化しないこと。

- ⑤最適含水比 15～30%、最大乾燥密度（D 値）1.4～1.8g/cm<sup>3</sup> 程度。
- ⑥現場密度試験を実施し、試験結果が規格値（D 値 90%以上）を満足するもの。

## 第6条 堤体掘削

1. 堤体の表土はぎは、不良土層（腐食土、砂礫土等）及び草木根を取り除く作業であり、他の掘削箇所の土砂と混合しないよう入念に施工し、仮置流用土と混在しないようにすること。なお、後法の表土はぎは草木の根が残らないよう注意すること。
2. 堤体の掘削床掘は、計画線に従い入念に行い「過掘り」「掘り緩め」を行ってはならない。万一「過掘り」「掘り緩め」が起こった場合は、完全にすきとり、断面を整形して盛土（コアー又はランダム）しなければならない。また、堤体袖部には特に注意を払い入念に施工しなければならない。
3. 掘削作業中に土質の変化、湧水、亀裂のある場合には、監督員に報告し指示を受けなければならない。
4. 掘削土は極力堤体盛土に流用するものとするが、利用不可能な残土は処分する。再利用する掘削土は処分土と混合しないように管理すること。
5. 堤体袖部では、床掘基盤の状態（土性・密度等）によってカットオフの施工の必要性を確認するので、監督員の承認を得た後、タンパーで入念に締固め、十分な水密性が得られるようにする。

## 第7条 まき出し

1. 監督員が床付け面の確認を終了するまで、その上に盛土を行ってはならない。
2. いかなる材料も高含水比、乾燥、凍結面にまき出してはならない。
3. 上記の場合は、1層分をはぎ取りその後、まき出しを行うこととする。また、日毎の最初のまきだし前には表面を掻き起こすことが望ましい。
4. まき出しは盛土全面にわたり、ほぼ水平にブルドーザその他承認された方法によるものとし、均等の厚さにかつ粒度がかたよらないように行わなければならない。
5. 転圧された層の表面が非常に滑らかな場合などで、次の層となじみがよくないと認められる場合には、次層をまき出す前にレーキをかける等の方法により、なじみをよくしなければならない。また、転圧された層の表面の凹凸が大きい場合は次層の転圧にむらが発生するため、ブルドーザ等にて平滑にしたのちまき出すこと。
6. まきだした土砂に拳大(約 10cm)以上の礫が混入している場合は除去し

なければならない。

7. まき出し及び転圧は原則として堤体の縦断方法に施工するものとし、まき出した土はその日のうちに締固めを完了しなければならない。
8. 土砂搬入時におけるダンプトラックの転圧面上への直接進入は、運搬車両の接地圧により盛土内部のせん断破壊を引き起こし漏水経路となる恐れがあるため、絶対に避けなければならない。

## 第8条 締 固 め

### 1. 使用機械

堤体盛土の転圧はタイヤローラ（8～20t）か振動ローラー（3～5t）を使用するものとし、転圧できない箇所は100kg級タンパー、800kgハンドガイド式振動ローラで転圧するものとする。

### 2. 締 固 め

- (1) 盛土1層当たりの仕上り厚さ及び転圧回数は使用機種により下記の盛土区分：ランダムを標準とする。

#### a) タンパ転圧の場合

盛土区分	人力まきだし又はブルドーザ敷均し（締固め後の厚）	タンパ転圧回数
コアー	D = 20 cm	n = 8回
ランダム	D = 20 cm	n = 6回

#### b) 振動ローラ転圧の場合

盛土区分	ブルドーザ敷き均し（締固め後の厚さ）	振動ローラ転圧回数
コアー	仕上がり厚さD = 20 cm	n = 8回
ランダム	仕上がり厚さD = 20 cm	n = 6回

#### c) タイヤローラ転圧の場合

盛土区分	ブルドーザ敷き均し（締固め後の厚さ）	タイヤローラ転圧回数
コアー	仕上がり厚さD = 20 cm	盛土試験結果による
ランダム	仕上がり厚さD = 20 cm	盛土試験結果による

(2) 盛土管理

盛土区分	試験項目	規 格 値
コアー	現場透水	$k = 1 \times 10^{-5} \text{ cm/s}$ 以下

(3) 締固め軌跡は前回と 50 cm 以上重複させなければならない。

(4) 転圧速度

搭乗式振動ローラー 1 km/h (17m/min)

ハンドガイド式振動ローラー 0.9 km/h (15m/min)

タイヤローラー 3.5 km/h (58.3m/min)

(5) コンクリート構造物との取付箇所はタンパーにより入念に転圧するものとし、構造物表面が乾燥している場合は、散水により湿潤状態とし、土との密着を図るものとする。その他、床掘面、旧堤の取付部、及び盛土表面等、監督員が指示した箇所で、大型機械で締固めが十分でない部分については、タンパー、振動ローラー等で転圧するものとし、重機転圧の場合と同程度以上まで締固める。

(6) 仕様書によって示された転圧回数によって所定の転圧効果が得られない場合には原因をつきとめ監督員の指示に従わなければならない。

(7) 過転圧は盛土内部でせん断破壊が起き、また、含水比が比較的高い場合は過剰間隙水が発生しウェービングを起こす（盛土が緩む）原因となるため、絶対に行ってはならない。

(8) ランダム盛土斜面において、計画線より 0.5~1.0m 程度余分に盛土を行い、計画線までは十分に転圧施工するものとする。余盛りした土は正規断面に切り取りを行い、ランダム用土として流用しても良い。

(9) 作業の最終転圧時には池傾斜を付け、降雨時等にて水がたまらないように平滑に仕上げるのが望ましい。

(10) 降雨が想定される場合は、転圧面をシート等にて養生することが望ましい。

### 第3節 コンクリート工

#### 第1条 一般事項

1. 一般事項は、別紙「農業農村整備事業共通仕様書」によるものとし、それ以外の特記事項は、次のとおりである。

## 第2条 生コンクリート示方

呼び強度 N/mm <sup>2</sup>	スラ ン プ (cm)	粗骨材最 大 寸 法 (m)	セメント の 種 類	摘 要
18	12	25	BB	均しコンクリート
18	8	40	BB	無筋コンクリート
24	12	25	BB	鉄筋コンクリート

※上記以外のものを使用する場合は監督員の承諾を受けなければならない。

## 第3条 水セメント比の上限値

1. 土木コンクリート構造物の耐久性を向上させるため、本工事に使用するコンクリートの水セメント比は、鉄筋コンクリートについては55%以下、無筋コンクリートについては60%以下とすること。

## 第4条 鉄筋材料

1. 本工事で使用する鉄筋材料の規格及び品質は、SD345等の同等以上の材料を使用するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

## 第5条 鉄筋のかぶりの確保

1. 鉄筋のかぶりを確保するために、スペーサを構造物の側面については原則1m<sup>2</sup>につき2個以上、構造物の底面については原則1m<sup>2</sup>につき4個以上設置すること。
2. 使用するスペーサは原則モルタル製とし監督員の承諾を受けたものとする。

## 第6条 型 枠

1. 本工事に使用するコンクリート型枠について、鋼材型枠等の使用に努める。合板使用の場合は、針葉樹の複合合板を積極的に使用するとともに、可能な限り県産木材の使用に努めること。また、合板の合理的使用などにより反復使用回数の増加に努めること。

## 第7条 配筋、型枠検査

1. 配筋、型枠組立が完了した後、コンクリートを打設する前に監督員の

承認を受けること。

2. 写真管理はリボンテープ、マグネット、クリップ、デジタルノギス等を使用し配筋、型枠組立状況が写真でも確認できるよう工夫すること。

#### 第8条 打ち継ぎ目処理

1. コンクリート打ち継ぎ目は、硬化前にワイヤーブラシ等でレイタンスを除去し、敷モルタルを行ってからコンクリートを打設すること。なお、打継目処理剤は使用しないものとする。

### 第4節 仮設工

#### 第1条 工事用道路

1. 運搬道路は公共上または工事資材運搬上支障のないようにしなければならない。
2. 資機材の運搬は公衆に迷惑の及ばないよう保安設備関係法規を遵守し、監督員の承諾により受注者の責任のもとに実施しなければならない。  
なお、近隣住民や児童生徒の通勤・通学に大きな影響があるため、すみやかに運搬計画、交通誘導員配置計画、及び保安設備計画書を監督員に提出しなければならない。
3. 受注者が重機、資材等の運搬の際、道路の路面等を損傷または汚した場合には受注者の責任によりこれを復旧・清掃する。

#### 第2条 工事用仮設道路

1. 受注者が任意により仮設道路を設置する場合は、労働基準法、その他関係法規に基づくものでなければならない。工事完了後は、すみやかに撤去し現況復旧を行うこと。
2. 発注者が指示する以外に施工に際して使用した土地は、本工事完了後、所有者立会の上すみやかに引渡さなければならない。

#### 第3条 防塵対策工

1. 池内仮設道路の車両運行により粉塵が極力発生しないよう土埃が飛散する状況であれば一日に3回以上場内の散水を行わなければならない。
2. タイヤに付着した土砂の一般道路への持ち出しを防止するため、圧力ポンプ等を配置し、適宜洗浄し、場外へ出なければならない。
3. 万一公道上に土砂を持ち出した場合は、受注者の責任により速やかに清掃及び散水を行わなければならない。

#### 第4条 工事用電力

1. 今回の工事においては、仮設電力設備（低圧引込設備）の設置は予定していない。受注者の都合により仮設電力設備を設置する場合は、受注者の責任において関係者協議等を行うこと

### 第3章 品質管理及び施工管理

#### 第1節 品質管理及び施工管理

##### 第1条 一般心得

1. 受注者は本仕様書及び別添ため池工事施工管理基準（土木工事施工管理基準（最新版）の「ため池改修工事」よりも優先すること）に基づいて、次条に示す管理対象項目について管理試験を行い、その結果を監督員に報告すると共に記録管理しなければならない。
2. 主任技術者又は監理技術者は、共通仕様書第1編1-1-10に規定する2)若しくは(3)の資格を有するもの、又は建設業法第7条第2号イ若しくはロに該当するもののうち、ため池工事について経験と専門的知識を有するものでなければならない。
3. 工事完了後外面から明視できない箇所及びまた重要な工事部分については、寸法及び施工状況が判定出来るよう充分留意して写真撮影をし、工程順に整理して監督員に提出し、承諾を得なければならない。
4. 本工事完了後は、次の工事着手まで湛水する予定であるが、漏水等の問題が発生した場合は、必要な対策を請負者の責任において行うこと。

##### 第2条 工事施工に関する管理対象項目

1. 工程管理
2. 品質管理
  - (1) コンクリート二次製品の品質管理資料
  - (2) コンクリートの品質管理資料
  - (3) その他監督が必要と認め要求する品質管理資料
3. 施工管理
  - (1) 堤体盛土の施工管理資料（施工計画書に試験計画書を添付すること）

工種		試験（測定）項目	試験方法	試験（測定）基準
堤 体 盛 土	コアー	透水係数の測定	現場透水係数測定法	盛土高さ1.0m上がるごと におおむね40.0m間隔で 1回行うものとする。

(2) その他監督員が必要と認め要求する施工管理資料

#### 4. 出来形管理

(1) 直接測定による出来形管理資料

(出来形のばらつきを確認するため、度数表又は、ヒストグラムを作成すること。試験結果打点数が10以下の場合は省略)

(2) 撮影記録による出来形管理資料

(3) 他監督員が必要と認め要求する出来形管理資料)

## 第4章 その他

### 第1節 リサイクルの推進及び建設廃棄物の取り扱い

#### 第1条 建設副産物対策

1. 本工事は「建設工事に係る資材の再資源化に関する法律（建設リサイクル法）（平成12年法律104号）に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講じることにより、「兵庫県における建設リサイクル行動計画」（平成10年6月策定）の推進を図る。
2. 「資源の有効な利用の促進に関する法律（改正リサイクル法）」（平成3年法律48号、改題平成12年法律113号）に基づき、工事着手前に共通仕様書第1-1-22条第5項に記載しているとおり別に定める様式により「再生資源利用[促進]計画書」（別添1）を作成し監督員に提出しなければならない。
3. 受注者は、工事完了後に「再生資源利用[促進]実施書」を作成し発注者への提出及び1年間の保管を行わなければならない。建設リサイクル法第18条に基づく特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の完了報告はこれを兼ねるものとする。
4. 建設副産物の処分地については、県指定の処分地とする。なお、本設計では、下記の処分地を計上しているが、処分地を指定するものではない。

品目	会社名	住所
Co 殻 (有筋)	(株) 西畑土建	小野市船木町 875-132 外 2 筆

#### 5. 対象とする品目

建設資材・建設副産物	
搬入	土砂、砕石、加熱アスファルト混合物の新材及び再生資材、その他の再生資材(再生コンクリート、パーティクルボード等の再生2次製品)
搬出	建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥、建設混合廃棄物、金属くず、廃プラスチック、紙くず、アスベスト(飛散性)

### 第2条 産業廃棄物等の取り扱い

1. 建設副産物の処理及び骨材等資材の購入に当たっては、下請事業者及び骨材等納入業者の利益を不当に害することのないよう留意すること。
2. 建設工事により伐採された樹木は産業廃棄物に該当するので特に注意すること。

#### (別添1)

建設副産物実態調査搬出先調査票 ー再生資源利用[促進]計画書(実施書)

公共工事・民間公益企業発注工事[元請会社用]

建設副産物対策近畿地方連絡協議会

#### (別添2)

産業廃棄物管理票交付状況総括表				
工事番号		工事名		
請負者名		工事場所		
廃棄物の種類	管理票の番号	数量(トン)	運搬受託者の名称	処分受託者の名称

### 第3条 再生資源等の利用

1. 現場発生材のうち、石材、二次製品水路、既製品柵については、現場再

利用を検討するため、撤去作業時においては監督員と協議を行うこと。

#### 第4条 特定建設資材の分別解体等

1. 本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律〔(平成12年法律第104号)。以下「建設リサイクル法」という。〕に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書の「解体工事に要する費用等に関する書面」に定める事項は契約締結時に発注者と請負者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。

ただし、工事発注後明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議することとする。

工程ごと の作業 内容及 び解体 方法	工 程	作 業 内 容	分別解体等の方法
① 仮 設 ② 土 工 ③ 基 礎 ④ 本体構造 ⑤ 本体付属品 ⑥その他 ( )		仮設工事 ■有 □無	<input type="checkbox"/> 手作業 ■ 手作業・機械作業の併用
		土工事 ■有 □無	<input type="checkbox"/> 手作業 ■ 手作業・機械作業の併用
		基礎工事 □有 ■無	<input type="checkbox"/> 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
		本体構造の工事 ■有 □無	<input type="checkbox"/> 手作業 ■ 手作業・機械作業の併用
		本体付属品の工事 ■有 □無	<input type="checkbox"/> 手作業 ■ 手作業・機械作業の併用
		その他の工事 □有 ■無	<input type="checkbox"/> 手作業 □ 手作業・機械作業の併用

## 第2節 環境配慮、安全対策

### 第1条 池内外来種の駆除及び、在来魚種の保護

1. 本地区の池内の魚類及び植物の保護及び駆除については、監督員と協議を行い、対応すること。

## 第2条 景観、生活環境への配慮

1. 通常時において池内から濁水・土砂が流出しないよう適宜沈砂池等を設け対処すること。洪水時に流出した土砂は監督員の指示により清掃すること。
2. 周辺住民へ随時説明会を開催するため、受注者は出席すること。
3. 周辺住民とのトラブル防止のため、周辺住民から直接受注者へ要望、苦情があった場合には速やかに監督員へ報告すること。
4. ため池工事全般において、振動・騒音・粉塵による家屋等への影響がないよう細心の注意を払うこと。

## 第3条 騒音対策工

1. 本工事は特定建設作業を行う工事であるため、騒音規制法で定める規制値以下の作業音に抑制する必要があることは当然であるが、家屋が近接していることから低騒音型機械の使用に努めるなど、騒音の発生抑制に配慮しなければならない。特に住宅地に近接して行う構造物の取り壊し時は遮音シート等の設置に努めること。

## 第4条 工事現場内安全管理

1. 本工事の施工に際し、現場に即した安全・訓練等について、工事着手後定期的に作業員全員の参加により実施するものとする。
2. 休日や年末年始等の現場作業を行わない日においても、一日一回以上の見回りを行い、日誌に記録すること。
3. 池内の窪地等水がたまる箇所、泥に足をとられる箇所には転落、侵入を防止する高さ1.1m以上の仮囲いを設け、看板を設置し危険箇所であることを明示すること。

## 第5条 交通安全対策

1. 早朝に資材搬入業者の車両が公道上で待機することが絶対に無いよう調整を行うこと。
2. 児童生徒通学時等の事故回避のため、午前9時までは付近公道における運搬作業を極力避けること。学校の休日であっても同様とする。
3. 一般交通の安全確保のため、過積載の車両により搬入された資材を受け取ってはならない。建設廃棄物等の搬出時の運搬も同様である。

4. 県道、市道、農道、生活道路を利用する場合、受注者の責任において事前に関係者の了解を得、交通安全に努め、道路の清掃・散水・維持補修をすること。また、住宅近辺では徐行すること。

## 第6条 工事看板の設置

着工に先立ち、付近住民及び一般通行者に本工事に対する理解と協力を求め、更に工事の安全を図るため、工事現場あるいはその付近の見やすい場所に工事標示板を設置しなければならない。

## 第3節 県内産品の使用促進

### 第1条 建設資材、物品等の調達における県内産品の使用

本工事に使用する建設資材については、県内産品の優先使用に努めることとする。特に主要資材（別紙「主要資材リスト」）の調達にあたっては、原則として県内産品を使用することとする。

ただし、主要資材について県内産品の調達が困難な場合は、県内に本店や営業所等を有する取扱業者から調達を図るものとし、それでもなお止むを得ない理由でこれにより難しい場合は、使用する資材について監督員に「県内産品未使用理由書」を提出し、承諾を得るものとする。

### 第2条 県内産品の定義

ここでいう県内産品とは、県内で産出、生産、加工又は製造（県内工場）された建設資材を指す。

## 第4節 その他

### 第1条 工事カルテ

工事請負代金額 500 万円以上の工事について、請負者は受注時に契約後 10 日以内に、工事实績情報サービス（CORINS）に基づき、「工事カルテ」を作成し、監督員の確認を受けた後に、（財）日本建設情報総合センターに提出しなければならない。また、（財）日本建設情報総合センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督員に提出しなければならない。

### 第2条 施行体制台帳

1. 請負者は、下請契約の有無に関わらず、建設業法第24条の7に基づ

いて施工体制台帳及び施工体系図を作成し、工事現場に備えるとともに、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律第13条に基づいて監督員に提出するものとする。このとき施工体制台帳は様式-1及び様式-2、施工体系図は様式-3を参考として作成するものとする。また、請負者は、様式-4を参考に工事担当技術者の施工体系図を作成して、監督員に提出するものとする。工事担当技術者の施工体系図には、元請負業者の監理技術者及び専門技術者並びに下請負業者の主任技術者の顔写真、氏名、生年月日、所属会社名等を記載するものとする。

2. 請負者は、建設業法施行規則第14条の2第2項第1号に基づく添付書類を施工体制台帳とともに、監督員に提出するものとする。

### 第3条 電子納品

1. 本工事は電子納品対象工事であり、工事完成図書は「農業農村整備事業電子納品マニュアル」に示されたファイルフォーマットに基づいて作成した電子データを電子媒体で正副2部提出するほか、下記については紙媒体で提出するものとする。

・ 施工計画書、工事用材料使用承認願、完成図書

2. 完成図を作成する場合は、「電子化図面データの作成要領（案）」に基づいて作成するものとする。

### 第4条 交通誘導員

1. 本工事では交通誘導員の配置を見込んでいない。周辺住民の要望等があり、危険と判断された場合は監督員と協議を行い、必要に応じ配置を追加するものとする。配置する交通誘導員は、原則として交通誘導警備検定合格者（1級又は2級）を配置することとする。

ただし、交通誘導警備検定合格者を配置できない場合は、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置することとする。

資 格	資 格 要 件
1・2級交通誘導警備検定合格者	公安委員会が学科及び実技試験を行って、交通誘導警備に関して専門的な知識及び技能を有すると認められた者。

交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警備業法における警備員指導教育責任資格者証の交付を受けている者。</li> <li>・警備業法における指定講習を修了した者。</li> <li>・警備業法施工規則における基本教育及び業務別教育 (警備業法第二条第一項第二号の警備業務) を既に受けている者で、交通誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験)が1年以上である者。</li> </ul>
--------------------------	---

2. 請負者は、交通誘導員として交通誘導警備検定合格者を配置した場合、交通誘導警備検定合格証(写し)を監督員に提出するものとする。

請負者は、交通誘導員として交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置した場合、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有すると確認できる次の資料の何れかを監督員に提出するものとする。

- ・警備員指導教育責任者資格者証(写し)
- ・指定講習修了証明書(写し)
- ・警備業法施工規則 第二十六条第二項に定める基本教育、及び同条第2項、第3項に定める業務別教育(警備業法第二条第一項第二号の警備業務)を受講したことを証明する警備員名簿及び教育実施状況等の写し、及び交通誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験)が1年以上であることを証明する書類。

## 第5条 施工内容の変更

1. 本業務は、関係機関と調整の上で堤体工や洪水吐等の工事の追加が発生する場合がある。その際は、協議に応じ、真摯に対応すること。

## 第6条 定めなき事項

1. この特別仕様書に定めない事項又は本工事の施工に当たり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督員と協議するものとする。

<参考>

### 施工計画書添付資料一覧

- ・ 施工体制台帳
- ・ 特殊作業(溶接等)の資格証の写し
- ・ 使用重機の規格仕様書写し
- ・ 運搬車両の車検証の写し
- ・ 土砂等運搬経路図

- ・ 安全管理看板、交通整理員等の配置計画図
- ・ 特定建設作業実施届出書の写し
- ・ 道路占用工事等の警察許可写し
- ・ 出来型管理計画は測定箇所図を添付（ため池の場合、盛土管理予定位置図）
- ・ 産業廃棄物等処理計画書
- ・ 再生資源利用計画書
- ・ 施工計画書とは別途提出 工事カルテ受領書の写し（着手、変更）
- ・ その他監督員の指示したもの

#### 完了時

- ・ 工事検査時提出資料一覧
- ・ 工事写真
- ・ 出来型成果表（管割図、展開図、構造図、測量図、取壊し断面図なども含む）  
（周回道路については、盛土量を算出したもの）
- ・ 工程管理（月ごとの進捗を報告したもの）
- ・ 品質管理（盛土管理含む。日々の含水比管理もグラフにすること）
- ・ 材料検収表（2次製品の材料検査表、土等の搬入時の積載量検収書類等含む。コンクリート納入時間の記入を確認。）
- ・ 材料納入伝票（集計表、設計量との比較表添付）
- ・ 産業廃棄物等処理完了報告書（マニフェスト票添付）
- ・ 再生資源利用実施書
- ・ 完成届、引渡書、請求書
- ・ 完了時工事カルテ受領書の写し
- ・ 試験結果表（六価クロム他、指示したもの）
- ・ 作業日報、安全管理の実績報告をまとめておく。（提出の義務無し。工事検査時持参しておくこと）
- ・ その他監督員が指示したもの

# ため池工事施工管理基準

## 1 目 的

このため池工事施工管理基準（以下「管理基準」という。）は、ため池工事の施工にあたって工事の工程管理、出来形管理及び品質管理の適正化を図るため、請負業者が実施する施工管理の基準を定めたものである。

## 2 適 用

この管理基準は、ため池工事を請負により施工する場合に適用するもので、この管理基準が特別仕様書と一致しない場合は特別仕様書が優先する。

## 3 施工管理の実施

- (1) 施工管理の実施にあたっては、農林水産省農村振興局制定の土木工事施工管理基準に準拠するものとし別表Ⅰ、Ⅲについて次の項目を追加する。
- (2) 施工管理記録様式については、8-5 施工管理記録様式を標準とする。

### ① 品質管理

工 種		試験（測定）項目	試 験 方 法	試験（測定）基準	規 格 値	管理方式
堤 体 盛	コアー	含水量試験	現場含水比測定法	盛土作業をする日すべて	(管理値) D 値 90%以上	8-5 (2)
		締固め密度の測定	現場密度測定法	盛土高さ 1.0m 上がるごとにおおむね 40.0m 間隔で1回行うものとする。	D 値 90%以上	8-5 (3)
		透水係数の測定	現場透水係数測定法		$1 \times 10^{-5} \text{cm/sec}$ 以下	
土	ランダム	含水量試験	現場含水比測定法	コアーと同一とする。	コアーと同一とする	
		締固め密度の測定	現場密度測定法	〃	〃	

② 直接測定による出来形管理

工種	種類目	管理基準値 (mm)	規格値 (mm)	測定基準
堤体工	基準高 V	±50	±75	施工延長おおむね 20m につき 1 か所 の割合いで測定す る。上記未満は 2 か 所測定する。
	堤体幅 W	天端幅 +300 小段幅等 -100	- 150	
	法長 L	±65 ±1.3% 5m 未満 5m 以上	- 100 - 2%	
	施工延長		- 200	
	ゾーン幅 B	コアー +300 - 0	+500 - 0	
		ランダム +300 - 65	+500 -100	

管理図表による 様式 3・2	管理方法		測定箇所標準図
	結果一覽表 による 様式 3・3	構造図に朱記 併記するもの	
管理図表による 様式 3・2	左記のもので 20 点未満のもの	左記のもので 20 点未満のもの	
ゾーン幅で、20 点以上のもの	左記のもので 20 点未満のもの		

③ 撮影記録による出来形管理

工 種	撮 影 基 準	撮 影 箇 所	備 考
1. 堤体工	施工延長おおむね 20m～40mにつき 1 箇所の割合で撮影する。	盛土幅員、仮盛土幅員、まき出し厚さ、転圧、法長、法面（芝）、その他必要箇所を撮影する。	
2. 洪水吐工	おおむね 2 スパンにつき 1 箇所の割合で撮影する。箇所単位の構造物については適宜撮影する。	床掘、基礎、幅、高さ、配筋、打継目、外観検査、ジョイント関係、その他必要箇所を撮影する。	
3. 樋管工 同上付帯構造物 (土砂吐きゲート)	施工延長おおむね 10 mにつき 1 箇所の割合で撮影する。箇所単位の構造物については適宜撮影する。	床掘、基礎、幅、高さ、厚さ、配筋、打継目、その他必要箇所を撮影する。	

## 4 ため池工事の盛土管理

### (1) 盛土管理の目的

ため池工事は現場付近から得られる土質材料を用いて施工されるため、施工段階において十分その品質の均一性を確保し、堤体機能が十分設計値を満足するようにしなければならない。このため、盛土管理では目視による管理、試験による管理が実施されなければならない。

### (2) 目視管理

目視管理は、材料状態はよいか、施工方法が正しく行なわれているか、均一性は保たれているか等を、常に施工の状態を観察して判断するものである。目視管理項目としては次の項目がある。

#### ① まき出し厚さのチェック

全体あるいは部分的に厚すぎないか、転圧面とのなじみはよいか

#### ② 含水比のチェック

基準値をはずれていないか、全体に均一か

#### ③ 粒度状態のチェック

オーバサイズはないか、全体に均一か

#### ④ 転圧作業状況のチェック

締固め回数は不足していないか、未転圧部分はないか、締固め機械は正常であるか

#### ⑤ 着岩部状態のチェック

岩盤部の清掃はなされているか、岩盤の状態はどうか、材料はあらくないか

#### ⑥ 湧水処理状況のチェック

湧水は確実に処理されているか

### (3) 試験による管理

試験による管理は、適切な管理基準を定め、それに基づいて試験を行いその結果によって管理するものであり、試験結果はその個々の値について判定すると同時に、統計的な手法によって全体的な均一性についても判定する。試験による管理は以下の項目について行う。

#### ① 含水量 …… 所要の密度・透水度を確保しうる材料の検討

#### ② 密度 …… 堤体盛土の力学的安全性・施工の均一性の検討

#### ③ 透水度 …… 堤体盛土の浸透に対する安全性の検討

### (4) 盛土の管理基準値

盛土の管理基準値は、設計時に意図した条件と施工方法との総合的見地から、安全かつ経済的で、しかも実施可能な範囲で選定される。したがって、盛土管理基準値は設計条件を満足していると同時に、選定された施工方法によって容易に得られるものでなければならない。これらは室内試験や試験盛土の結果に基づいて決められる。

#### ① 含水量

標準突固め試験における最適含水比の $-1\% \sim +3\%$ くらいの範囲で所要の締固め度が得られる含水比（図 8-1 参照）と、施工性等を考慮して許容含水比を設定する。含水比が高すぎるとローラー走行時にウェービングが発生し易くなるが、湿潤側の方が透水係数が小さくなり水密性である。従ってため池盛土等においては、やや湿潤側で施工することが望ましい。

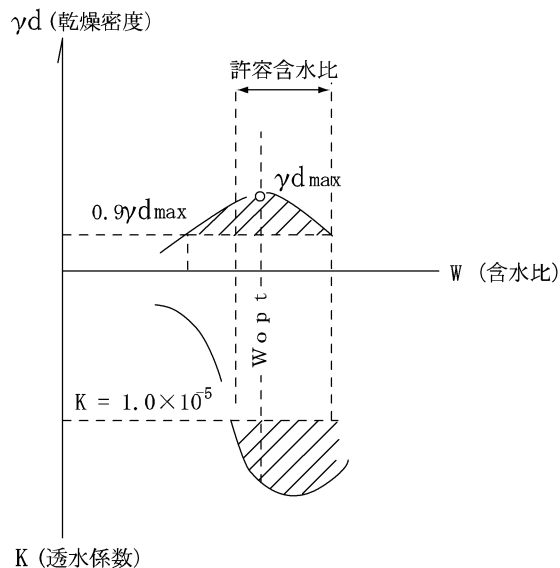


図 8-1 許容含水比

② 密 度

堤体安定上必要とされる設計密度が確保されるよう堤体規模、施工条件などを勘案し、現場乾燥密度測定値の礫を除いた部分の乾燥密度と標準突固め試験の最大乾燥密度の比で表わされる締固め百分率（D 値）で設定する。

③ 透 水 度

堤体機能を満足させ得る設計透水性が確保されるように現場透水係数（K 値）を設定する。ただし室内透水試験より求められる透水係数は垂直方向透水係数  $K_v$  であり、現場透水係数  $K$  は式 8-1 で求められる。

$$K = \sqrt{K_v \cdot K_H} \quad \dots\dots\dots \text{式 8-1}$$

ただし  $K_v$ ： 垂直方向透水係数

$K_H$ ： 水平方向透水係数

タイヤローラー施工の場合  $K_v/K_H = 1/20 \sim 1/30$  であり、現場透水係数  $K$  は室内透水試験の 5 倍程度となるので、室内透水試験値は  $1.0 \times 10^{-6}$  程度が確保されることが望ましい。

④ 試験頻度

これらの試験は代表的な品質を示す位置を選んで定期的に測定をする。しかし、これ以外にも目視管理で結果が疑わしい箇所があればその都度実施する。

試験結果が基準値をはずれる場合は、その原因を調べ、再転圧や材料の除去などの処置をとる。また、基準値をはずれる度合いが多かったり、基準値内にあっても、その値が基準値の下限付近に連続してかたよるような場合は、すみやかにその原因を追及し、必要に応じて施工方法や土取場の変更をするように処置を講じなければならない。

(5) 試験方法

① 現場含水比測定法

① フライパンを用いる方法

① 適 用

試料をフライパンなどの耐熱性の高い容器に入れて、ヘラでかき混ぜながら、電熱器、コンロなどで直接熱して乾燥させる方法である。

したがって、乾燥温度によって著しく含水比が変わる細粒土や、熱によって変質するおそれのある土、有機物を含んだ土には適用できない。

また、あらかじめ JISA1203 に規定する含水比に近い値が出るように、土質、含水状態、試料の量などに対する適当な乾燥時間を調べて、規定しておくか、あるいはあらかじめ JIS 値との差を確かめておき重量に応じて補正できるようにしておくことが必要である。

表 8-1 含水比測定に必要な試料の量\*1

粗粒子の最大寸法 (mm)	試料最小必要量 (g)
150 以下	5,000
100 "	3,000
50 "	2,000
4.8 "	200

⑥ 含水比測定に必要な試料の量

試料中の粗粒分の最大寸法が大きいものほど、多量の試料を取らなければならない。標準は表 8-1 に示すとおりである。

⑦ 試験用具

㊦ フライパン：

径 20～30cm 程度のもの

㊧ はかり（秤）：容量 10kg、感量 5g

㊨ 加熱装置：500W 程度の電熱器またはコンロ

⑧ 測定方法

㊦ 粗粒子の最大寸法に応じて、必要な試料を 4 分法によって取り出し、湿土重量をはかる。

㊧ 試料をフライパンに入れ、所要時間だけ乾燥する。

㊨ 乾燥した試料を室温になるまでさまし、乾燥土重量をはかる。

㊩ 含水比を式 8-2 から求める。

$$\text{含水比 } (\omega) = \frac{(\text{湿土重}) - (\text{乾土重})}{\text{乾土重}} \times 100 \quad \dots\dots\text{式 8-2}$$

⑨ アルコール燃焼法

試料を蒸発皿に入れ、試料が液状になるまでアルコールを加えて攪拌し、点火してガラス棒などでかき回しながら燃焼させる方法である。アルコールの燃焼によって変質するおそれのある土や、有機質土には適さない。

⑩ 赤外線乾燥法

赤外線ランプにより試料を照射し、急速に試料を乾燥させる方法である。

⑪ 現場密度測定法

① 密度測定標準法（突き砂置換法）

㊰ 適用

この方法は 4.76mm 以上（以下「+4#」という。）の粗粒分が 60%より少なく、最大粒径が 150mm 以下のもので膨張性粘土を除いたすべての土の密度測定に適用する。試験孔の大きさは 20cm（粗粒分の最大粒径が 100mm 未満のとき適用）と 30cm（粗粒分の最大粒径が 100～150mm のとき適用）の 2 種類とする。

㊱ 試験用具

㊦ ベースプレート

図 8-2 に示す装置で、内径 20cm 又は 30cm の鉄製型板。

㊧ 突き棒

JIS A1101「スランプ試験方法」に規定されている直径 16mm、長さ 50cm の先端を鋭くとがらせた鉄棒。

㊨ カラー

砂を突く場合、ベースプレートにかぶせるもので、内径 20cm 又は 30cm、高さ 5cm の

鉄製円筒。

- ⑤ ストレートエッジ  
長さ約 40cm の鋼製のもの。
  - ⑥ 移植ゴテ  
試料採取用。
  - ⑦ 試験用砂の検定用容器  
内径 20cm、深さ 20cm の容器。
  - ⑧ 砂  
きれいで丸味があり粒径が一樣な乾燥砂、内径は 2.0mm フルイを通過し 0.4mm フルイに止まるもの。ただし礫まじり土で粒子間に肉眼で見えるほどの間隙があるときは、同質の砂で 4.8mm フルイを通過し、2.0mm フルイに止まるもの。
  - ⑨ ビニール袋又はその他の密閉できる容器  
容量 15ℓ (径 20cm のベースプレート使用のとき) 又は 30ℓ (径 30cm のベースプレート使用のとき) のもの。
  - ⑩ フルイ  
材料のフルイ分けに使用するフルイ目 4# (4.76mm (以下同じ)) の木枠のフルイ。
  - ⑪ ハカリ  
容量 20kg (径 20cm のベースプレート使用のとき) 又は 50kg (径 30cm のベースプレート使用のとき)、感量 10g 又は 20g。
- ㉔ 準備 (砂の単位体積重量の検定と試験準備)
- ㉕ 検定用容器にカラーを重ね、カラーの上面まで乾燥砂を注ぎ込み、カラーの上でほぼ水平になるように軽くならす。
  - ㉖ 容器内の砂を突き棒で、全面にわたり螺旋状に一定密度になるまで (普通 40~50 回) 突く。押し込み深さは、容器深さの約 80% までとする。
  - ㉗ カラーをはずし容器の上面をストレートエッジで平らにならし (容器+砂) の重量を測定して単位体積重量を求める。この作業を 3~5 回繰返して行い測定値のちらばりが少なければ、平均単位体積重量を求めて検定値とする。

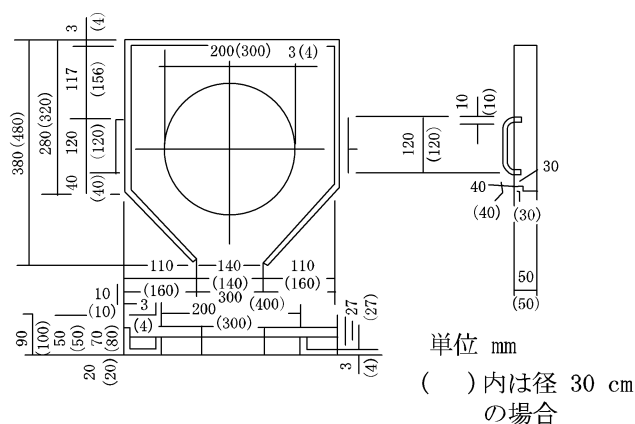


図 8-2 ベースプレート標準図 (内径 20cm 又は 30cm)

- ㉔ 現場測定
- ㉕ タンピングローラー等の転圧により地表面の緩んでいる場合は、ブルドーザ又は人力によって、約 15cm 深さまで平らに掘削する。掘削面積は、ブルドーザの場合約 2m、人力

の場合幅 70cm、長さ 70cm 程度とする。

- ① 締固められた土に含まれる粗粒分の最大寸法が 100mm 以下のときは、径 20cm ベースプレートを又最大寸法が 100～150mm に達する粗粒分を含むときは、径 30cm のベースプレートを使用する。
- ② 掘削面を、更に凹凸のないよう平面に仕上げ、その中央にベースプレートを水平に密着させておき、移植ゴテを用いてプレートの穴に沿って、できるだけ鉛直に穴の径と同程度の深さまで円筒状の穴を掘り、掘削した土をとり出す。その際、移植ゴテで土を掘りとることができないくらい、土がよく締固まっている場合は、ビットその他を使用してもよいが、穴の底を規定の深さ以上に乱さないように注意する。
- ③ 掘りとった土は、わずかな量も失わないようにビニール袋等に移し、全重量を測定する。この際、袋に穴の番号、測点番号等を記入しておく。土の乾燥、漏失等による誤差を防ぐためには、現場でただちに測定を行うことが望ましい。
- ④ 次にベースプレートにカラーを取付け、容器に入れて準備した砂を穴にいっぱい満たし、突き棒で全面にわたり、螺旋状に一定密度になるまでの回数（普通 40～50 回）突く。押込みの深さは、穴の深さの約 80% までとする。
- ⑤ カラーをはずし、ベースプレートの上面をストレートエッジで平にならす。ベースプレート上に残った砂は、わずかな量も失わないようにして、もとの容器に戻し残砂重量を測定する。この際容器には穴の番号、測点番号などを記入しておく。  
穴中の砂は、土の混じっている部分を除くなどすれば、反復使用して差支えない。
- ⑥ 締固め密度を式 8-3 から求める。

$$\text{盛土湿潤密度 } (f_{\gamma t}) = \frac{\text{採取試料の重量}}{\text{穴の体積}} \quad (\text{gf/cm}^3) \quad \dots\dots\text{式 8-3}$$

- ⑦ 採取した試料は重量を測定したのち、4# フレイ目の木枠フレイを用いて、残留する粗粒分（礫）と通過分（土）とに分ける。この作業は土の乾燥を防ぐため急速に行う。
- ⑧ 4# フレイに通過分の重量測定
- ⑨                 "                 乾燥重量測定
- ⑩ 4# フレイに残留した礫は、フレイ上で水洗いし、礫に付着している細粒分はよく洗いおとし、水を切ったのち、布きれで表面の水をぬぐいとり、表面乾燥飽和状態にして重量をはかる。試料の湿土重量に対する礫含有率 P' は、式 8-4 によって求められる。

$$P' = \frac{\text{礫の表乾重量}}{\text{採取試料の全湿土重}} \times 100 \quad \dots\dots\text{式 8-4}$$

- ⑪ 4.76mm 以下（以下「-4#」という。）の土のみ締固め密度を式 8-5 から求める。

$$\text{-4# 盛土湿潤密度 (-4# } f_{\gamma t}) = \frac{(\text{全湿土重}) - (\text{礫の表乾重量})}{(\text{穴の体積}) - \left[ \frac{\text{礫の表乾重量}}{\text{礫の見かけ比重}} \right]} \quad (\text{gf/cm}^3) \quad \dots\dots\text{式 8-5}$$

- ⑫ 礫と土の含水比を測定すれば、盛立て乾燥密度、乾土重に対する礫含有率 P を、式 8-6、8-7、8-8 から求めることができる。

$$\begin{aligned} \text{盛土乾燥密度 (} f \gamma d) &= \frac{\text{全試料盛土湿潤密度}}{1 + (\text{全試料の含水比})} \\ &= \frac{(\text{礫の表乾重量}) + \frac{(-4\# \text{ 試料湿土重})}{1 + (-4\# \text{ 試料含水比})}}{\text{穴の体積}} \quad (\text{gf/cm}^3) \end{aligned}$$

……式 8-6

$$-4\# \text{ 盛立て乾燥密度 } (-4\# \text{ } f \gamma d) = \frac{-4\# \text{ 試料盛立て湿潤密度}}{1 + (-4\# \text{ 試料含水比})} \quad (\text{gf/cm}^3)$$

……式 8-7

$$P = \frac{(\text{礫の表乾重量})}{(\text{礫の表乾重量}) + \frac{(\text{全試料湿土重}) - (\text{礫の表乾重量})}{1 + (-4\# \text{ 試料含水比})}} \times 100$$

……式 8-8

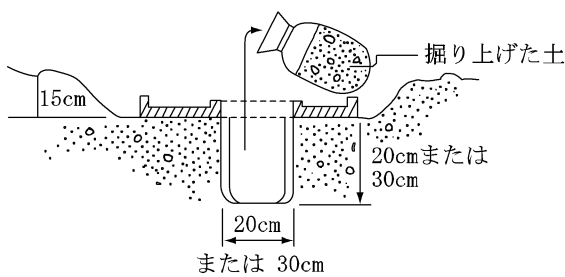


図 8-3 掘削土の採取要領

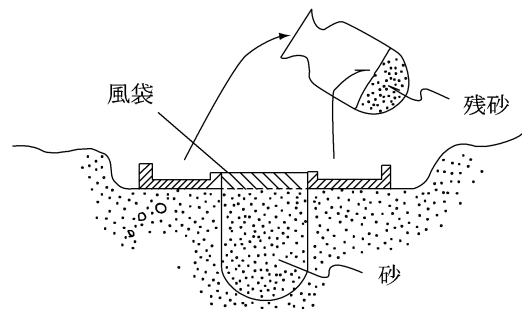


図 8-4 残砂の回収要領

⑤ 水置換法

標準法と同じく試験穴を掘削し、堀りとした土の重量を測定するとともに、試験穴の体積を水置換によって測定する方法で、特に多量の砂礫材料について、大きな径の孔を掘削する場合に適用する。

⑥ 密度測定特別法

締固めた土の密度測定法には各種あって、それらは対象となる土質（特に粒度と最大粒径）によって適性と精度が異なるので、標準法によるよりも簡便で所要の精度が得られる場合は、特別法によることもできる。

① モールド（カッター）法

定体積のサンプルによって土を採取し、その重量を測定する方法で、粗粒度分をほとんど含まない粘性土、特に高含水比粘性土に対して適用する。

② 注砂置換法（JIS A1214）に規定する方法その他

標準法と同じく試験孔を掘削し堀りとした土の重量を測定するとともに、試験穴の体積を注砂によって測定する方法で、同様な土質に適用する。

③ 整形または塊状試料による方法

採取した土塊の体積、重量を測定する方法で、特に非膨張性の粘性土、固結した礫まじり土にのみ適用する。

④ ガンマ線密度計・中性子水分計による現場密度・含水比の測定

① γ線を用い密度測定を行なう方法で、散乱型、透過型があり、測定が非破壊で迅速であるが、使用前に砂置換法等と比較を十分にチェックする必要がある。

② 中性子を用い水分量測定を行なう方法で、上記と同じく2方法の型があり、測定が非破壊で迅速であるが、上記と同じく炉乾燥法等と比較を十分にチェックする必要がある。

また、取扱い規制（放射性同位体元素等による放射線障害の防止に関する法律等）があるので十分注意すること。

盛土管理（現場密度） データシート

池名		試験日	令和	年	月	日
締固め機種		天候				
締固め方法		d=	cm	n=	試験者	
回			(1)	(2)	(3)	備考
試験地点	NO					
	EL					
①採取した湿土の重さ						
孔の体積	②準備した砂の重さ					
	③残砂の重さ					
	④孔に入った砂の重さ		②-③-風袋			
	⑤砂の単位体積重量		検定値			
	⑥孔の体積		④/⑤			
⑦盛土の湿潤密度 (TVt.)		①/⑥×100				
レキ含有率	⑧レキの重さ					
	⑨レキの含有率 (P')		⑧/①			小数値で示す
	⑩レキのみかけ比重					
⑪盛土の土の部分の湿潤密度		$\frac{①-⑧}{⑥-⑧/⑩}$				
含水比	⑫湿土の重さ					
	⑬乾土の重さ					
	⑭水分量		⑫-⑬			
基準値	⑮含水比 (W)		⑭/⑬			小数値で示す
	⑯P < 25%					標準突固め試験値 (礫補正後)
	⑰P ≥ 25%		$\frac{1}{⑨/⑩ + \frac{(1-⑨)}{⑰}}$			
D値	⑱盛土の土の乾燥密度		$\frac{⑪}{1+⑮}$			
	⑲D値 (P<25%)		⑱/⑰×100			
	⑳盛土の全材料乾燥密度		$\frac{1}{⑨/⑩ + \frac{(1-⑨)}{⑱}}$			
	㉑D値 (P≥25%)		㉑/⑰×100			

データシートにより順次行う。現場で測定する事項は番号①②③⑧⑫⑬

③ 現場透水係数測定法

④ 試験器具

- ① メスシリンダー (1,000cc 容器)
- ② 時 計

⑤ 準備事項

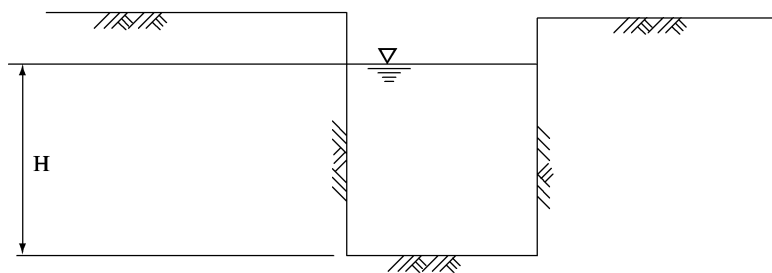
- ① 現場密度測定した穴を利用して透水試験を行う。
- ② 穴はφ20cmの円筒型に整形する。
- ③ 水深(H)が20~26cmになるように水を入れる。

⑥ 現場透水性測定

- ① 穴の底面から水面までの水深(H)を測定する。
- ② 水面を一定にするため印をつける。
- ③ 一定水面において注入量(Q')と注入時間を測定する。
- ④ データーシートにおいて現場で測定する事項は①②⑤⑦。

⑦ 測定時間

- ① 測定時間は1.0時間以上を目安とする。



サンプル No.		(1)	(2)	(3)	備考
試験地点	堤体 No.				
	標高				
時間	①測定開始時刻	○° ○′ ○″			
	② " 終了 "	○° ○′ ○″			
	③注 入 時 間 ①-②	○′ ○″			
	④注 入 時 間 (秒)	○″			
⑤注入量 (Q') cm <sup>3</sup>					
⑥単位当り注入量 (Q) cm <sup>3</sup> /sec		⑤÷④			
⑦水深 (H) cm					
⑧係数 (a)					
⑨透水係数 (K) cm/sec		⑥×⑧			

(係数一覧表)

H (cm)	20	21	22	23	24	25	26
a	$1.76 \times 10^{-4}$	$1.75 \times 10^{-4}$	$1.74 \times 10^{-4}$	$1.71 \times 10^{-4}$	$1.68 \times 10^{-4}$	$1.64 \times 10^{-4}$	$1.61 \times 10^{-4}$

〔係数算出式〕

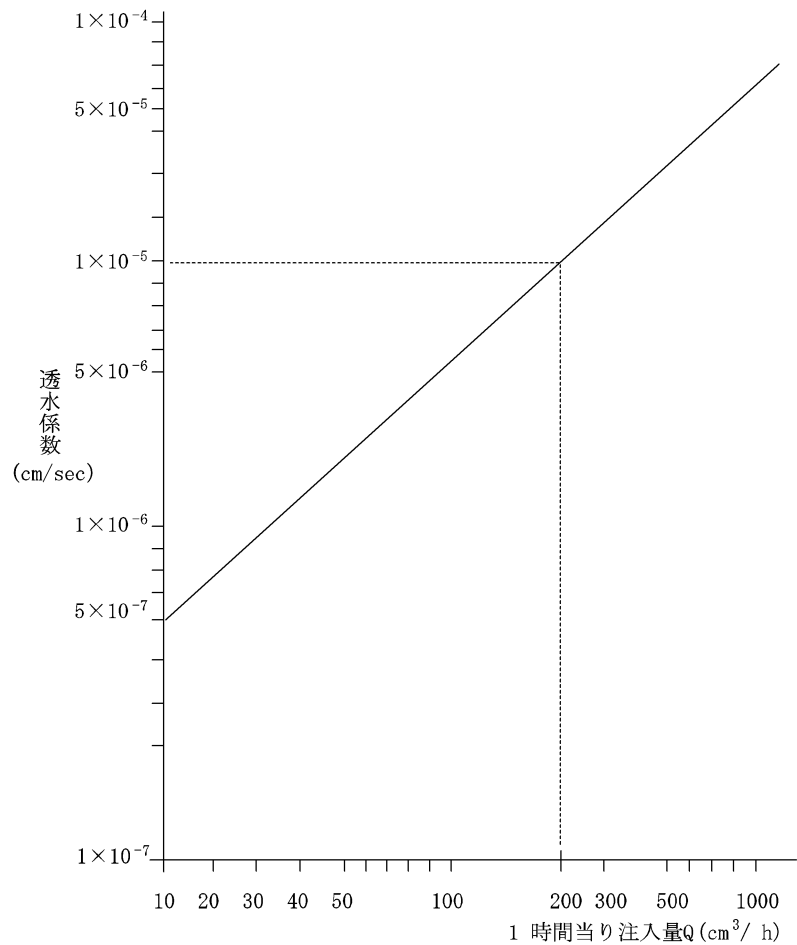
$$K = \frac{Q}{2\pi H^2} \left[ \log_e \left\{ \frac{H}{r} + \sqrt{1 + \left( \frac{H}{r} \right)^2} \right\} - 1 \right]$$

$$K = Q \times a$$

$$a = \frac{1}{2\pi H^2} \left[ 2.3 \log_{10} \left\{ \frac{H}{r} + \sqrt{1 + \left( \frac{H}{r} \right)^2} \right\} - 1 \right]$$

但し  $\pi = 3.14$

$r = 10\text{cm}$



$$K = \frac{Q}{2\pi H^2} \left[ 2.3 \log_{10} \left\{ \frac{H}{r} + \sqrt{1 + \left( \frac{H}{r} \right)^2} \right\} - 1 \right]$$

※K : 透水係数 (cm/sec)

Q : 1 時間当り注入量 (cm³/h)

H : 孔の水深 20cm

r : 孔の半径 10cm

【引用文献】

- \*1 社団法人 地盤工学会 地盤調査法
- \*2 " 土質試験の方法と解説





(3) 盛土管理記録表

池盛土管理記録表

請負会社名

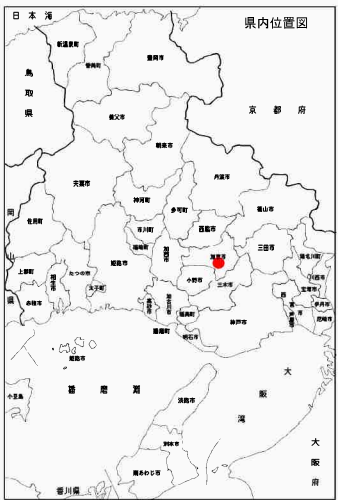
EL 年月日		管理値											
		測点	測定値										
含水比 w (%)	測定値												
	"												
	"												
	"												
透水係数 K (cm/sec)	測定値												
	"												
	"												
	"												
乾燥密度 rd (g/cm <sup>3</sup> ) rdmax = (%) D値 = $\frac{\gamma d}{\gamma d \max}$	D 値 100												
	D 値 90												
	(D 値) 測定	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
	"	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )
"	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	
"	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	( " )	

令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区 ため池改修工事 位置図

所在地 加東市栄枝

縮尺 1:25,000

県内位置図

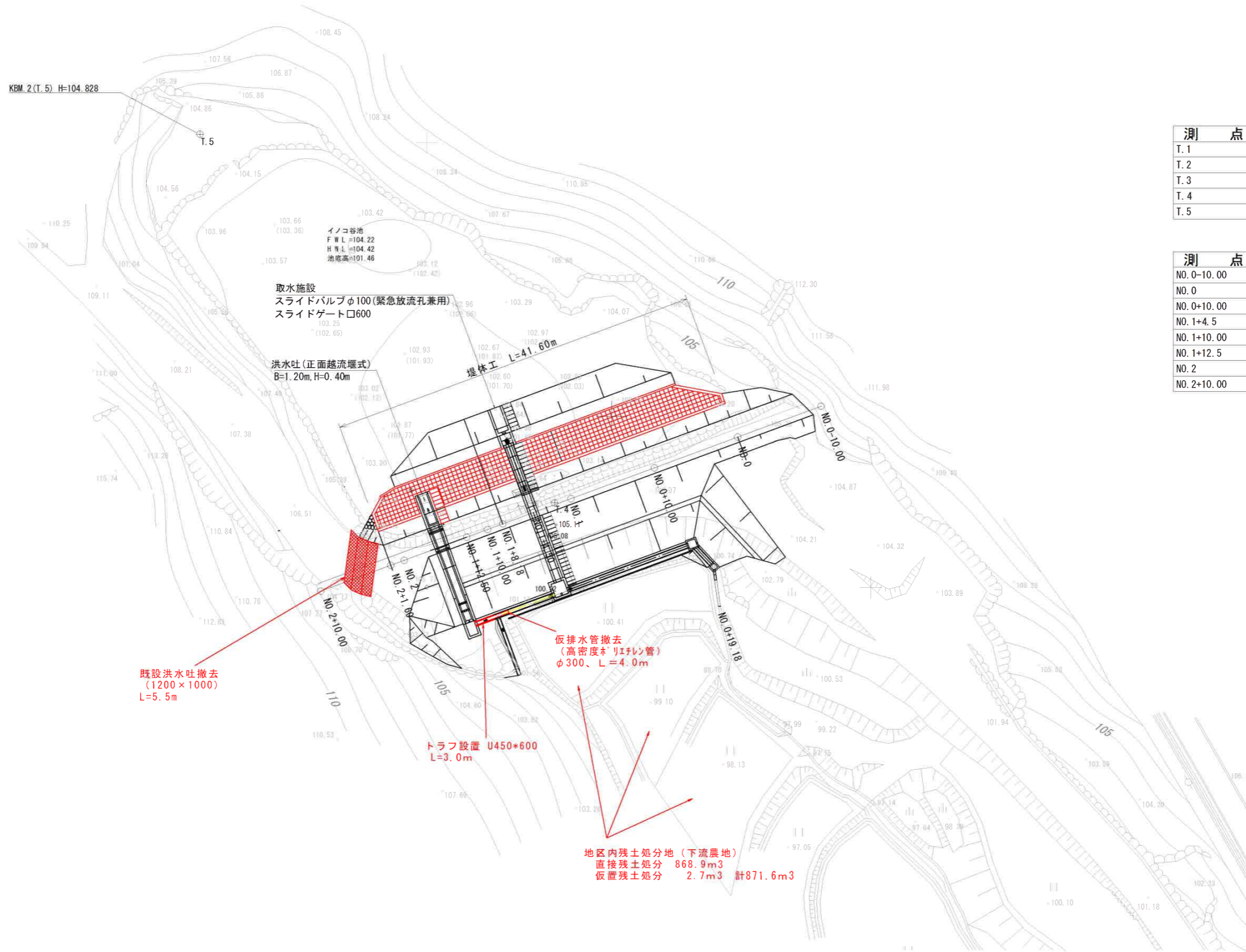


凡 例	
受益面積	( 0.9ha )
集水面積	( 1.9ha )
防災受益面積	( 2.8ha )



# 計画平面図

S=1:250



## 基準点座標リスト

測点	X	Y
T. 1	-122445.590	63201.100
T. 2	-122400.305	63122.094
T. 3	-122349.394	63086.845
T. 4	-122290.508	63014.348
T. 5	-122249.030	62974.466

## 堤体測点座標リスト

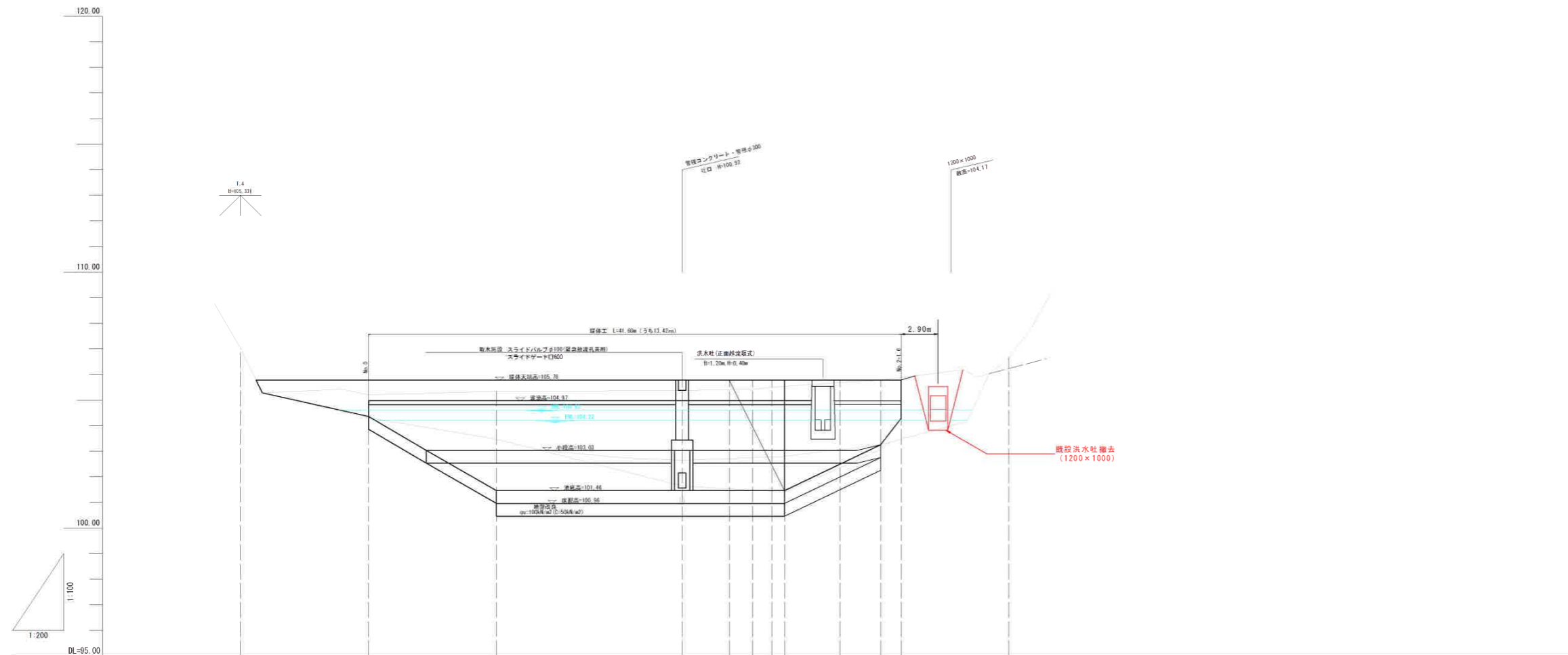
測点	X	Y
NO. 0-10.00	-122279.634	63044.335
NO. 0	-122283.100	63034.955
NO. 0+10.00	-122286.567	63025.575
NO. 1+4.5	-122291.593	63011.974
NO. 1+10.00	-122293.499	63006.815
NO. 1+12.5	-122294.366	63004.470
NO. 2	-122296.966	62997.435
NO. 2+10.00	-122300.432	62988.055

## 当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷地区ため池改修工事		
図面名	計画平面図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	1
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

# 縦断面図

縮尺 H=1:200 V=1:100



勾配										
提頂高		105.79	105.79	105.79	105.79	105.79	105.79	105.79	105.79	105.79
基礎地盤高		104.35	101.46	101.46	101.46	101.46	101.46	101.46	101.46	101.46
床掘高			100.96	100.96	100.96	100.96	100.96	100.96	100.96	100.96
地盤高	107.04	105.20	105.34	105.37	105.37	105.42	105.42	105.42	105.42	105.65
追加距離	0.00	10.00	20.00	34.00	38.78	40.00	41.00	42.00	46.82	50.00
単距離	0.00	10.00	10.00	14.00	3.68	1.82	1.00	1.00	4.32	3.18
測点	M0.0-10.0	M0.0	M0.0-10.00	M0.1-4.00	M0.1-6.18	M0.1-10.00	M0.1-11.00	M0.1-12.00	M0.1-16.82	M0.2
曲線										

当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷地区ため池改修工事		
図面名	縦断面図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	2
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

# 標準断面図

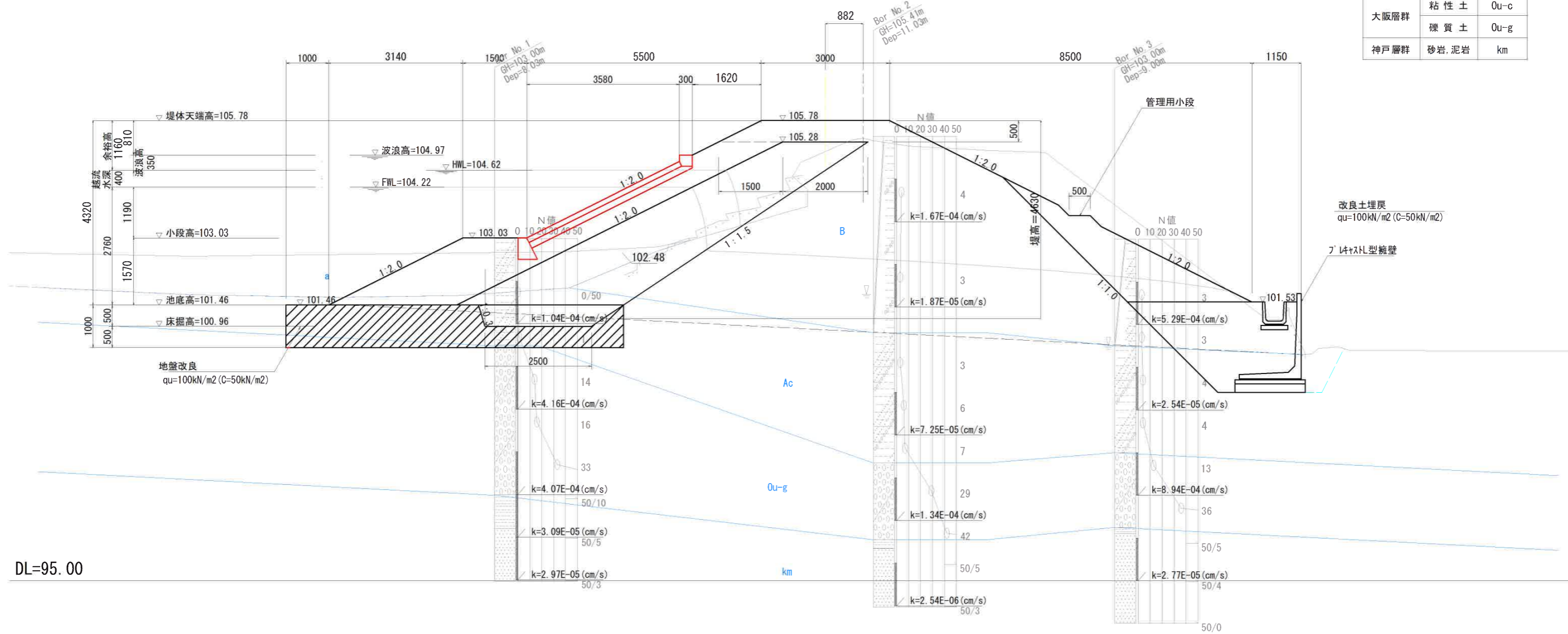
S=1:50

NO. 1+4.50

GH=105.37  
FH=

## 土層凡例

土層名	土層記号
池底堆積物	a
盛土層	B
沖積層	粘性土 Ac
大阪層群	粘性土 Ou-c
	礫質土 Ou-g
神戸層群	砂岩、泥岩 km



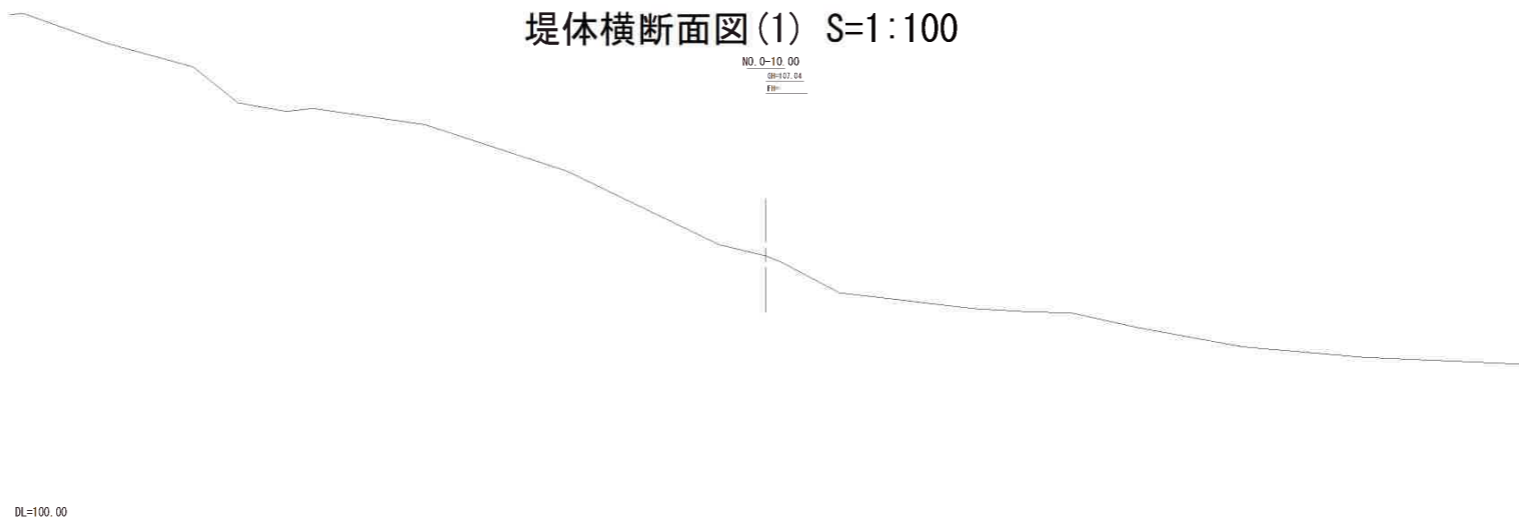
DL=95.00

## 当初

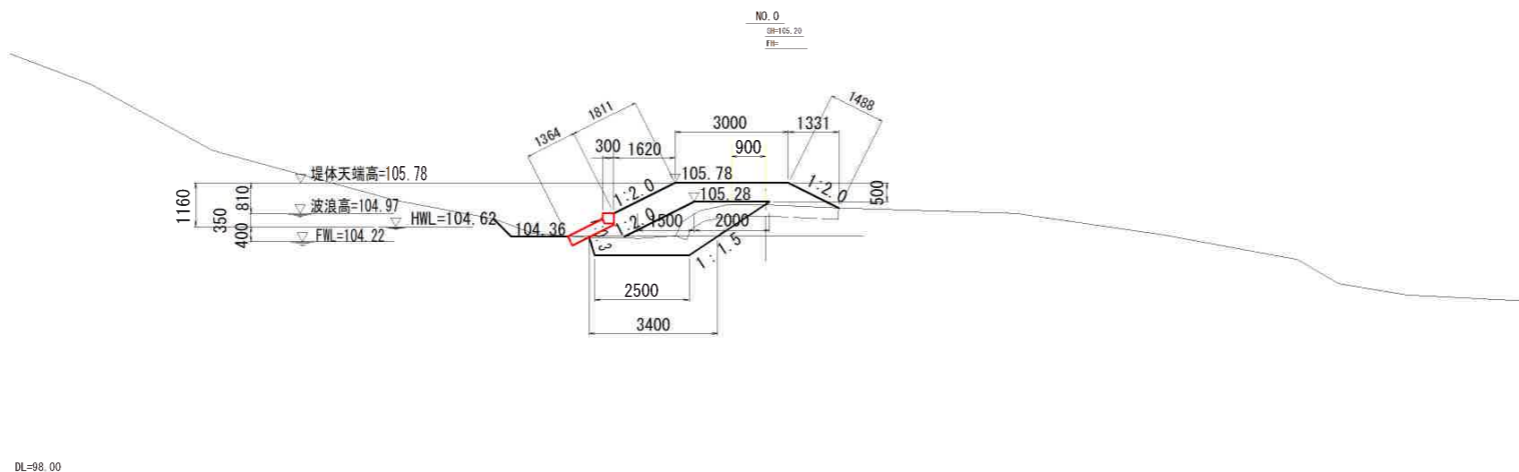
業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷地区ため池改修工事		
図面名	堤体標準断面図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	3
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

# 堤体横断面図(1) S=1:100

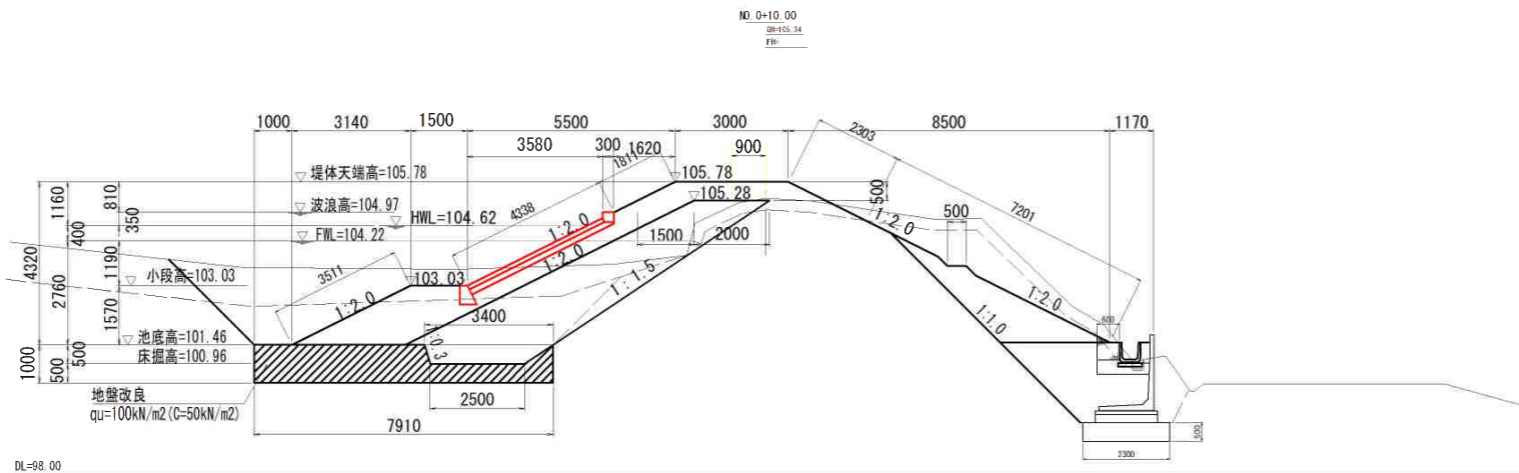
NO. 0-10.00  
 28=107.84  
 尺:



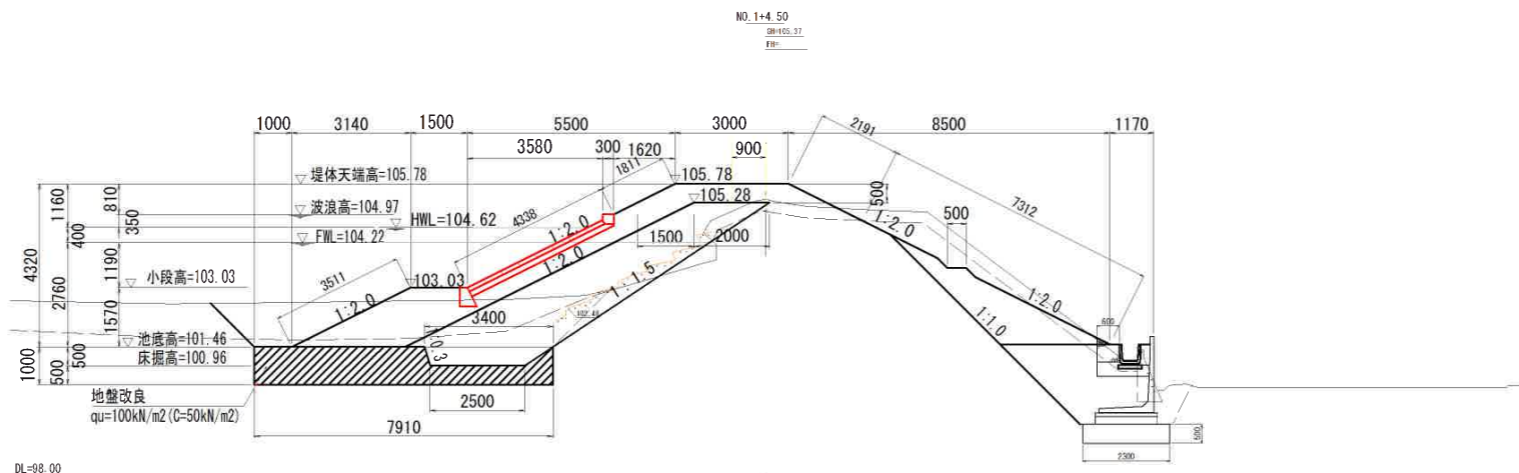
NO. 0  
 28=105.78  
 尺:



NO. 0+10.00  
 28=105.34  
 尺:



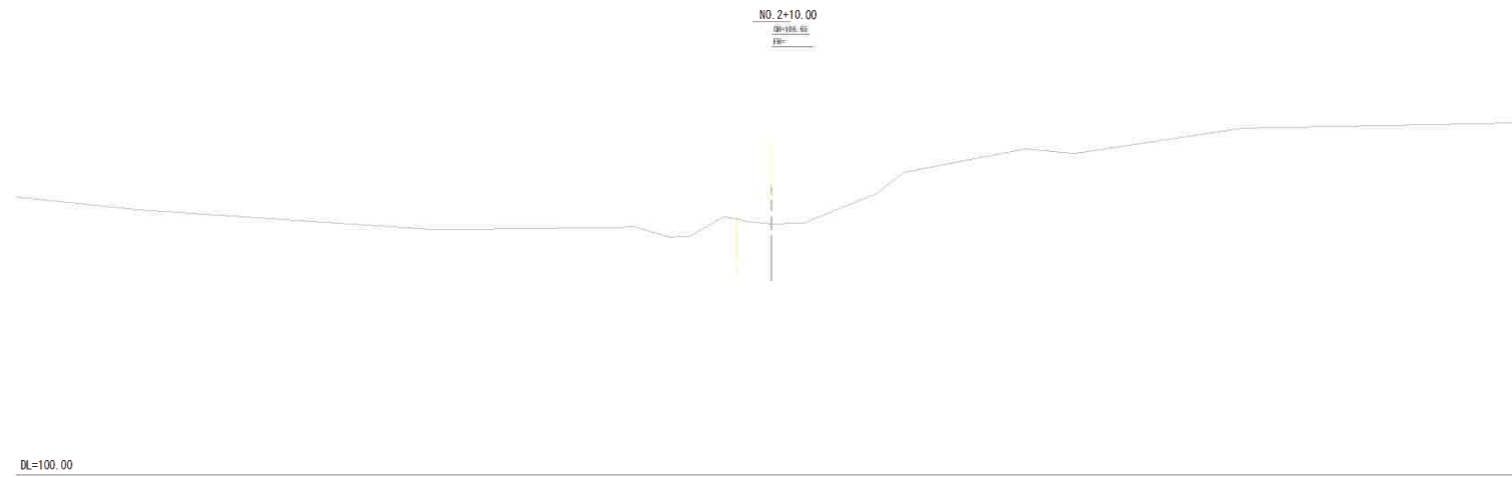
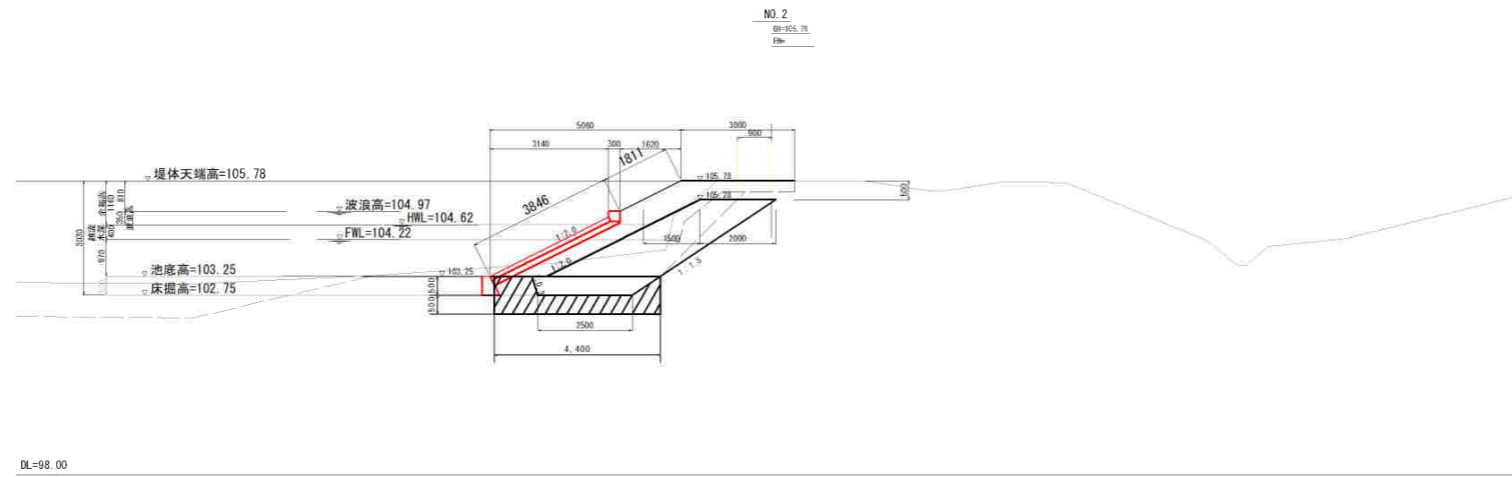
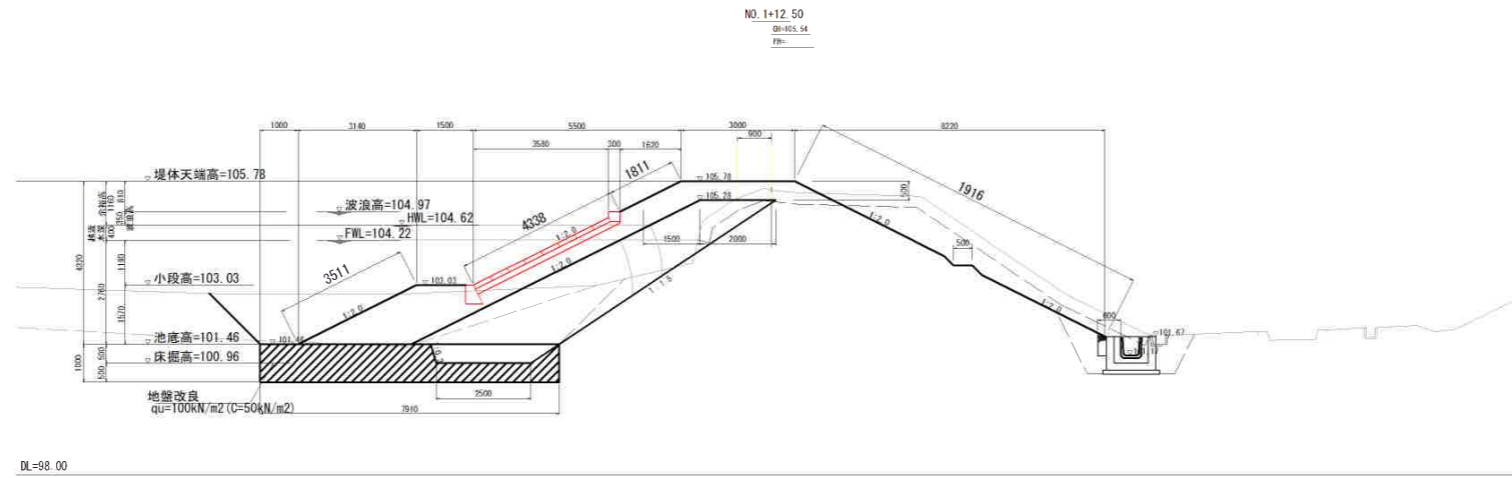
NO. 1+4.50  
 28=105.31  
 尺:



当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事		
図面名	横断面図1		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	4-1
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

# 堤体横断面図(2) S=1:100



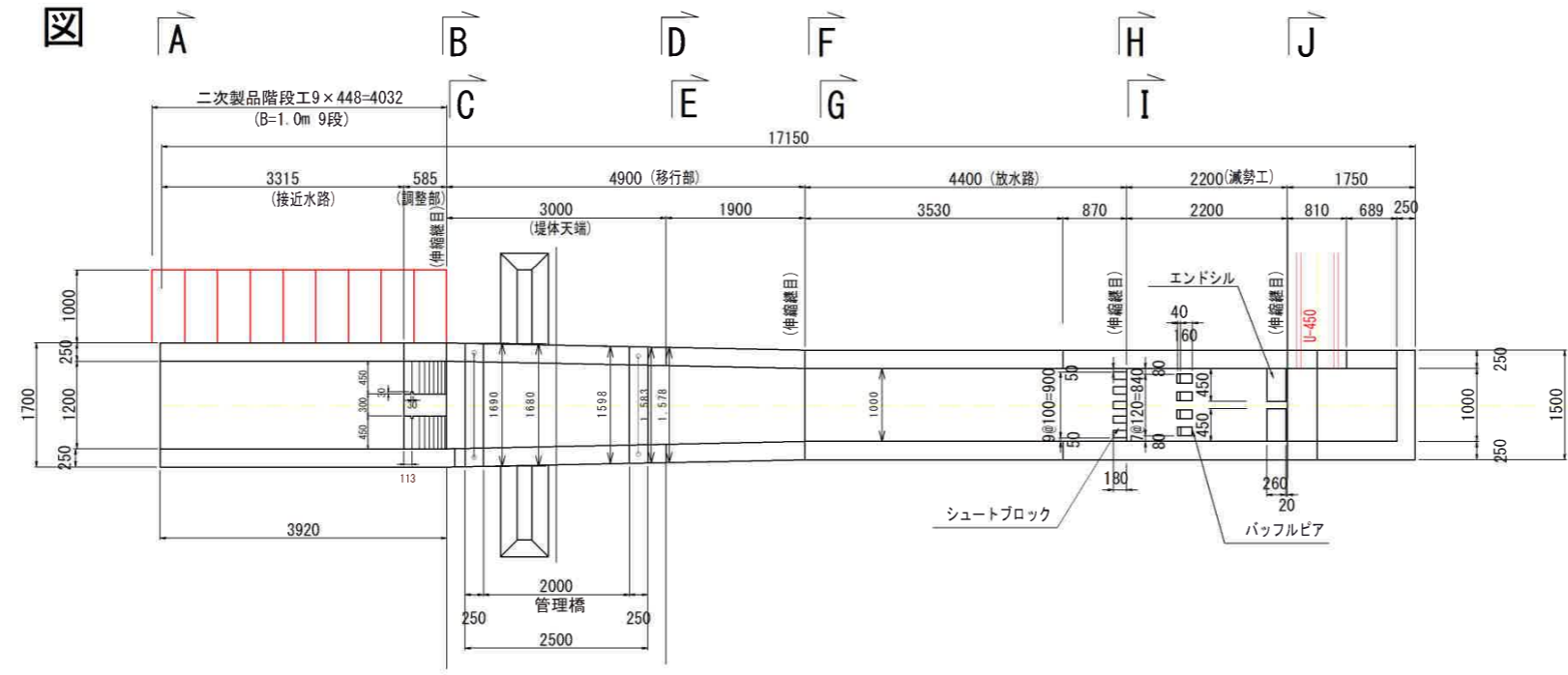
当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノ谷池地区ため池改修工事		
図面名	横断面図2		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	4-2
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

# 洪水吐工構造図(1)

S=1:50

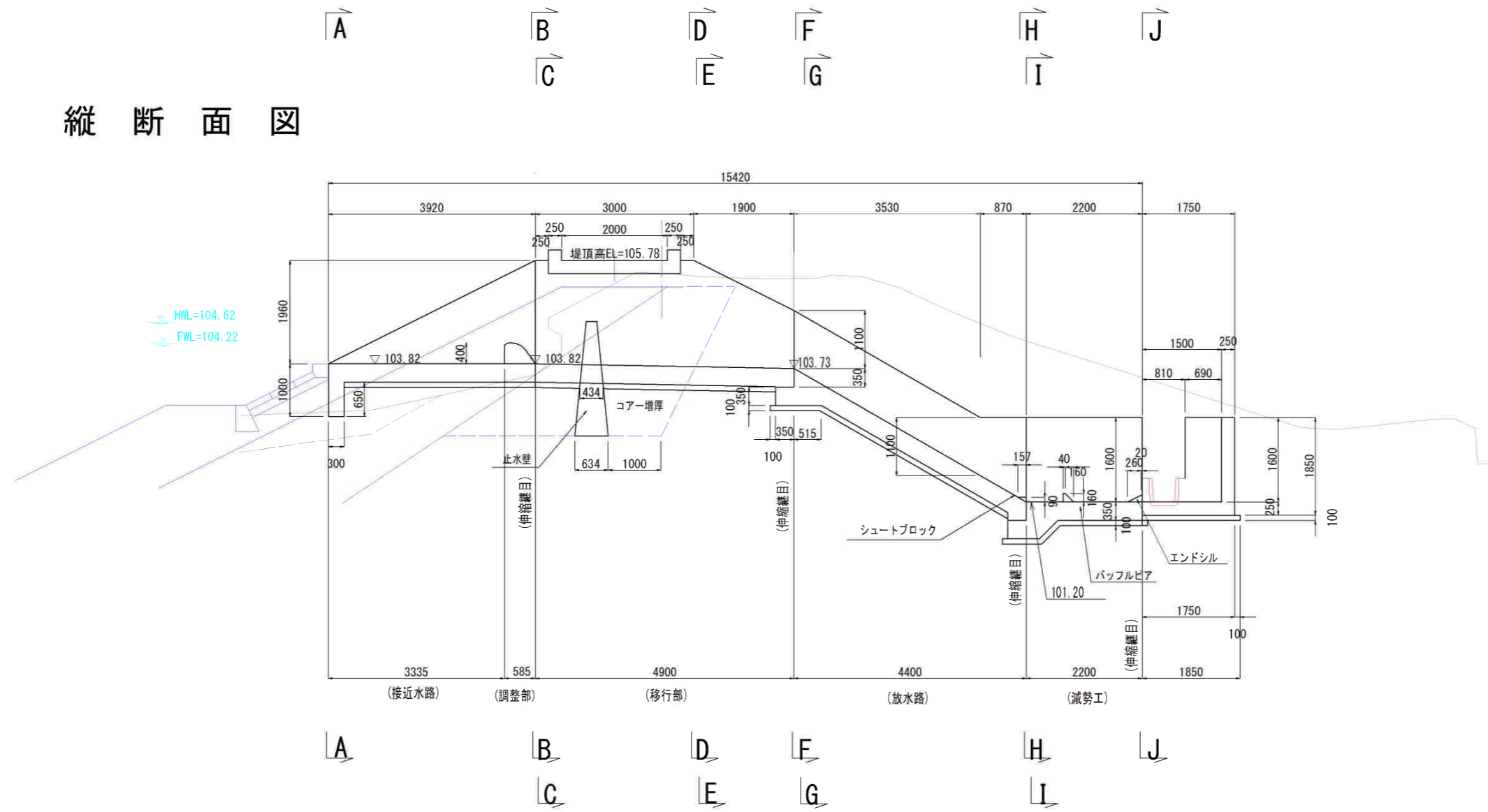
## 平面図



### 必要地盤反力度

位置	必要地盤反力度KN/m <sup>2</sup>
流入部	44 KN/m <sup>2</sup>
移行部	79 KN/m <sup>2</sup>
放水路	25 KN/m <sup>2</sup>
減勢工	35 KN/m <sup>2</sup>

## 縦断面図

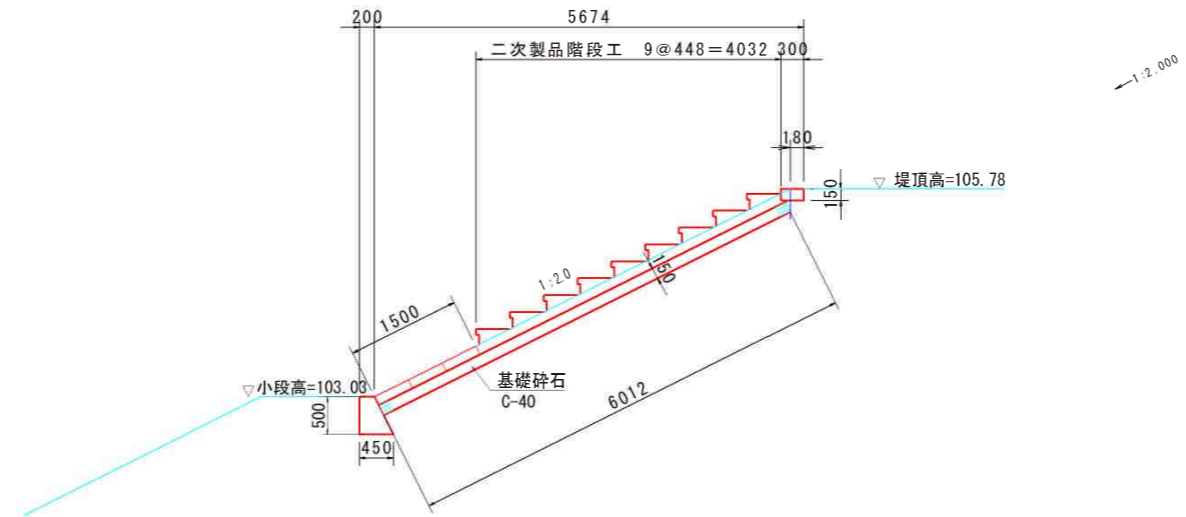


### 当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事		
図面名	洪水吐工構造図(1)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	5-1
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

# 洪水吐階段工断面図

S=1:50



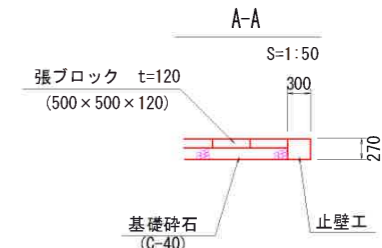
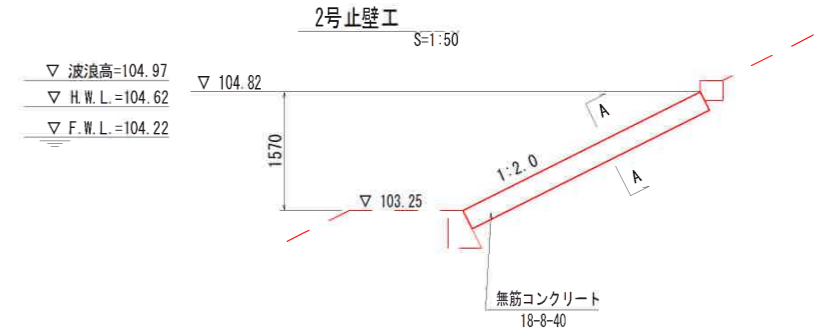
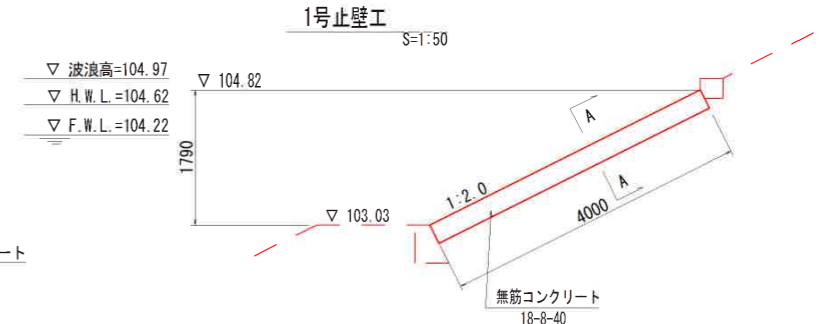
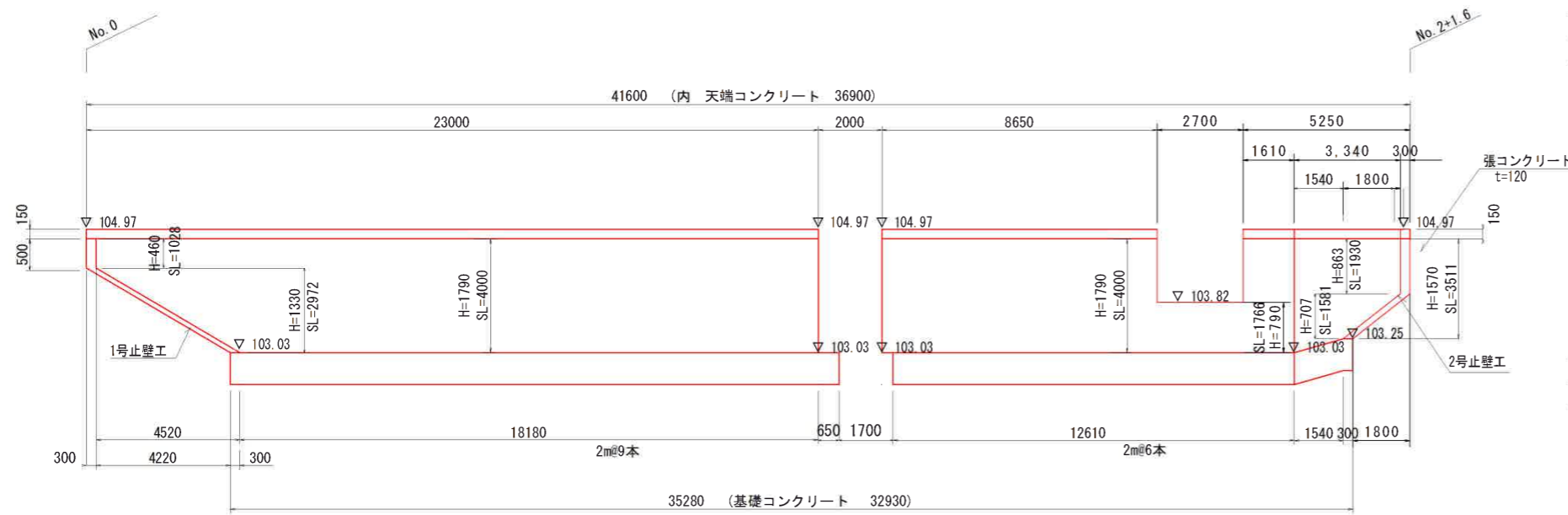
当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷池地区ため池改修工事		
図面名	洪水吐階段工断面図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	5-2
作業機関			
計画機関	兵庫県加東市		

# 法面保護工構造図

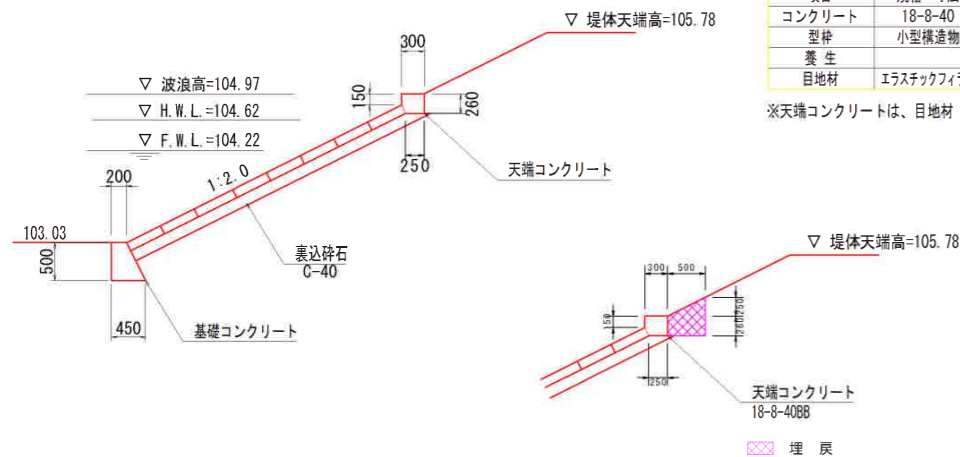
## 張ブロック展開図

縮尺 V=1:50  
H=1:100



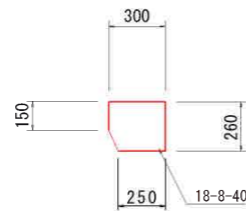
## 制波工 詳細図

S=1:50



## 天端コンクリート

S=1:20

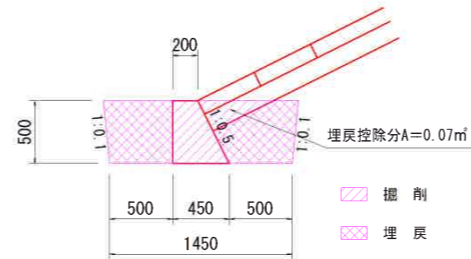


天端コンクリート 5.0m当り			
項目	規格・寸法	単位	数量
コンクリート	18-8-40	m <sup>3</sup>	0.38
型枠	小型構造物	m <sup>2</sup>	2.05
養生		m <sup>2</sup>	0.38
目地材	エラストックファイラー	m <sup>2</sup>	0.08

※天端コンクリートは、目地材（エラストック）を5mに1箇所設置する。

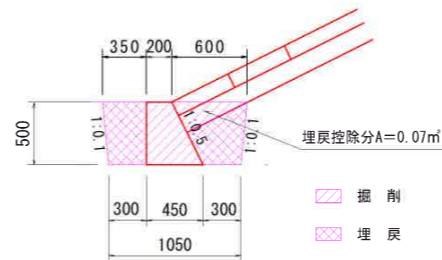
## 基礎コンクリート土工 (標準部)

S=1:30



## 基礎コンクリート土工 (2次製品)

S=1:30



基礎コンクリート 10.0m当り			
項目	規格・寸法	単位	数量
コンクリート	18-8-40	m <sup>3</sup>	1.63
型枠	小型構造物	m <sup>2</sup>	10.59
養生		m <sup>2</sup>	1.63
目地材	エラストックファイラー	m <sup>2</sup>	0.16
掘削		m <sup>2</sup>	7.50
埋戻	タンパ ランダム	m <sup>2</sup>	5.18
基面整正		m <sup>2</sup>	4.50

※基礎コンクリートは、目地材（エラストック）を10mに1箇所設置する。

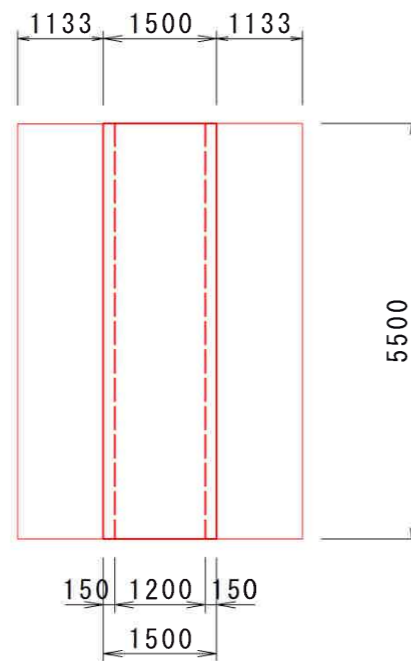
当初

工事名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業
図面名	法面保護工構造図
作成年月日	令和 年 月 日
縮尺	図示 図面番号 6
作業機関	
計画機関	兵庫県 加東市

# 既設洪水吐撤去工図

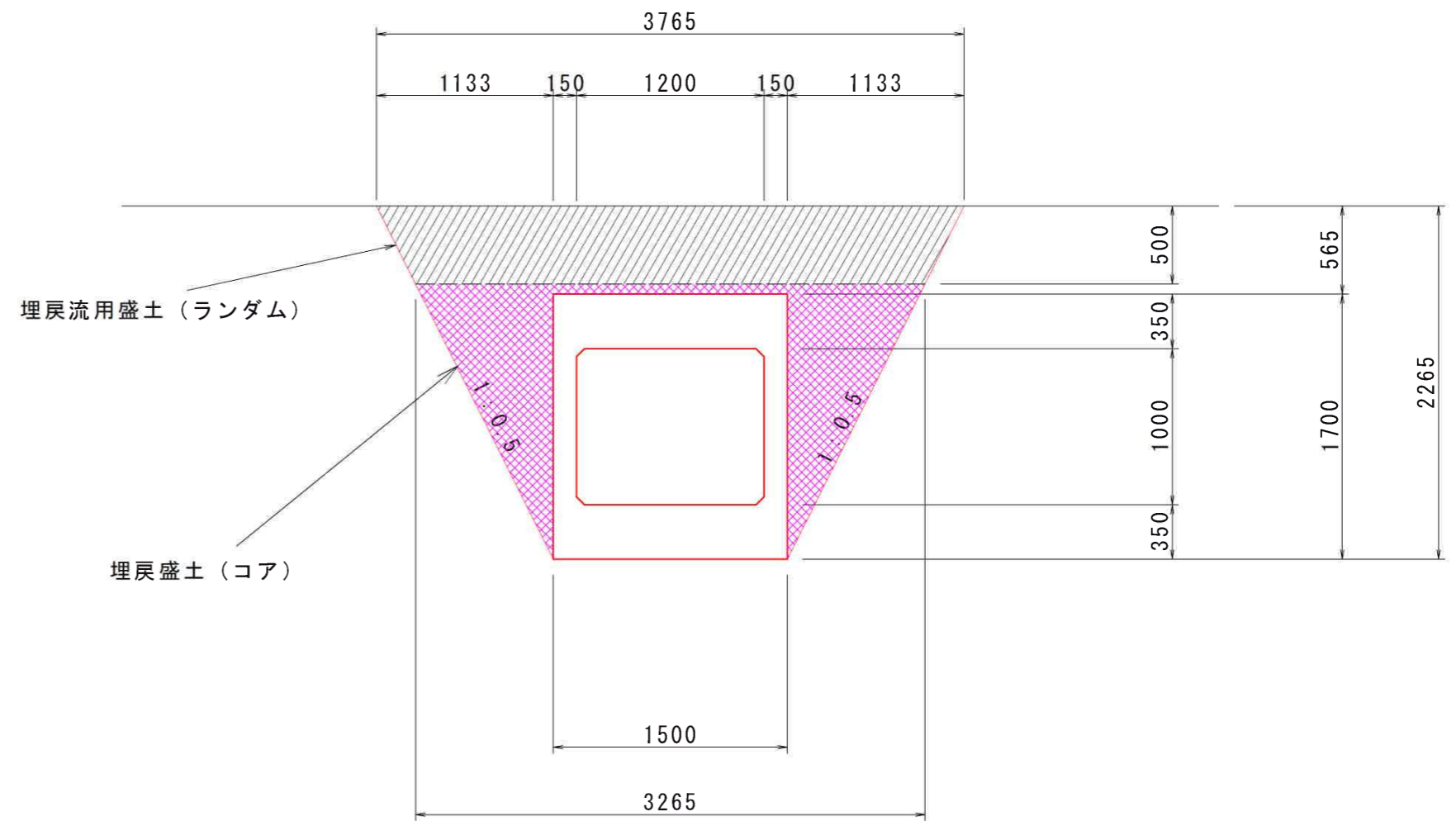
既設洪水吐撤去工平面図

S=1:50



既設洪水吐撤去工工断面図

S=1:20



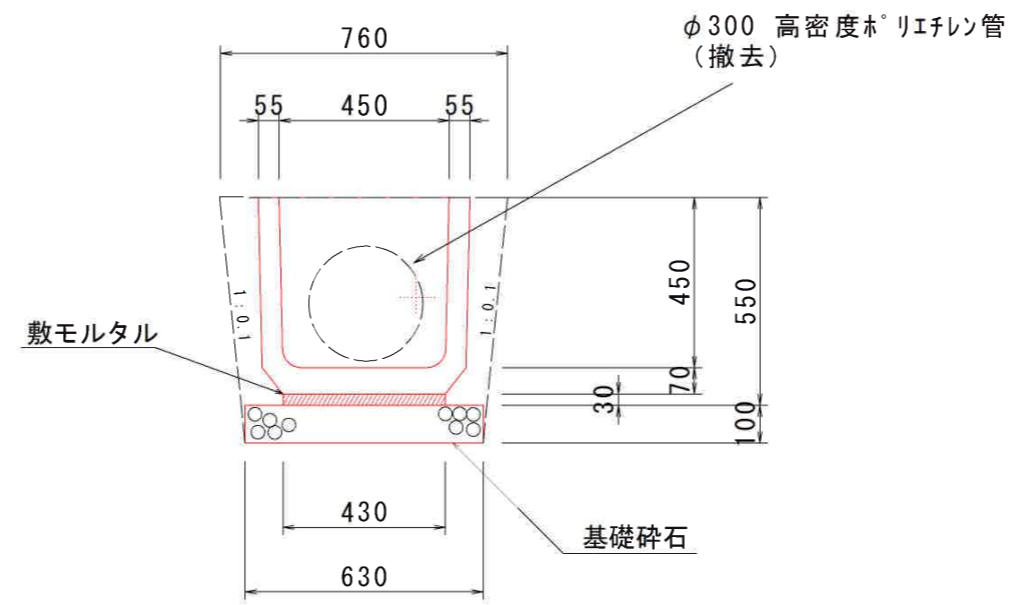
当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷地区ため池改修工事		
図面名	既設洪水吐撤去工図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	7
作業機関			
計画機関	兵庫県加東市		

# 附帯工構造図

## 450トラフ断面図

S=1:30

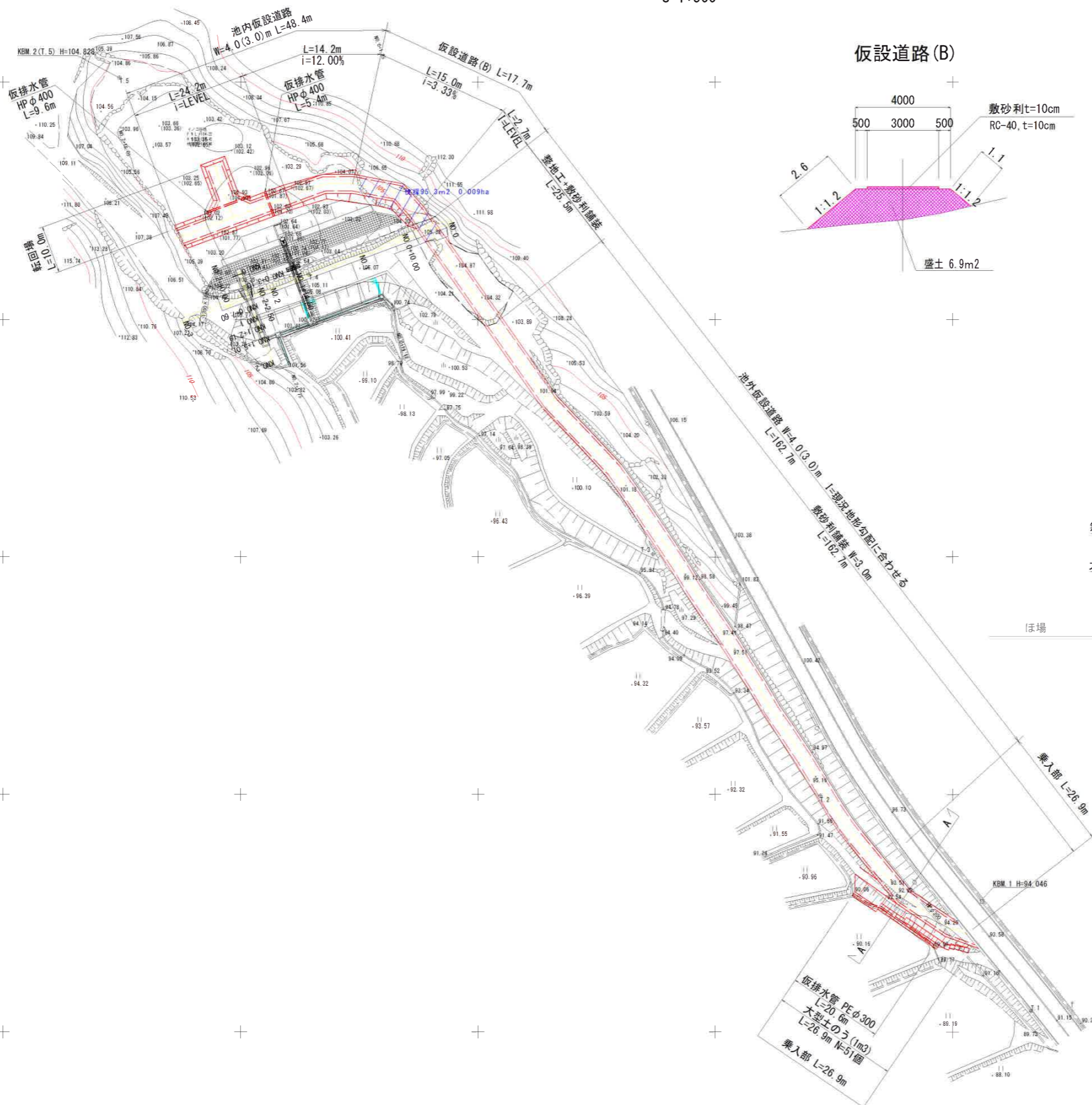
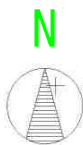


当初

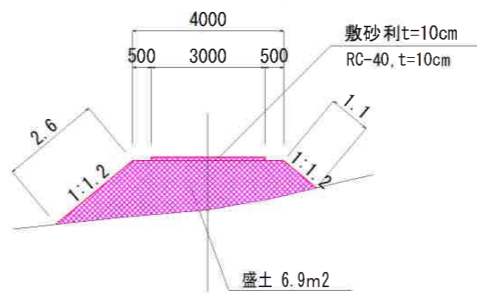
業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ池地区ため池改修工事		
図面名	附帯工構造図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	8
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

# 仮設計画平面図

S=1:500

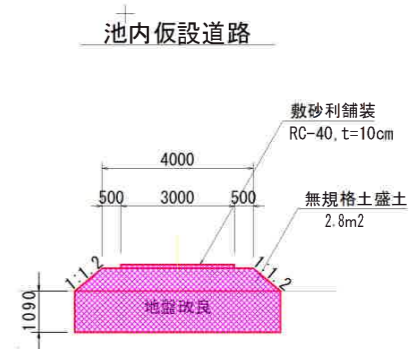


仮設道路(B)

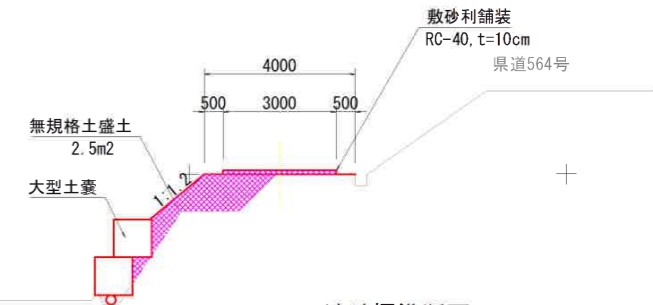


標準断面図

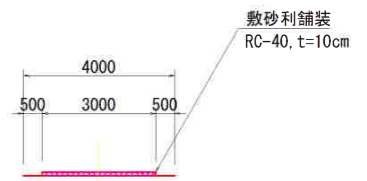
S=1:100



乗入部



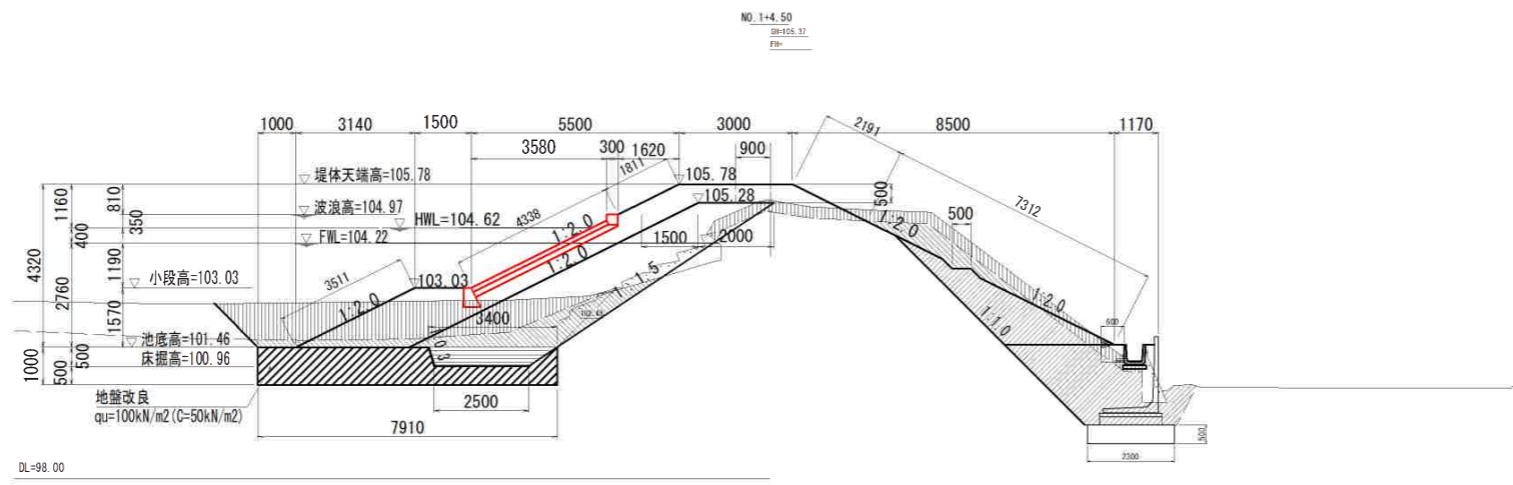
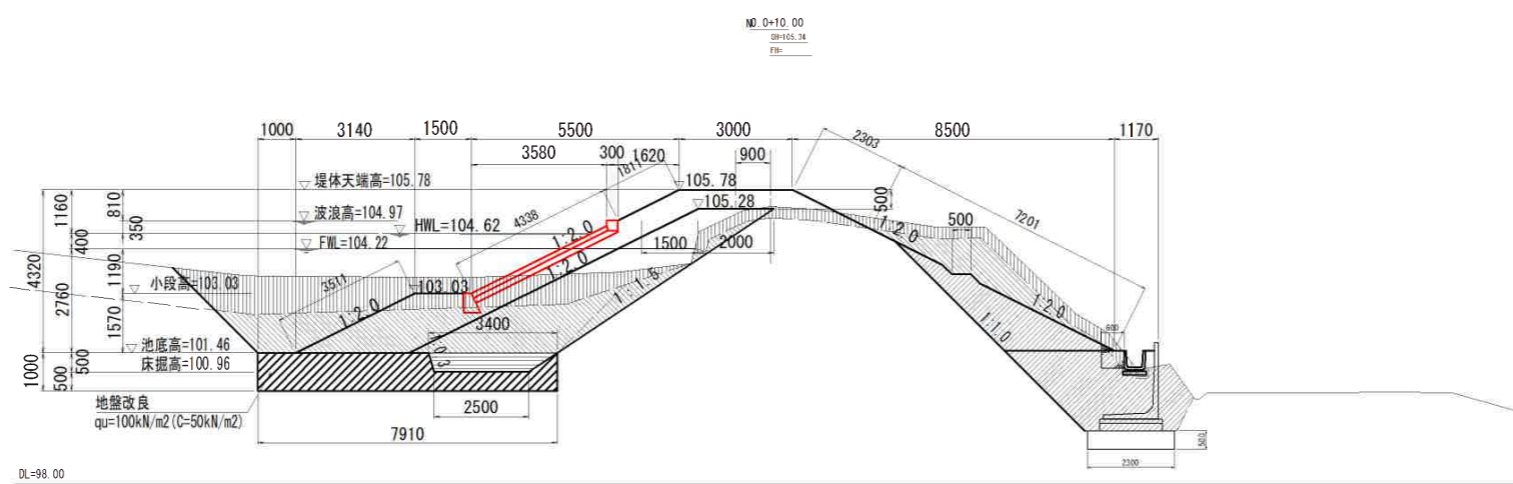
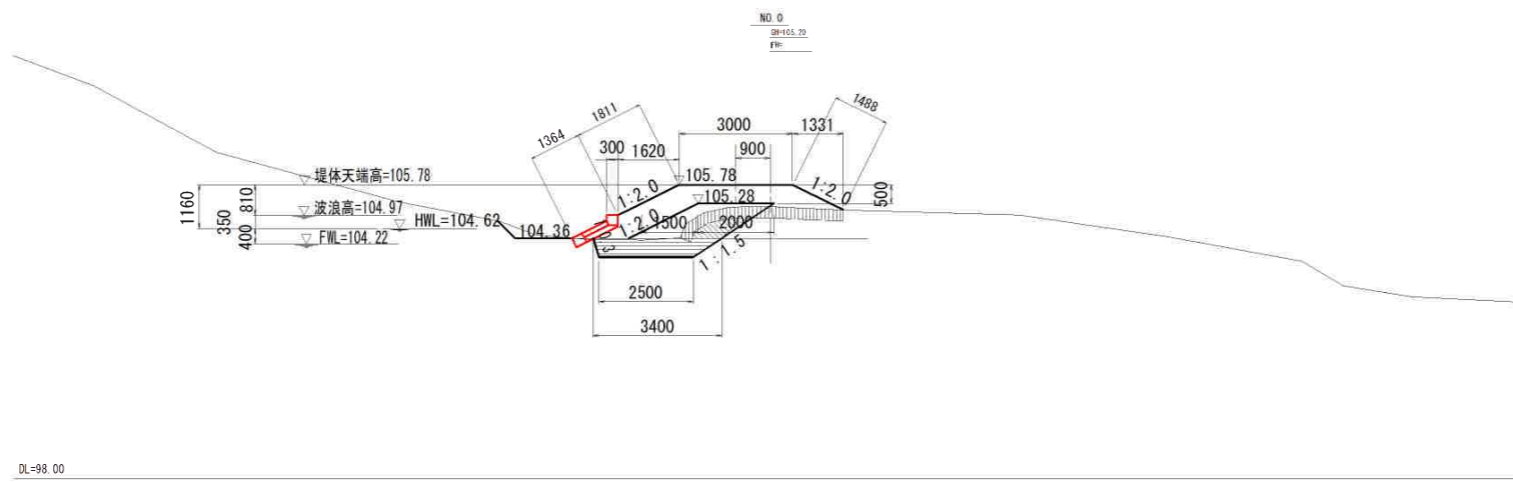
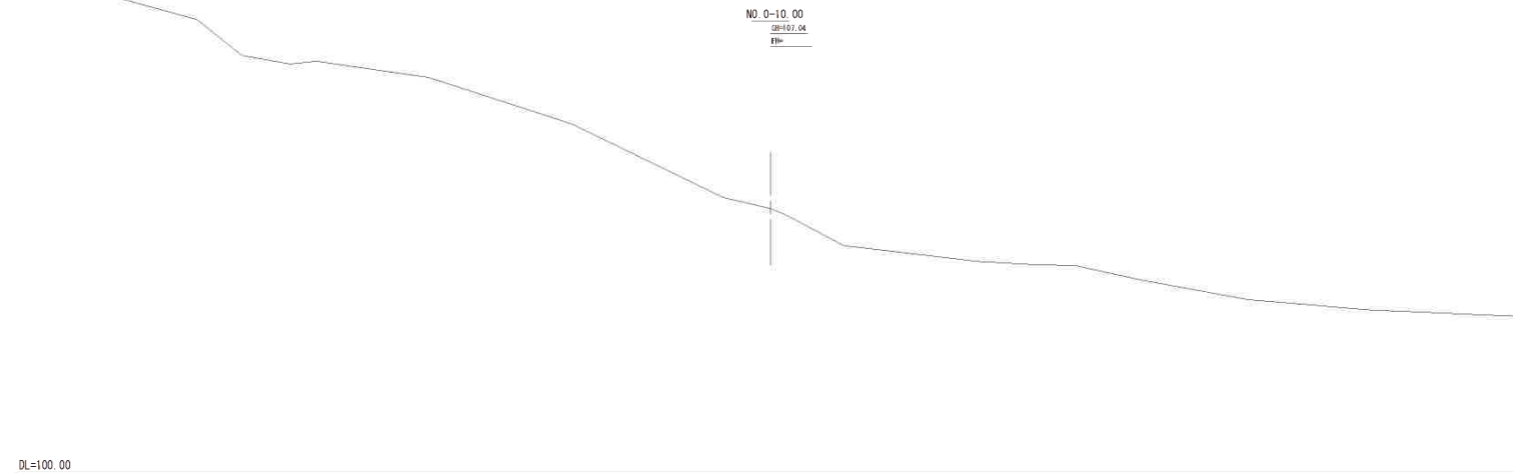
池外標準断面



当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノ谷池地区ため池整備工事
図面名	仮設道路撤去
作成年月日	
縮尺	S=1:500 図面番号 9
作業機関	
計画機関	兵庫県 加東市

堤体横断面図(1) (参考図) S=1:100



表土はぎ	-	m <sup>2</sup>	
コンクリート取壊	-	m <sup>2</sup>	
掘削	直接流用土	- m <sup>2</sup>	
	仮置流用土	- m <sup>2</sup>	
床掘	土砂	- m <sup>2</sup>	
泥土掘削	-	m <sup>2</sup>	
切土面仕上	-	m	
基面整正	コア底面	- m	
ランダム	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>	
	土	2.5 ≤ B < 4.0	- m <sup>2</sup>
		1.0 ≤ B < 2.5	- m <sup>2</sup>
		B < 1.0	- m <sup>2</sup>
コア	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>	
	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>	
仮盛土	上	- m <sup>2</sup>	
	下	- m <sup>2</sup>	
	後	- m <sup>2</sup>	
盛土面仕上	上	- m	
	後	- m	
芝付	後	- m	
表土貼付	後	- m	
掘削	後	- m <sup>2</sup>	
埋戻	改良土埋戻し	- m <sup>2</sup>	

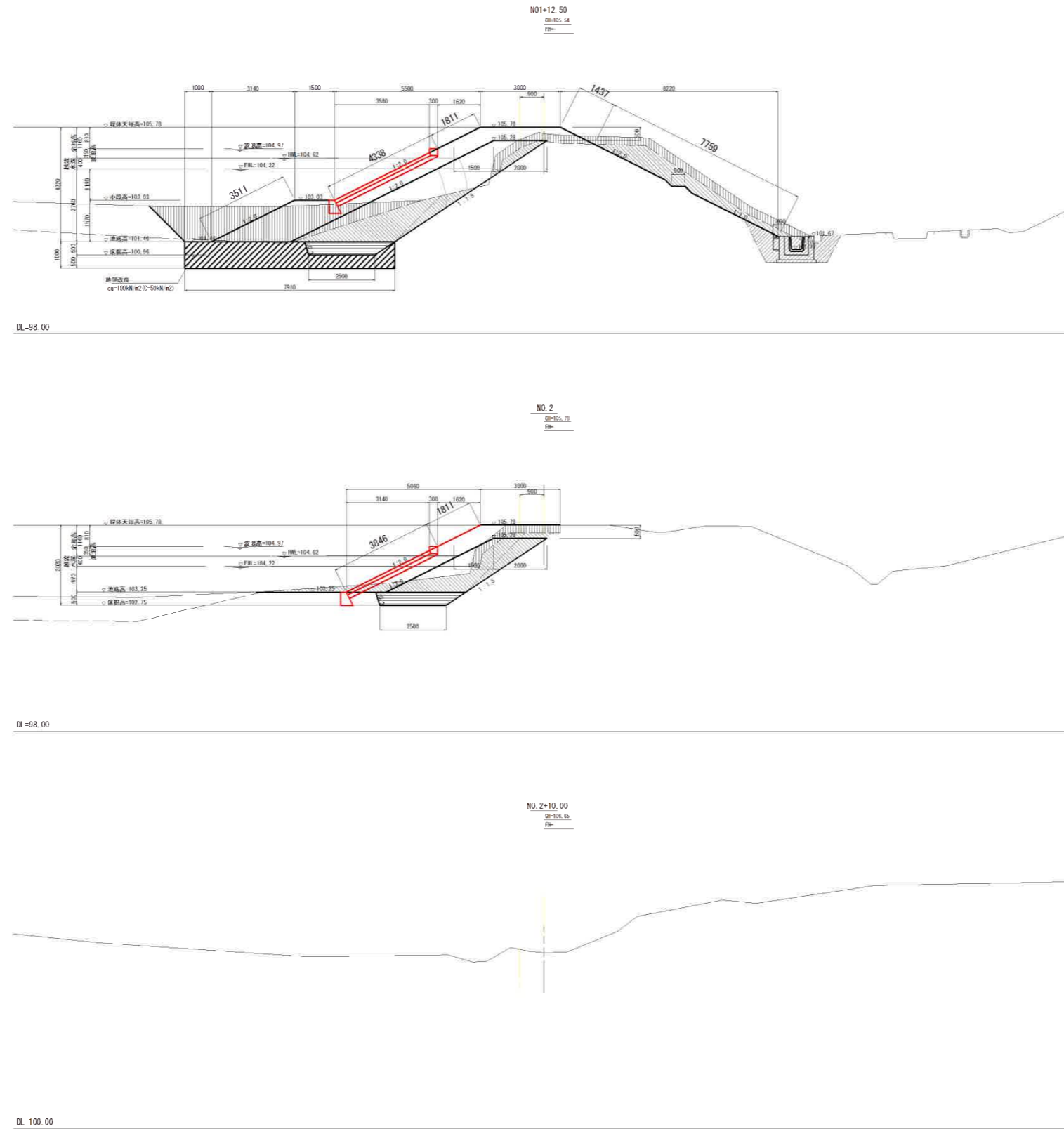
表土はぎ	-	m <sup>2</sup>	
コンクリート取壊	-	m <sup>2</sup>	
掘削	直接流用土	- m <sup>2</sup>	
	仮置流用土	- m <sup>2</sup>	
床掘	土砂	- m <sup>2</sup>	
泥土掘削	-	m <sup>2</sup>	
切土面仕上	-	m	
基面整正	コア底面	- m	
ランダム	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>	
	土	2.5 ≤ B < 4.0	- m <sup>2</sup>
		1.0 ≤ B < 2.5	- m <sup>2</sup>
		B < 1.0	- m <sup>2</sup>
コア	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>	
	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>	
仮盛土	上	- m <sup>2</sup>	
	下	- m <sup>2</sup>	
	後	- m <sup>2</sup>	
盛土面仕上	上	- m	
	後	- m	
芝付	後	- m	
表土貼付	後	- m	
掘削	後	- m <sup>2</sup>	
埋戻	改良土埋戻し	- m <sup>2</sup>	

表土はぎ	-	m <sup>2</sup>	
コンクリート取壊	-	m <sup>2</sup>	
掘削	直接流用土	- m <sup>2</sup>	
	仮置流用土	- m <sup>2</sup>	
床掘	土砂	- m <sup>2</sup>	
泥土掘削	-	m <sup>2</sup>	
切土面仕上	-	m	
基面整正	コア底面	- m	
ランダム	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>	
	土	2.5 ≤ B < 4.0	- m <sup>2</sup>
		1.0 ≤ B < 2.5	- m <sup>2</sup>
		B < 1.0	- m <sup>2</sup>
コア	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>	
	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>	
仮盛土	上	- m <sup>2</sup>	
	下	- m <sup>2</sup>	
	後	- m <sup>2</sup>	
盛土面仕上	上	- m	
	後	- m	
芝付	後	- m	
表土貼付	後	- m	
掘削	後	- m <sup>2</sup>	
埋戻	改良土埋戻し	- m <sup>2</sup>	

当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノ谷池地区ため池改修工事		
図面名	堤体横断面図(1) (参考図)		
作成年月日			
編尺	図示	図面番号	参考-1
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

堤体横断面図(2) (参考図) S=1:100



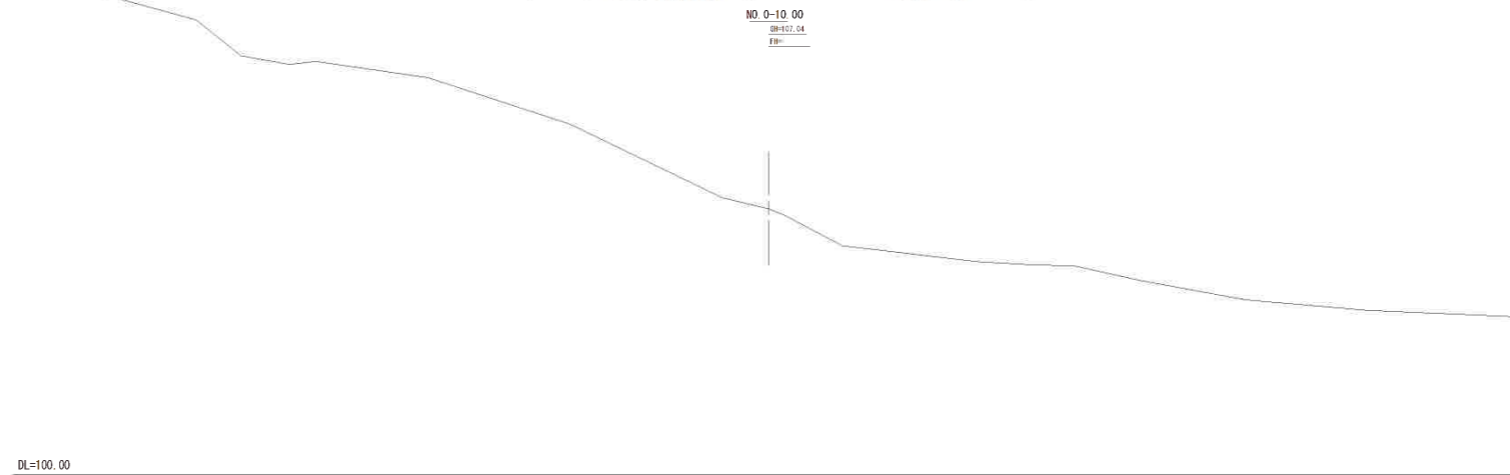
表土はき	-	m <sup>2</sup>
コンクリート取壊	-	m <sup>2</sup>
掘削	直接流用土	- m <sup>2</sup>
	仮置流用土	- m <sup>2</sup>
床掘	土砂	- m <sup>2</sup>
掘削	掘削	- m <sup>2</sup>
切土面仕上	-	m
基面整正	コア底面	- m
ランダム	盛土	B ≤ 4.0 - m <sup>2</sup>
	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>
	土	1.0 ≤ B < 2.5 - m <sup>2</sup>
コア	盛土	B < 1.0 - m <sup>2</sup>
	土	B ≤ 4.0 - m <sup>2</sup>
仮盛土	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>
	上	- m <sup>2</sup>
	下	- m <sup>2</sup>
盛土面仕上	後	- m <sup>2</sup>
	上	- m
	下	- m
芝付	表	- m
表土貼付	後	- m
掘削	後	- m <sup>2</sup>
埋戻し	-	m <sup>2</sup>

表土はき	-	m <sup>2</sup>
コンクリート取壊	-	m <sup>2</sup>
掘削	直接流用土	- m <sup>2</sup>
	仮置流用土	- m <sup>2</sup>
床掘	土砂	- m <sup>2</sup>
掘削	掘削	- m <sup>2</sup>
切土面仕上	-	m
基面整正	コア底面	- m
ランダム	盛土	B ≤ 4.0 - m <sup>2</sup>
	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>
	土	1.0 ≤ B < 2.5 - m <sup>2</sup>
コア	盛土	B < 1.0 - m <sup>2</sup>
	土	B ≤ 4.0 - m <sup>2</sup>
仮盛土	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>
	上	- m <sup>2</sup>
	下	- m <sup>2</sup>
盛土面仕上	後	- m <sup>2</sup>
	上	- m
	下	- m
芝付	表	- m
表土貼付	後	- m
掘削	後	- m <sup>2</sup>
埋戻し	-	m <sup>2</sup>

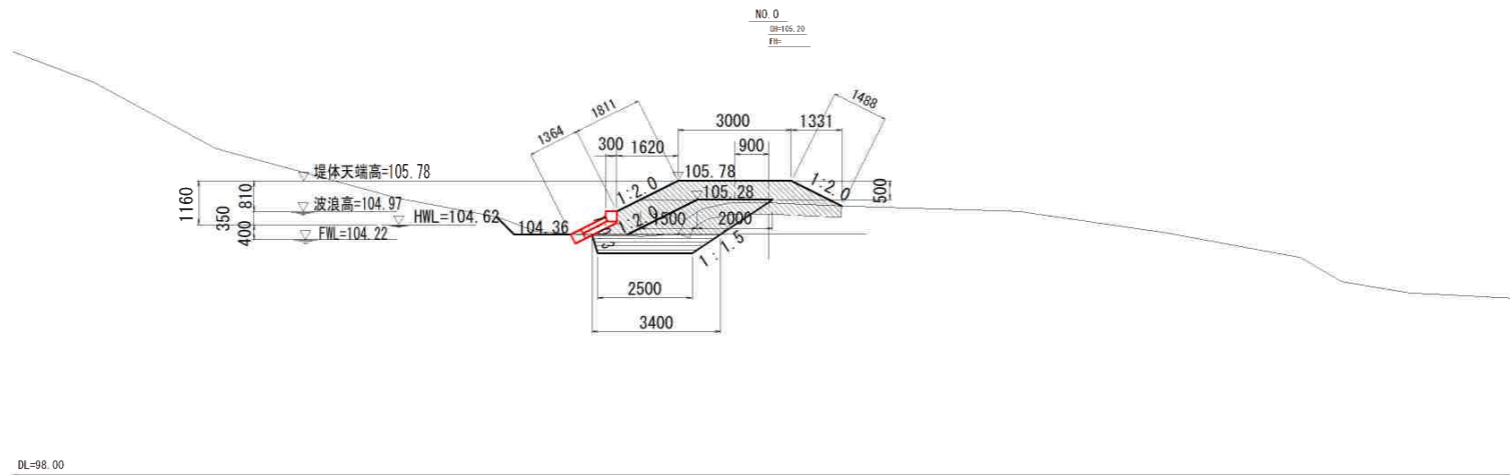
当初

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノコ谷地区ため池改修工事		
図面名	堤体横断面図(2) (参考図)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	参考-2
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		

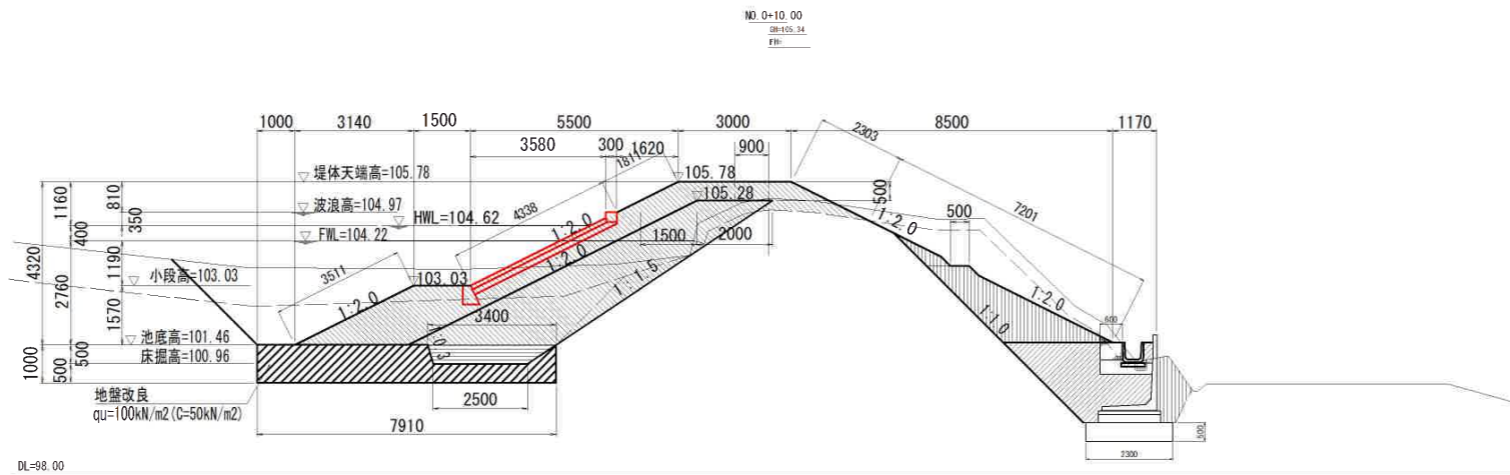
堤体横断面図(3) (参考図) S=1:100



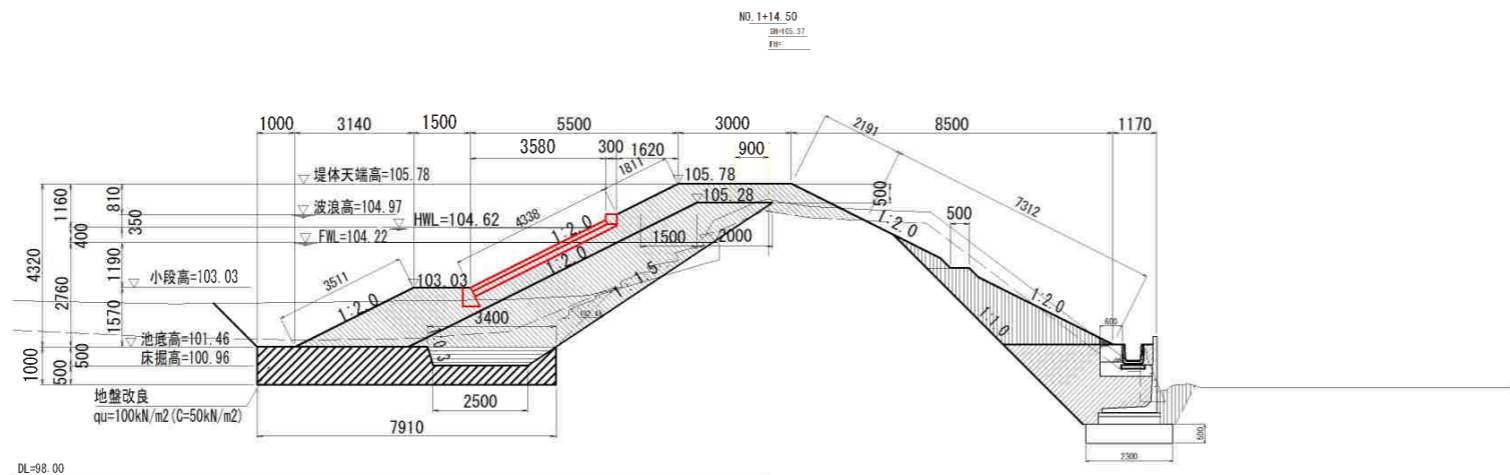
DL=100.00



DL=98.00



DL=98.00



DL=98.00

表土はぎ	-	m <sup>2</sup>
コンクリート取壊	-	m <sup>2</sup>
掘削	直接流用土	- m <sup>2</sup>
	仮置流用土	- m <sup>2</sup>
床掘	土砂	- m <sup>2</sup>
泥土掘削	-	m <sup>2</sup>
切土面仕上	-	m
基面整正	コア底面	- m
ランダム	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>
	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>
		1.0 ≤ B < 2.5 - m <sup>2</sup>
コア	盛	B < 1.0 - m <sup>2</sup>
	土	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>
仮盛土	上	- m <sup>2</sup>
	下	- m <sup>2</sup>
	後	- m <sup>2</sup>
盛土面仕上	上	- m
	後	- m
芝付	後	- m
表土貼付	後	- m
掘削	後	- m <sup>2</sup>
埋戻	改良土埋戻し	- m <sup>2</sup>

表土はぎ	-	m <sup>2</sup>
コンクリート取壊	-	m <sup>2</sup>
掘削	直接流用土	- m <sup>2</sup>
	仮置流用土	- m <sup>2</sup>
床掘	土砂	- m <sup>2</sup>
泥土掘削	-	m <sup>2</sup>
切土面仕上	-	m
基面整正	コア底面	- m
ランダム	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>
	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>
		1.0 ≤ B < 2.5 - m <sup>2</sup>
コア	盛	B < 1.0 - m <sup>2</sup>
	土	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>
仮盛土	上	- m <sup>2</sup>
	下	- m <sup>2</sup>
	後	- m <sup>2</sup>
盛土面仕上	上	- m
	後	- m
芝付	後	- m
表土貼付	後	- m
掘削	後	- m <sup>2</sup>
埋戻	改良土埋戻し	- m <sup>2</sup>

表土はぎ	-	m <sup>2</sup>
コンクリート取壊	-	m <sup>2</sup>
掘削	直接流用土	- m <sup>2</sup>
	仮置流用土	- m <sup>2</sup>
床掘	土砂	- m <sup>2</sup>
泥土掘削	-	m <sup>2</sup>
切土面仕上	-	m
基面整正	コア底面	- m
ランダム	盛	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>
	土	2.5 ≤ B < 4.0 - m <sup>2</sup>
		1.0 ≤ B < 2.5 - m <sup>2</sup>
コア	盛	B < 1.0 - m <sup>2</sup>
	土	B ≥ 4.0 - m <sup>2</sup>
仮盛土	上	- m <sup>2</sup>
	下	- m <sup>2</sup>
	後	- m <sup>2</sup>
盛土面仕上	上	- m
	後	- m
芝付	後	- m
表土貼付	後	- m
掘削	後	- m <sup>2</sup>
埋戻	改良土埋戻し	- m <sup>2</sup>

盛土

業務名	令和7年度 農業水路等長寿命化・防災減災事業 イノ谷池地区ため池改修工事		
図面名	堤体横断面(3) (参考図)		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	参考-3
作業機関			
計画機関	兵庫県 加東市		